はじめに

財団法人名古屋都センターでは、まちづくりや都市計画における新しい課題を先取りし、その解決の糸口を提示するため、できるだけ幅広い視点に立って自主研究を実施しています。自主研究を進めるにあたっては、平成１７年度から１９年度までのメインテーマを「成熟社会における“元気都市”の構築」として調査研究を行っています。

本報告書は、現在、「志段味ヒューマン・サイエンス・タウン」という新しいまちの建設が進められている名古屋市守山区にある志段味地区のこれからのまちづくりについて調査研究を行ったものです。

志段味ヒューマン・サイエンス・タウンの建設に向けては、既に平成９年に事業の進行管理とまちづくりを発展させていくための指針として「ヒューマン・サイエンス・タウン整備計画」が策定されており、「ひと、自然、科学がとけあう環境の創造をめざして」という基本コンセプトが掲げられていますが、策定から１０年が経過した現在、経済・社会情勢、市民ニーズなどは策定当時とは大きく変化しています。

そこで本調査研究では、志段味地区についての概況、上位計画等における位置づけ、関連事業を整理するとともに、将来のまちに対する意識調査から現状の整理を行い、今後の志段味地区のまちづくりについて、整備されたまちをどのように使い、成長させていくかという視点から、まちづくりの方向性、まちの将来像、将来のまちでの新しい生活スタイルについて考察を行いました。

平成２０年３月

財団法人　名古屋都市センター

目　次

Ⅰ　概要編 ..... ⅰ

Ⅱ　本編

第１章　調査の概要 1

１－１　調査の背景と目的 1

１－２　調査研究の流れ 1

第２章　現況等の把握整理 2

２－１　地区の概況 2

２－２　上位計画等における位置づけ １１

２－３　志段味地区におけるまちづくりの現状 １６

第３章　将来のまちに対する意識調査 ２３

３－１　調査の概要 ２３

３－２　アンケート結果 ２５

第４章　まちの将来像の検討 ３４

４－１　課題の整理 ３４

４－２　コンセプトの検討 ３５

４－３　リーディングエリアの設定 ３６

４－４　リーディングエリアにおける取り組み ３９

４－５　新しいライフスタイルの考察 ４８

Ⅲ資料編

アンケート調査票（スクリーニング） 1

アンケート調査票（本調査） 3

研究会について 8

Ⅰ　概要編

志段味地区におけるまちの将来像に関する調査研究

名古屋都市センター　調査課　清水　敏治

1．背景・目的

現在、名古屋市守山区の志段味地区（約900ha）では、「志段味ヒューマン・サイエンス・タウン」という新しいまちの建設が進められている。

その実現に向けては、平成９年に、既に進行中であったヒューマンサイエンスパーク、ガイドウェイバス、土地区画整理などの事業の進行管理とまちづくりを発展させていくための指針として「ヒューマン・サイエンス・タウン整備計画」が策定されており、「ひと、自然、科学がとけあう環境の創造をめざして」という基本コンセプトが掲げられている。

しかしながら、「ヒューマン・サイエンス・タウン整備計画」策定から１０年が経過した現在、経済・社会情勢、市民ニーズなどは策定当時とは大きく変化している。

そこで本調査研究は、まず、志段味地区についての概況、上位計画等における位置づけ、関連事業を整理するとともに、将来のまちに対する意識調査から現状の整理を行った。そして、今後の志段味地区のまちづくりについて、整備されたまちをどのように使い、成長させていくかという視点から、まちづくりの方向性、まちの将来像、将来のまちでの新しい生活スタイルについて考察することを目的に実施した。

2．方法と進め方

本調査研究は、以下のフローのとおり実施した。なお、検討過程においては、研究会を設置し、計３回の研究会を開催した。

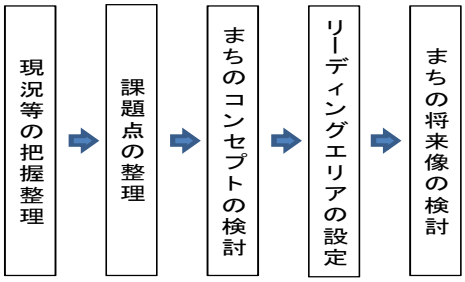


図１　調査研究のフロー

3．現況等の把握整理

（１）地区の概況と位置づけ

①位置・地形等

志段味地区は、名古屋市守山区の北東端にあり、春日井市、瀬戸市及び尾張旭市に囲まれた中に突き出た形をしている。名古屋の中心地（名古屋駅を起点）から約 12～20 ㎞に位置し、北側を庄内川、南側を森林公園、小幡緑地に囲まれている。地区の大部分は市街化区域であるが、名古屋市の最高地点である東谷山（標高 198.3m）周辺は市街化調整区域となっている。

地形は、庄内川に向かって緩やかな斜面を形成し、この斜面に直交する形で庄内川の河岸段丘がいくつも発達している。水と緑が豊かであり、名古屋市の緑被率調査（平成 17 年）では、市全体の緑被率が24.8%であるのに対し、守山区の緑被率は市内１６区で最も高い 41.9%、さらに志段味地区（志段味東・西小学校区の合計。以下、同じ。）では 59.7%となっている。また、守山区には 26 か所のため池があり、市内で最も面積（約 360ha）が大きいが、志段味地区にはそのうちの17か所があり、庄内川、野添川、長戸川などの地区内を流れる河川とともに貴重な水のある環境を形成している。

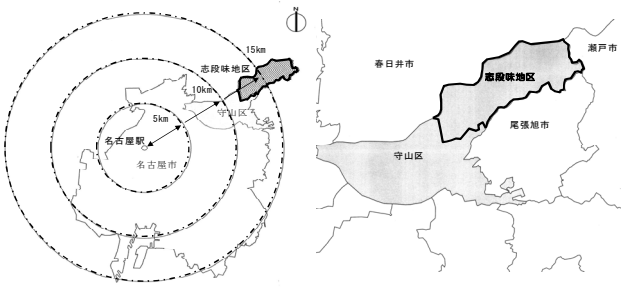


図２　位置図

②歴史

市内には現在およそ 200 基の古墳・遺跡が残っており、このうちの半数以上が守山区に残存している。志段味地区には、東谷山の麓に市内で最も古い時期（４世紀前半）に築かれた墳丘長 119mの前方後円墳で、国史跡の白鳥塚古墳のほか、これに続く時代の古墳も数多く、特に東谷山の麓には、古墳時代（４世紀～７世紀）後期の小型の古墳が集中しており、市内随一の規模を誇っている。

③人口

平成１７年の国勢調査による志段味地区の人口は 20,286 人で、名古屋市の 0.09%、守山区の 12.6%を占めている。人口の推移は、平成 12 年から 17 年にかけて約 25%（4,116 人）増加しており、名古屋市全体の約 2%（43,505 人）、守山区の約 4%（6,885

人）の増加と比較して著しい伸びとなっている。これは、近年、土地区画整理事業等により道路などの都市基盤の整備と宅地供給が進んだためと考えられる。

④道路・公共交通

道路は、地区内の東西軸で都心部と連絡している志段味田代町線をはじめ、骨格及び近隣住区を形成する形で計画的に配置されている。その多くは土地区画整理事業によって整備が進められ、もしくは現在進められており、志段味田代町線と並行する形で地区を東西に縦断している自転車・歩行者道路（志段味線）は、地区の特徴的な道路となっている。なお地区内には、南北に東名高速道路が通過している。

一方、公共交通は、名古屋市の市街地から近距離にもかかわらず、地形的な分断により利便性は高くない。平成１３年のガイドウェイバス志段味線の開業により利便性は向上したが、庄内川を隔てて北側に隣接する春日井市では JR 中央線で、森林公園を挟んで南側に隣接する尾張旭市では名鉄瀬戸線で乗り換えなしに都心部へアクセスできるのと比べると、所要時間、料金ともに十分とはいえない。

⑤主な施設

地区の中央には行政の拠点となる志段味支所があり、小学校区は平成１９年度に新設された吉根はじめ志段味東、志段味西の３つに分かれている。学校は他にも志段味中学校、守山高校、愛知県立看護大学、市内唯一のインターナショナルスクールである名古屋国際学園があり、今後も３つの小学校と２つの中学校の建設が予定されている。また商業施設は、主に志段味田代町線に沿って立地し、地区外も商圏とする大型商業施設があるほか、今後も複数の建設が計画されている。その他、地区の特徴的な施設としては、東谷山フルーツパーク、志段味スポーツランド、先端技術連携リサーチセンターなどがある。

（2）まちづくりの現状

志段味地区において実施又は計画されている主な事業は、以下のとおりである。

①特定土地区画整理事業

上志段味、中志段味、下志段味、吉根の４地区それぞれにおいて土地区画整理事業が都市計画決定され、平成７年度までに特定土地区画整理組合が設立された。４地区全体の施行面積は約 761ha で、計画人口として約 5.5 万人が見込まれている。平成 20 年３月に完了した吉根以外はまだ事業中であり、概ねの進捗率は、上志段味６割、中志段味１割、下志段味８割となっている。

②ガイドウェイバスシステム志段味線

ガイドウェイバスシステム志段味線は、鉄道とバスの利点を組み合わせた新交通システムとして、大曽根から志段味支所までの約 11.3 ㎞に計画され、平成 13 年に大曽根～小幡緑地を高架、小幡緑地～志段味支所を平面走行で開業（運行は大曽根～高蔵寺又は瀬戸みずの坂）している。現在、一日平均約 9.3 千人（高架部のみ）が利用している。なお、平成４年の運輸政策審議会答申では、大曽根・志段味支所間全線の高架化が位置づけられている。

③なごやサイエンスパーク事業

新産業の創造や既存産業における技術の高度化を図ることを基本方針とし、産・学・行政の連携した研究開発拠点の建設を、志段味地区内の４つのゾーンに分散配置して進めている。公的研究機関の集積を図る A ゾーンは、平成 16 年にサイエンス交流プラザが開館するなどほぼ完成し、C ゾーンのテクノヒル名古屋への研究開発型企業の誘致も進んでいる。今後は、大学・研究機関等の誘致が計画されている B ゾーン、市民が先端科学技術にふれる機会を提供するふれあいゾーンの整備が残されている。

④スマートインターチェンジ

ETC 車両のみを対象とした簡易なインターチェンジであるスマートインターチェンジの設置が東名高速道路の守山 PA に計画されている。志段味地区の生活の充実や地域経済の更なる活性化等が進むことが期待され、平成２０年に事業に着手し、平成２２年度に全線が供用される予定である。

⑤歴史の里

上志段味地区に残された帆立貝式古墳、円墳、方墳などの多様な形態の古墳群と河岸段丘を保存・活用し、郷土の歴史と自然を学ぶための体験型の施設として計画され、平成１９～２２年度で全体計画の策定、白鳥塚古墳用地の取得、埋蔵文化財発掘調査が予定されている。

⑥志段味循環型社会対応住宅

人と環境にやさしい住宅を基本コンセプトに、約 3.1ha の敷地面積に、４階建までの共同住宅で約200戸の住宅が計画されている。整備期間は平成２０～２２年度の予定で、「循環型社会に向けて、日差し、風通し等の自然の恵みを活かすことを基本として、効率の良い新しい技術などを取り入れ、資源消費の抑制や環境負荷の低減に配慮するとともに、そこに住まう人が自然をより身近に感じることができ、コミュニティを形成しやすく、子供がのびのび成長できるような住環境の住宅を整備する」としている。

（3）将来のまちに対する意識調査

志段味地区のイメージアップにつながるような、まちの将来像、新しい生活像を検討するにあたり、表１のとおり意識調査を実施し、以下のような結果を得た。

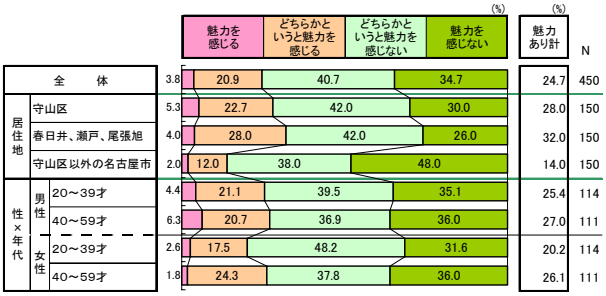
表１　調査概要

調査対象	・守山区、春日井・瀬戸・尾張旭市（志段味に隣接する自治体）、守山区を除く名古屋市の居住者 ・年齢が 20 代～50 代の男女 ・志段味を何らかの形で知っている人
対象人数	守山区（150） 春日井市（50）尾張旭市（50）瀬戸市（50） 守山区以外の名古屋市（150） 計４５０名
調査方法	インターネット調査 （クローズドモニターに対する電子メール告知調査法）
調査実施	平成 20 年３月７日（金）～9 日（日）

①居住地としての志段味の魅力

守山区や春日井・瀬戸・尾張旭市では、3 割前後が「魅力あり」と答えているが、名古屋市内（守山区を除く。以下同じ。）では１割強にとどまった。

問　あなたが今後「引越し」や「住みかえ」を行う場合、「志段味(しだみ)」という地域を居住地として選択することに、どの程度魅力を感じますか。



(%)

		魅力を感じる	どちらかというと魅力を感じる	どちらかというと魅力を感じない	魅力を感じない	魅力あり計	N
全　体		3.8	20.9	40.7	34.7	24.7	450
居住地別	守山区	5.3	22.7	42.0	30.0	28.0	150
	東北部	5.7	8.6	22.9	62.9	14.3	35
	西北部	2.9	17.6	44.1	35.3	20.6	34
	東南部	－	11.1	46.3	42.6	11.1	54
	西南部	－	11.1	33.3	55.6	11.1	27

：全体結果の＋10ﾎﾟｲﾝﾄ以上

注）東北部：中区・東区・千種区・名東区
西北部：北区・西区・中村区
東南部：昭和区・瑞穂区・南区・天白区・緑区
西南部：熱田区・中川区・港区

図３　「引越し先」「住みかえ先」としての魅力度

また、女性の 20 代の魅力度が他の年代に比べて低く、名古屋市内では、志段味に近い西北部（北・西・中村区）で反応が高かった。

魅力を感じる理由は、「豊かな自然」、「今後も発展しそう」などとなっており、魅力を感じない理由は、「交通の便が悪い」、「不便そう」などであった。

②志段味の印象と暮らしたい街のイメージとの比較

「志段味についての印象」と「どのような街で暮らしたいか」について、同じ選択肢で別々の設問として聞いた。

印象については、「自然を感じながら生活できる」（62％）、「身近なところに豊かな自然がある」（59％）の回答が高く、これらは、居住地として志段味に魅力を感じる層では、魅力を感じない層に比べてさらに 10 ポイント以上も高くなっている。一方、暮らしたい街については、「日常の買い物が便利」（82％）、「治安が良い」（74％）、「公共交通が利用しやすい」（73％）への反応が特に高いが、志段味に魅力を感じる層では「自然を感じながら生活できる」が最も高くなっている。

問「志段味(しだみ)」という地域に、あなたはどのような印象をお持ちですか。
問　あなたは、どのような「街」で暮らしたいと思いますか。

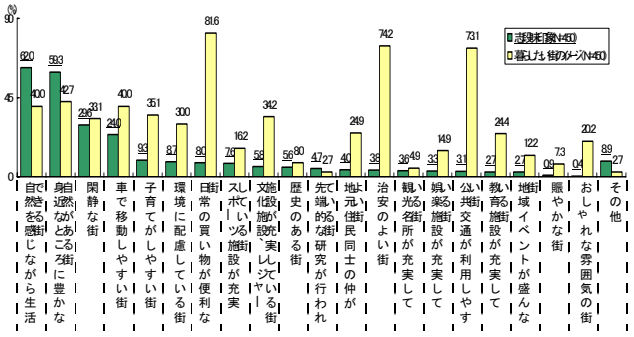


図４　志段味の印象／暮らしたい街のイメージ

以上の２つの設問の結果から志段味の印象と暮らしたい街の関係を図にあらわしたのが図５である。

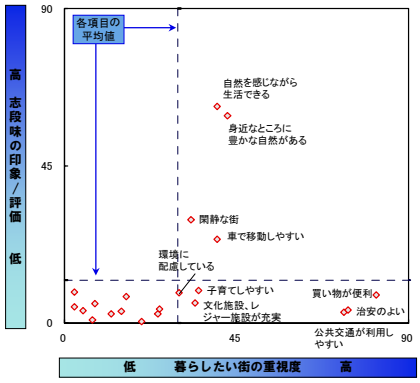


図５　志段味の印象と暮らしたい街の関係

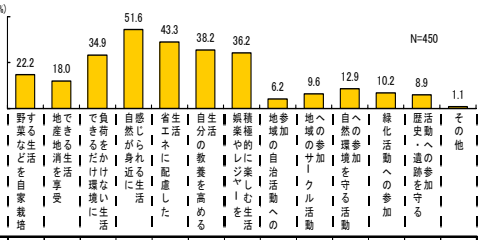
暮らしたい街で重視されている「日常の買い物が

便利」、「治安が良い」、「公共交通が利用しやすい」については、志段味の評価が追いついていないことがわかる。一方、「自然を感じながら生活できる」、「身近なところに豊かな自然がある」は評価が重視度を上回っており、現状の志段味の強さであると考えられる。

③興味を感じるライフスタイル

全体では「自然が身近に感じられる生活」、「省エネに配慮した生活」などへの興味が高く、「地域の自治活動への参加」などへの関心が薄い。また、志段味に魅力を感じる層では、全体と比べて「自然が身近に感じられる生活」、「野菜などを自家栽培する生活」、「自然環境を守る活動への参加」といったライフスタイルに対する反応が高くなっている。

問 あなたが興味を感じる「ライフスタイル」とは、どのようなものですか。



														N
居住地	守山区	21.3	20.7	34.7	56.7	48.0	34.7	34.7	6.0	8.7	14.0	12.0	10.0	–	150
	春日井、瀬戸、尾張旭	25.3	16.0	36.7	58.0	44.7	39.3	34.7	4.7	8.7	12.0	8.0	5.3	2.7	150
	守山区以外の名古屋市	20.0	17.3	33.3	40.0	37.3	40.7	39.3	8.0	11.3	12.7	10.7	11.3	0.7	150
魅力度	魅力を感じる	35.1	25.2	44.1	73.9	53.2	35.1	25.2	6.3	7.2	23.4	18.0	9.9	0.9	111
	魅力を感じる	47.1	17.6	35.3	70.6	29.4	23.5	29.4	0.0	5.9	17.6	11.8	0.0	5.9	17
	どちらかというと魅力を感じる	33.0	26.6	45.7	74.5	57.4	37.2	24.5	7.4	7.4	24.5	19.1	11.7	0.0	94
	魅力を感じない計	18.0	15.6	31.9	44.2	40.1	39.2	39.8	6.2	10.3	9.4	7.7	8.6	1.2	339
	どちらかというと魅力を感じない	19.1	18.0	35.5	51.4	43.7	39.3	38.3	6.6	13.7	12.0	9.3	6.6	1.1	183
	魅力を感じない	16.7	12.8	27.6	35.9	35.9	39.1	41.7	5.8	6.4	6.4	5.8	10.9	1.3	156
性×年代	男性 20～39才	21.9	17.5	30.7	37.7	29.8	36.0	43.9	6.1	8.8	14.0	10.5	6.1	2.6	114
	男性 40～59才	25.2	12.6	30.6	64.9	35.1	31.5	36.9	8.1	12.6	19.8	9.9	11.7	–	111
	女性 20～39才	24.6	18.4	37.7	50.0	53.5	42.1	38.6	3.5	8.8	7.0	9.6	7.0	0.9	114
	女性 40～59才	17.1	23.4	40.5	54.1	55.0	43.2	25.2	7.2	8.1	10.8	10.8	10.8	0.9	111

：全体結果の＋10ポイント以上

図6　興味を感じるライフスタイル

4．まちの将来像等の検討

まちづくりにおいて、居住者が同じような思考や行動を志向していれば、相互理解をしやすく良好なコミュニティが保たれた魅力的なまちを実現することが可能であると考えられる。

そこで志段味地区のまちの将来像の検討は、（1）現況整理を踏まえた「課題の整理」、（2）コミットメント（達成すべき目標、約束）を明確にした「コンセプトの検討」、（3）志段味の特徴、魅力を活かしてまちづくりを先導する「リーディングエリアの設定」、（4）将来像実現に向けた「具体的な取り組みの検討」、（5）将来のまちでの「新しい生活スタイルの考察」の順に行った。

（1）課題の整理

研究会では、現状の良い点として、「都市なのに生物多様性を感じられる」、「多様な環境がこれからの時代に合いやすい」といったことが、一方で危機を感じる点として「このまま土地区画整理事業が進むと他の地区と変わらない個性のないまちとなる」といったことがあげられた。また、意識調査の結果に対しては、「自然が多いなどの肯定的印象と交通の利便が悪いなどの否定的印象が表裏一体となっている」との意見が出された。

そして、これからの志段味地区のまちづくりの課題として、「コミットメント（達成すべき目標、約束）が重要である」、「住む人だけでなく訪れる人も重視する」、「既存計画にこだわらずに全く新しいテーマを前面に出していく」、「守山、春日井、瀬戸、尾張旭の中の志段味としてアピールする」、「身近で豊かな自然が評価される現状を活かす」、「交通インフラなどに不便が感じられる現状をカバーする」などの意見があげられた。

（2）コンセプトの検討

研究会ではコミットメントを明確にしたコンセプトを設定することが重要であると考え、広域的なまちづくりの視点から、「世界に発信できる魅力的なもの」、「世界の人々が魅力を感じる方向性とベクトルを同じくする」、「多くの人が移り住みたくなる」、「インパクトがある」ということについて検討を行った。また、地区のまちづくりの視点から、「良いところを活かしたもの」、「住んでいる人が誇れるもの」、「地区の資産価値が向上するもの」、「持続可能である」、「ゆっくりと時間をかけて行うもの」ということについて検討を行った。しかしコンセプトの設定は、地域の人、専門家の意見を十分に聞いて、じっくりとした構えで行っていくことが重要であり、現段階ではすべての視点を絞り込んでまとめることは困難であるとの結論に至ったため、本研究では今後の課題とした。

（3）リーディングエリアと具体的な取り組み

コンセプトの検討で議論した内容を踏まえ、志段味地区の特徴をあらわすエリアを地区のバランスを考慮して４か所選定し、志段味地区のまちづくりをリードするエリア（リーディングエリア）として位置付けた（図７）。そして、地区全体及び各エリアで、将来につながる取り組みを考えた。

①志段味地区全体

◇新規バス路線の運行

公共交通の選択肢を増やし通勤通学などの利便性を高めるため、名古屋及び栄方面への交通手段として、JR 神領駅、名鉄尾張旭駅へアクセスする路線を新設する。また、買い物や公共施設の利用など地区内での移動の利便性を高めるため、地区内を循環するバスが電話等の要求に応じて迎えに来るデマン

ド小型バスを運行する。
◇歩行者・自転車専用道路の活用
地域の人や企業の協力による清掃や草花などの維持管理、道路との立体交差部で壁面となっている箇所への将来のまちや地域を愛する気持ちを表現したペイント大会などにより愛着を持ってもらい、利用して楽しい空間とする。また、東谷山フルーツパーク・森林公園方面、小幡緑地方面との連続性を高めるための新ルートをつくり、高蔵寺駅、東谷山フルーツパーク、志段味支所、小幡緑地などにレンタサイクルのステーションを設け、地区外から訪れた人にも楽しめる仕組みをつくる。
◇連続したみどりの確保
東谷山、森林公園、小幡緑地など地区南側の“山”から、土地区画整理の“里”、そして北側の庄内川へとつながるみどりのネットワークをつくるため、地区内の河川、ため池などを軸または拠点として、現況の植生やビオトープ空間を地区内に徐々に拡大していく。そのためにガイドラインを策定し、地区内の緑の保全､創出を細かくコントロールする｡また、学区ごとに自然と親しむ会をつくり、体験学習や学区ごとの交流を通してみどり豊かなまちへの取り組みを進める。
◇アドバイザー会議の設置
まちづくりは優れた計画であっても長期的に継続して取り組んでいく人たちがいなくては進行していかない。このため区役所・支所等が主体となって、住民、学識者、市民団体等からなる「新しい志段味をつくるアドバイザー会議」を立ち上げ、志段味地区のまちづくりの方向性や取り組みについて定期的に議論や交流する機会を設ける。そして、この会議が中心となって、地区に居住し、環境共生に配慮したライフスタイルを宣言、実践する人が活動に応じたポイントを取得できる仕組みをつくり、一定のポイントを取得した人を環境ライフスタイルアドバイザーとして認定したり、学区や町内単位でポイントを還元して公園の遊具を更新したりすることにより、地域コミュニティの形成をリードしていく。
②リーディングエリア１（テーマ：歴史・自然）
古墳群などの歴史や周囲の自然環境との調和を印象付けるエリアとして位置づけ、歴史の里や里山などとの調和のとれたまちづくりを進める。
◇歴史の里の活用
古墳群を中心とした歴史の里の整備構想は、地区の財産を大切にするとともに地区のポテンシャルを高めることにもなる。歴史の里を訪れた人が、東谷山、東谷山フルーツパーク、森林公園などを回遊するウォーキングコースやサイクリングコースをいくつもつくり、マップや案内板などを整備して、一日楽しく過ごせる仕掛けをつくる。また、志段味地区をはじめとする古墳の出土品や資料を集め、小中学生が社会科の教材として見学できる展示施設をつくるとともに、自然との関わりを体験し、これからのライフスタイルを考える場とする。
◇里山の整備
居住地と周辺の自然や古墳群がなじんだまちとなるように里山のイメージを創出する。エリアに残る山の緑を土地所有者から借りて住民が協力して維持管理することで自然とのつながりを保った暮らしを考える場とする。また、里山からつながる地区のシンボルとも言える東谷山をいろいろな場所から見てもらい、志段味を象徴する景観として印象に残してもらうため､様々な場所に景観スポットを設置する。景観スポットの設置にあたっては、写真コンテストなどを行い、まだ知られていないビューポイントを発掘し、景観スポットからの景観は、デザイン・ガイドラインなどにより地区の財産として保護する。
③リーディングエリア２（テーマ：科学・教育）
学校と研究機関、研究開発型企業とを融合させるエリアとして位置づけ、生活や居住に直接かかわるような地域貢献が期待できる研究内容とともに建物やその外構がモデルとなるような整備を誘導する
◇研究展示スペースの設置
なごやサイエンスパークのＢゾーンとして立地が予定されている研究機関・研究開発型企業が地区から孤立することなく、まちの中の施設として受け入れられることが大切である。そこで、隣接する志段味東小学校や野添川と結んだ散策ルートをつくり、研究機関・研究開発型企業には施設内に一般開放の見学・展示スペースを用意してもらう。また、見学・展示スペースの周辺には地域の人が気軽に利用できるオープンカフェのようなコミュニケーションの場を提供してもらう。
◇サイエンス教室の開催
小中学生が科学や環境に興味をもってもらうための勉強会を、志段味地区の企業、店舗、研究機関などに参加してもらい実施する。特に、身近な環境への配慮が地球全体に及ぼす影響などについて学ぶプログラムを企画する。また、学校単位で測定した気温や水質調査などのデータ、地区内の居住者が取り組むCO_2削減の取り組みのデータなどを､研究施設が集計、分析し、地区全体の環境改善やCO_2削減の成果を区役所のホームページで公開するなど、誰もが楽しく学び、行動できる仕組みをつくる。
④リーディングエリア３（テーマ：環境・省エネ）
環境に配慮した生活を実践する環境共生エリアと

して位置づけ、循環型社会対応住宅を中心に、環境に負荷をかけないコミュニティの形成を図る。

◇環境共生型モデル住宅の展示と相談

既に計画されている循環型社会対応型住宅を中心に、環境に配慮した住宅やその外構などのモデルをハウスメーカーや電力・ガス会社などの協力を得て配置する。また、身近で容易にできる取り組みの事例や地区内の優れた事例を紹介したりする相談窓口を設け、まち全体へ環境共生やデザインの優れた住宅の普及を促進する。

◇エコカーシェアリングリングの実施

環境に配慮したまちを目指し、地区内から排出するCO_2の削減を進めるため、電気自動車などのエコカーによるカーシェアリングの導入を目指す。エコカーの電源供給は、主にソーラーや風力などのクリーンエネルギーとする。また、方面や時間帯を調整したり、地域の子育て支援の一環として保育園や習い事などへの子供たちの送り迎え、高齢者の集まりをサポートしたりするなど、相乗りを増やしながら利用率を上げるための工夫も行う。

⑤リーディングエリア４（テーマ：食・農）

食の安全と自給自足の中心的な役割を果たすエリアとして位置づけ、集合農地区を活用し、農を中心としたコミュニティをつくる。

◇循環型地産地消システムの展開

集合農地区を中心にして市民農園を開設し、住民が土に触れ自然を感じ、安全な食物を食べることができる機会を増やすとともに、近隣の農業従事者に野菜栽培などのアドバイスを依頼し、地区のコミュニケーションを充実させる。また、志段味地区で生産された野菜などを生産者が直接または地区内のスーパーなどと連携して販売できるようにする。さらにスーパーや飲食店などから排出される生ごみをコンポストでたい肥化して地区で使用するなど、環境に配慮した循環型の地産地消システムを展開する。

◇在来植生の推進

志段味地区には、マメナシやシデコブシなどこの地方固有の樹種も残されているが、昨今、外来種によってもともとの植生が淘汰されるなど生態系の混乱が各地で報告されている。そこで、地区の植生を守り次世代に引き継いでいくため、アドバイザー会議が中心となった勉強会の開催やリーフレットの配布などによって、このような危機的状況の理解を広め、住宅地においても在来種による植栽を実践してもらうよう働きかけを行う。一方で、公共エリアでは率先して在来種による植栽を実施する。また、地区内のホームセンターのガーデニングコーナーや農家などと連携し、地域で採取した種から苗木を生産して販売をするような仕組みを進める。

（5）新しい生活スタイルの考察

これまでの検討内容に基づき、10 年後に志段味地区で暮らす 4 人家族の物語をつくり、新しい生活スタイルの考察を行った。

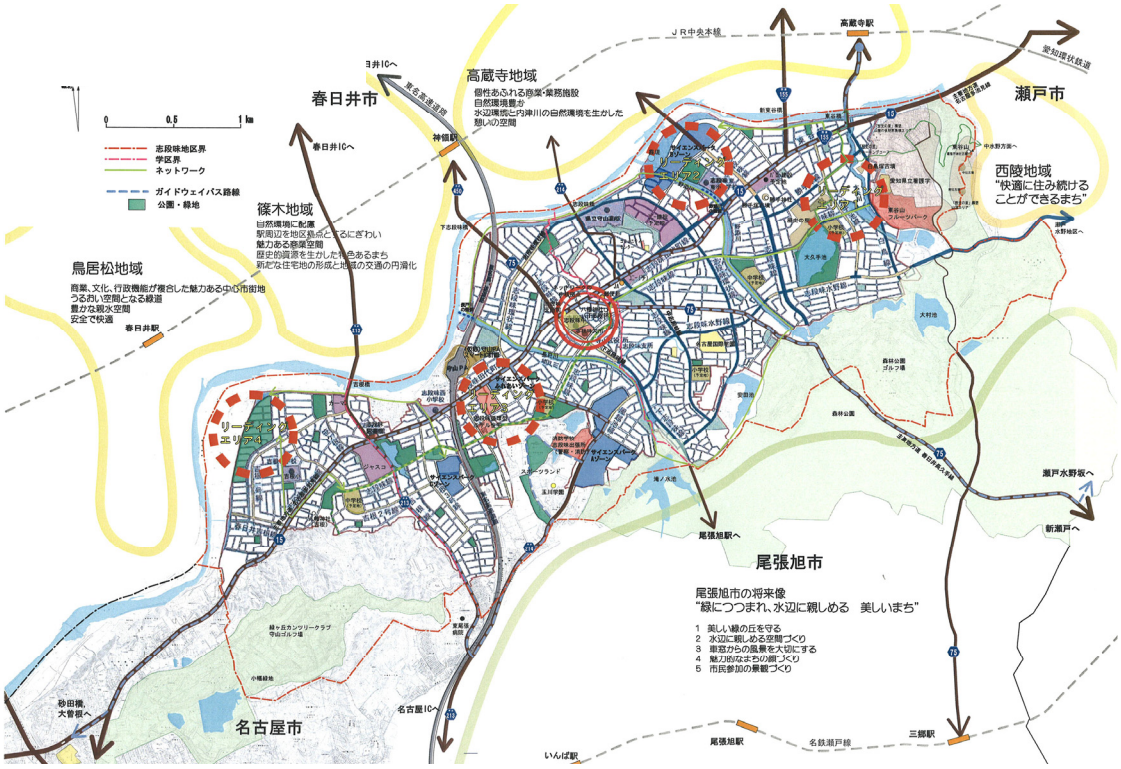


図７　リーディングエリア位置図

Ⅱ　本　編

第１章　調査の概要

１－１　調査の背景と目的

現在、名古屋市守山区の志段味地区（約 900ha）では、「志段味ヒューマン・サイエンス・タウン」という新しいまちの建設が進められている。

その実現に向けては、平成９年に、既に進行中であったヒューマンサイエンスパーク、ガイドウェイバス、土地区画整理などの各事業の進行管理とまちづくりを発展させていくための指針として「ヒューマン・サイエンス・タウン整備計画」が策定されており、「ひと、自然、科学がとけあう環境の創造をめざして」という基本コンセプトが掲げられている。

しかしながら、「ヒューマン・サイエンス・タウン整備計画」の策定から１０年が経過した現在、経済・社会情勢、市民ニーズなどは策定当時とは大きく変化している。

そこで本調査研究では、まず、志段味地区についての概況、上位計画等における位置づけ、関連事業を整理するとともに、将来のまちに対する意識調査から現状の整理を行った。そして、今後の志段味地区のまちづくりについて、整備されたまちをどのように使い、成長させていくかという視点から、まちづくりの方向性、まちの将来像、将来のまちでの新しい生活スタイルについて考察することを目的に実施した。

１－２　調査研究の流れ

本調査研究は、以下のフローのとおり実施した。なお、検討過程においては、学識者１名、市役所職員４名、広告代理店１名、都市計画コンサルタント２名、名古屋都市センター職員２名からなる研究会を設置し、計３回の研究会を開催し、意見交換を行った。

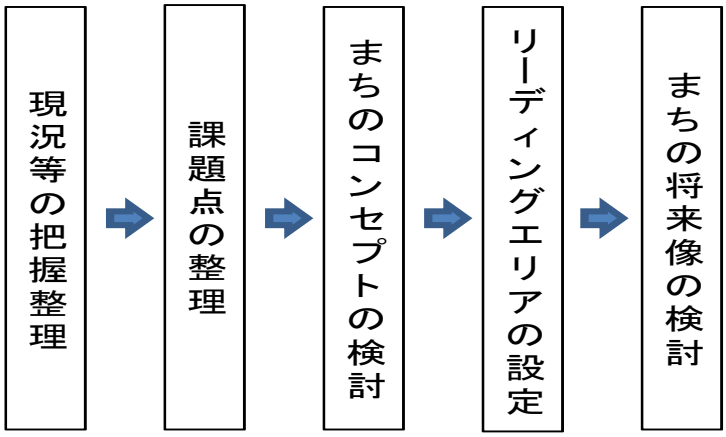


図１－１　調査研究のフロー

第２章　現況等の把握整理

２－１　地区の概況

志段味地区の現況について整理する。

（１）位置及び地形

志段味地区は、名古屋市守山区の北東端にあり、名古屋市の中心地（名古屋駅を起点）から約12～20 ㎞の距離に位置し、隣接する春日井市、瀬戸市及び尾張旭市の中に突き出た形をしている。

北側を一級河川の庄内川、南側を愛知県の森林公園及び小幡緑地によって囲まれた地区内の地形は、名古屋市の最高地点で、瀬戸市との境にある東谷山（標高 198.3m）に連なる南側の丘陵地から、北側の庄内川に向かって緩やかな斜面を形成し、この斜面に直交する形でいくつもの河岸段丘が発達している。

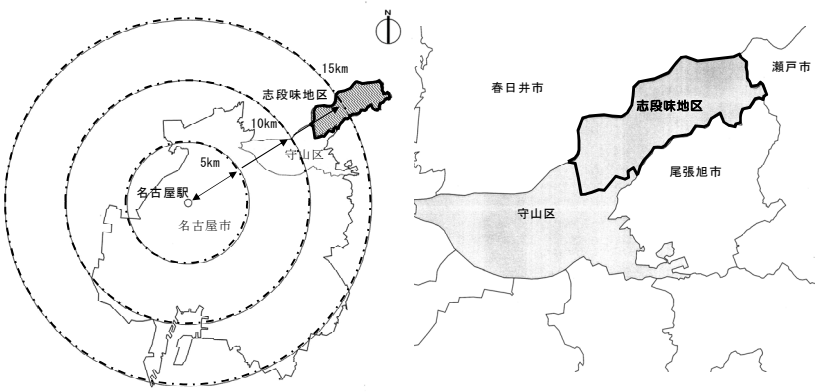


図２－１　位置図

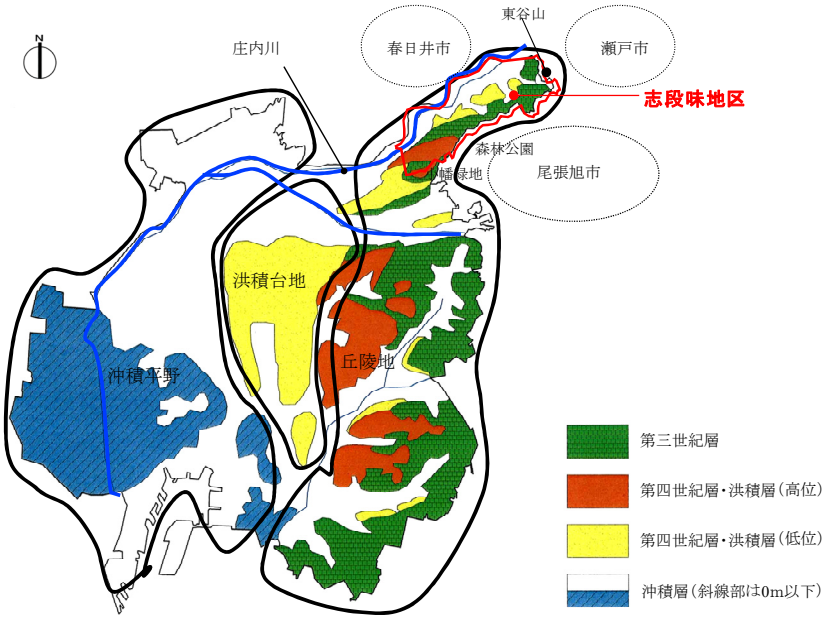


図２－２　地形概略図

（２）自然的環境

①緑被率

平成 17 年の緑被率調査によれば、名古屋市全体の緑被率が 24.8%であるのに対し、志段味地区のある守山区は市内 16 区の中で最も高い 41.9%、さらに志段味地区では 59.7%（志段味東小学校区と西小学校区の緑被率の平均値。以下同じ。）となっており、名古屋市内でも緑が豊かな地区である。ただし、5 年前の調査よりは増加に転じているものの、志段味地区の緑被率は平成 2 年から平成 17 年の 15 年間で 10 ポイント以上減少している。

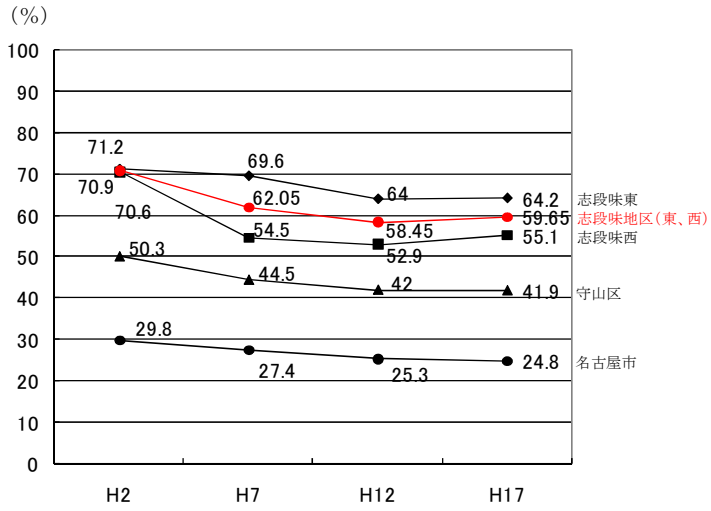


図２－３　緑被率の変化（名古屋市「緑の現況調査報告書」より作成）

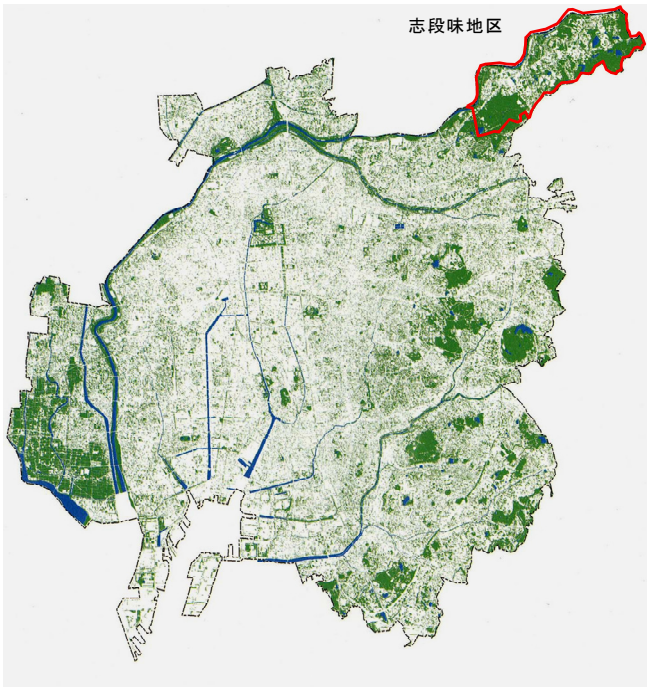


図２－４　名古屋市の緑被地の現況（名古屋市「緑の現況調査報告書（平成 17 年度）」より作成）

②河川・ため池

志段味地区の北側には、名古屋市の市域に沿って流下し、伊勢湾に注いでいる一級河川の庄内川が流れており、地区内には、庄内川へと合流する野添川（延 1.85 ㎞）や長戸川（延 2.1 ㎞）などの小河川が流れている。

また、志段味地区には、多くのため池があり、庄内川、野添川、長戸川などの河川とともに、貴重な水のある景観をつくるとともに、動植物の生息空間となっている。

表２－１　志段味地区の主なため池

名称	面積（㎡）	名称	面積（㎡）
平池	16,116	カケヒ池	650,052
白ノ後池	2,975	大村池	11,371
東禅寺上池	6,942	蛭池	631,594
東禅寺中池	3,471	石ひろい池	8,228
風越池	16,694	神池	8,856
風越上池	5,393	東谷池	27,760
滝ノ水池	100,680	新池	16,902
安田池	62,068	馬船池	7,933
大久手池	70,466		

（名古屋都市センター「平成 18 年度　市民研究報告書（東区・守山区）」より作成）

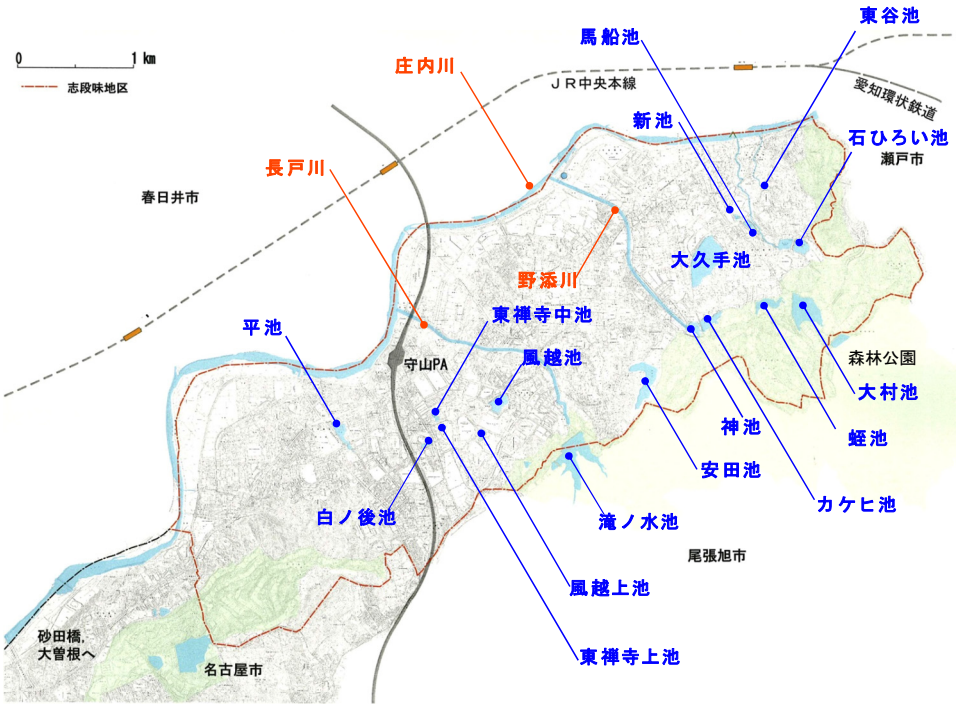


図２－５　志段味地区の主な河川とため池

（３）歴史

現在、市内に残されているおよそ 200 基の古墳・遺跡のうち、半数以上は守山区に残存している。そのうち、志段味地区には、市内で最も古い時期（４世紀前半）に築かれた墳丘長 119mの前方後円墳である国史跡の白鳥塚古墳のほか、これに続く時代の古墳も数多く、特に東谷山の麓には、古墳時代（４世紀～７世紀）後期の小型の古墳が集中しており、市内随一の規模を誇っている。

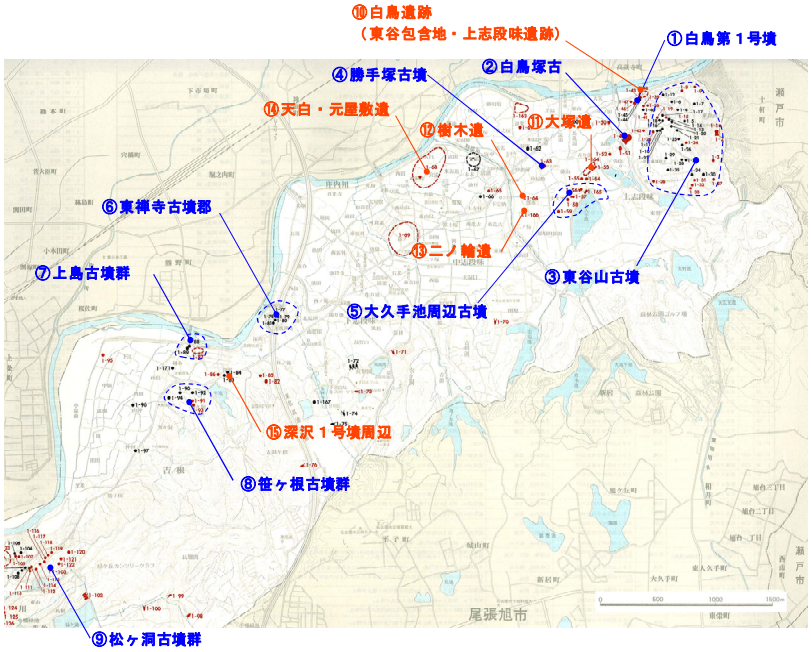


図２－６　志段味地区の古墳と遺跡（名古屋市「名古屋市遺跡分布図（守山区）」より作成）

（４）人口

平成１７年の国勢調査による志段味地区の人口は 20,286 人（志段味東小学校区と西小学校区の合計）で、名古屋市の 2,215,062 人の 0.9%、守山区の 12.6%を占めている。また、人口の推移は、近年、土地区画整理事業等によって道路などの都市基盤の整備と宅地供給が進んだことを背景に、平成 12 年から 17 年にかけて約 25%（4,116 人）増加しており、名古屋市全体の約 2%（43,505 人）、守山区の約 4%（6,885 人）と比較して著しい伸びとなっている。

表２－２　人口推移

	S55	S60	H2	H7	H12	H17
①名古屋市	2,087,902	2,116,381	2,154,793	2,152,184	2,171,557	2,215,062
②守山区	133,953	139,824	144,897	148,919	154,460	161,345
③志段味地区	**11,370**	**13,192**	**13,503**	**13,540**	**16,170**	**20,286**
③/①	0.5%	0.6%	0.6%	0.6%	0.7%	0.9%
③/②	8.5%	9.4%	9.3%	9.1%	10.5%	12.6%

（「国勢調査結果」より作成）

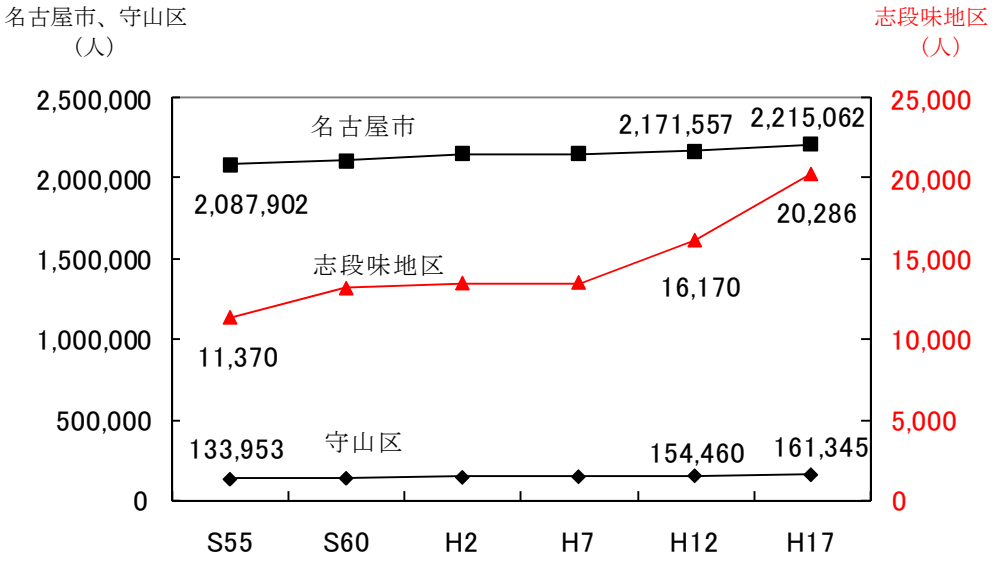


図２－７　人口推移（「国勢調査結果」より作成）

（５）道路及び公共交通機関

①道路

志段味地区には、骨格を形成する幹線道路及び補助幹線道路として、名古屋市の都心部と連絡する志段味田代町線や風越池線、志段味水野線などが東西の軸として、また、地区を縦断する上志段味線、下志段味線、吉根線などが南北軸として、格子状に配置されるとともに、志段味環状線が地区中心をほぼ一周する形で環状に配置され、道路網を形成している。

そのほか志段味地区には、特徴的な道路として、志段味田代町線と並行する形で地区を東西に縦断している志段味線と、その志段味線に接続する笹ヶ根線が、自転車及び歩行者が快適かつ安全に通行ができるよう自転車歩行者専用道路として配置されている。

なお、地区内には南北に東名高速自動車道が通過している。

表２－３　主な道路

（幅員１６ｍ以上の道路）

路線名	幅員（ｍ）	延長（ｍ）	路線名	幅員（ｍ）	延長（ｍ）
志段味田代町線	２５	５，８２７	風越池線	１６	９５１
上志段味線	２３	１，８５５	志段味環状線	１６	４，８９５
吉根線	１６	１，７０４	大久手池線	１６	１，０８１
下志段味線	１６	２，２１１	勝手塚線	１６	８４０
白鳥線	１６	１，３１７	志段味水野線	１６	２，３５２
東谷線	１６	７３４	中志段味線	１６	１，８４７

（自転車歩行者専用道路）

路線名	幅員（m）	延長（m）	路線名	幅員（m）	延長（m）
志段味線	１２	４，５８２	笹ヶ根線	８	５９６

②公共交通機関

志段味地区における公共交通機関の利便性は、平成１３年のガイドウェイバス志段味線の開業により向上した。しかし、庄内川を隔てて北側に隣接する春日井市ではJR中央本線で、森林公園を挟んで南側に隣接する尾張旭市では名鉄瀬戸線で乗り換えなしに直接都心部へアクセスできるのと比べると、運行本数は同程度（通勤通学時間帯で１時間に１２本程度）であるものの、所要時間、利用料金ともに十分とはいえない。

表２－４　都心部へのアクセス

出発地点	公共交通機関（乗り換え）			目的地点	計
志段味支所	ガイドウェイバス ２６分、４２０円	（大曽根）	JR中央本線 １２分、１９０円	名古屋	３８分 ６１０円
			地下鉄 １２分、１９０円	栄	３８分 ６１０円
高蔵寺 （春日井市）	JR中央本線 ２７分、１９０円			名古屋	３８分 ６１０円
	JR中央本線 １２分、１９０円	（大曽根）	地下鉄 １２分、１９０円	栄	３８分 ６１０円
尾張旭 （尾張旭市）	名鉄瀬戸線 ２２分、３９０円	（栄）	地下鉄 １２分、２００円	名古屋	３８分 ６１０円
	名鉄瀬戸線 ２２分、３９０円			栄	２２分 ３９０円

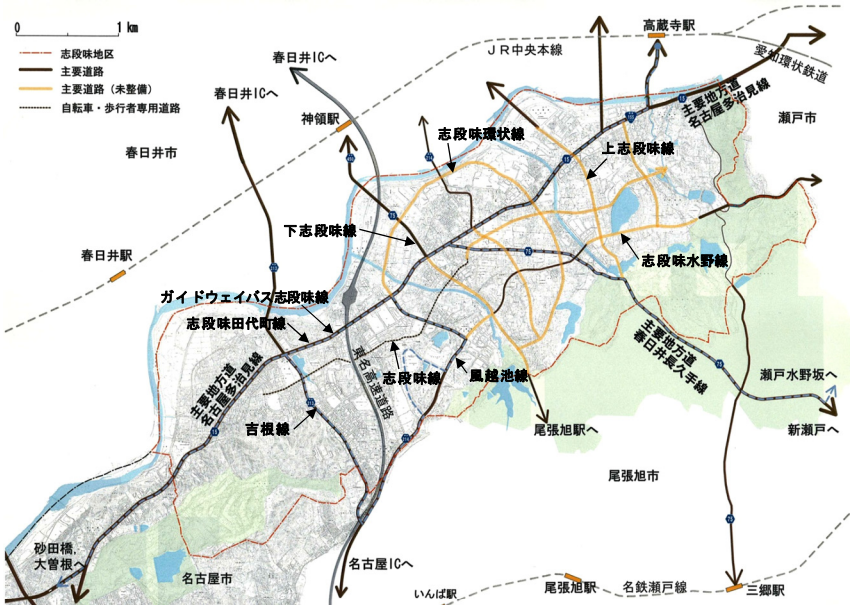


図２－８　志段味地区の道路

（６）主な施設

志段味地区に立地する主な施設をまとめると表２－５のようになる。行政の拠点となる守山区の志段味支所は志段味地区の中央にあり、コミュニティを形成する基礎的なまとまりである小学校区は、平成 18 年度までは志段味東、志段味西の 2 つであったが、平成 19 年度からは志段味西学区が加わり３つに分かれている。また、日用品や食料品などの購入場所となる商業施設は、志段味田代町線（名古屋多治見線）沿いを中心に立地しており、吉根地区には、志段味地区外も商圏とする大型ショッピングセンター（ジャスコ）が位置している。

このほか、世界の熱帯果樹温室、各種果樹園などで世界の果実が楽しめ、春には 1000 本余のシダレザクラが咲き乱れ花見の名所としても知られている「東谷山フルーツパーク」や、体育館、野球場、テニスコート、屋外プールなどを備えたスポーツレクリエーション施設である「志段味スポーツランド」、産業界、大学、公的研究機関など、産・学・行政が連携し、先端技術に関する研究が行われている「先端技術連携リサーチセンター」などがある。

表２－５　志段味地区の主な施設

No.	名　称	No.	名　称
①	志段味支所	⑫	吉根小学校
②	志段味出張所（警察、消防）	⑬	志段味中学校
③	志段味図書館	⑭	県立守山高校
④	志段味郵便局	⑮	愛知県立看護大学
⑤	コミュニティセンター	⑯	名古屋国際学園
⑥	東谷山フルーツパーク	⑰	玉野川学園
⑦	白鳥塚古墳	⑱	ジャスコ
⑧	先端技術連携リサーチセンター	⑲	カーマホームセンター
⑨	志段味スポーツランド	⑳	ヤマダ電機
⑩	志段味東小学校	㉑	勝手神社
⑪	志段味西小学校	㉒	尾張戸神社

２－２　上位計画等における位置づけ

志段味地区の名古屋市における位置づけ、隣接地区の隣接市における位置づけを整理する。

（1）名古屋市における位置づけ

①名古屋新世紀計画２０１０

名古屋市基本構想に基づく第 3 次の長期総合計画であり、平成２２年度を目標年次とし、生活、環境、文化、産業のすべてにわたって調和のとれた「誇りと愛着の持てるまち・名古屋」をめざしている。この計画における第 3 次実施計画（平成 19～22 年度）では、「つながる元気　ひろがる協働」を目標に掲げ、その実現のために、「環境」、「交流・産業」、「安心・安全」、「ひと・未来」の 4 つの重点テーマを設定し、取り組みをすすめている。

表２－６　名古屋市における位置づけ

市の重点テーマ	志段味地区（守山区）関連
環境 環境にやさしいライフスタイルの確立 身近な自然の保全と創出 環境にやさしく人にもやさしい都市の形成	・ 循環型社会対応住宅の整備 ・ 長戸川・野添川の整備
交流・産業 武家文化・ものづくり文化など名古屋の個性の発信 新たな拠点の形成による活力の向上 芸術文化を育む環境づくり、交流基盤としての道路網の整備 活力に満ちた産業の育成	・ 区画整理に伴った道路網整備（スマート IC 含） ・ 商業施設の活性化支援 ・ 東谷山フルーツパークの魅力づくり ・ サイエンスパークの建設推進
安心・安全 高齢者や障害者のいきいきとした生活の実現 健康な生活の支援 災害に強いまちづくり 防犯対策などへの取り組み	・ 雨水貯留施設などの整備により浸水対策の充実をはかった災害に強いまちづくり
ひと・未来 次世代育成の支援 教育の充実 人権の尊重 男女平等参画の推進	・ 保育所の整備 ・ 児童自立支援施設（玉野川学園改築） ・ 過大規模小学校の解消（吉根小学校） ・ 支所管内図書館の新設（済） ・ 文化遺産を次世代に引き継がれていくよう、白鳥塚古墳など歴史的財産の案内表示などを整備し、郷土の歴史を学ぶ「歴史の里」を整備

図２－１０　地域別計画：守山区（名古屋市「名古屋新世紀計画２０１０第３次実施計画」より作成）

②名古屋都市計画マスタープラン

名古屋新世紀計画 2010 の策定にあわせて都市計画に関わる部分を広くとりまとめたものであり、将来の都市像、土地利用の方針、都市整備に関連する計画、地域別の将来構想などを示している。市域を「都心域」、「既成市街域」、「新市街域」、「港・臨海域」の 4 つのゾーンに大別し、名古屋大都市圏の諸都市などとの交流・連携の強化をはかる１１の地域を「交流拠点」と位置づけ、それぞれの地域の特徴や資源を生かしたまちづくりを重点的に進めることとしている。

志段味地区は交流拠点の１つであり、新市街域として自然環境や農地などと調和したゆとりあるまちの形成につとめる地域として位置づけられている。

なお、地域別の将来構想における守山区の将来構想では、「人と人がふれあい支えあうまち」、「生活しやすく快適なまち」、「将来の産業を支える科学技術のまち」、「人と自然にやさしいまち」、「歴史を次代に伝えるまち」の 5 つの構想を掲げている。

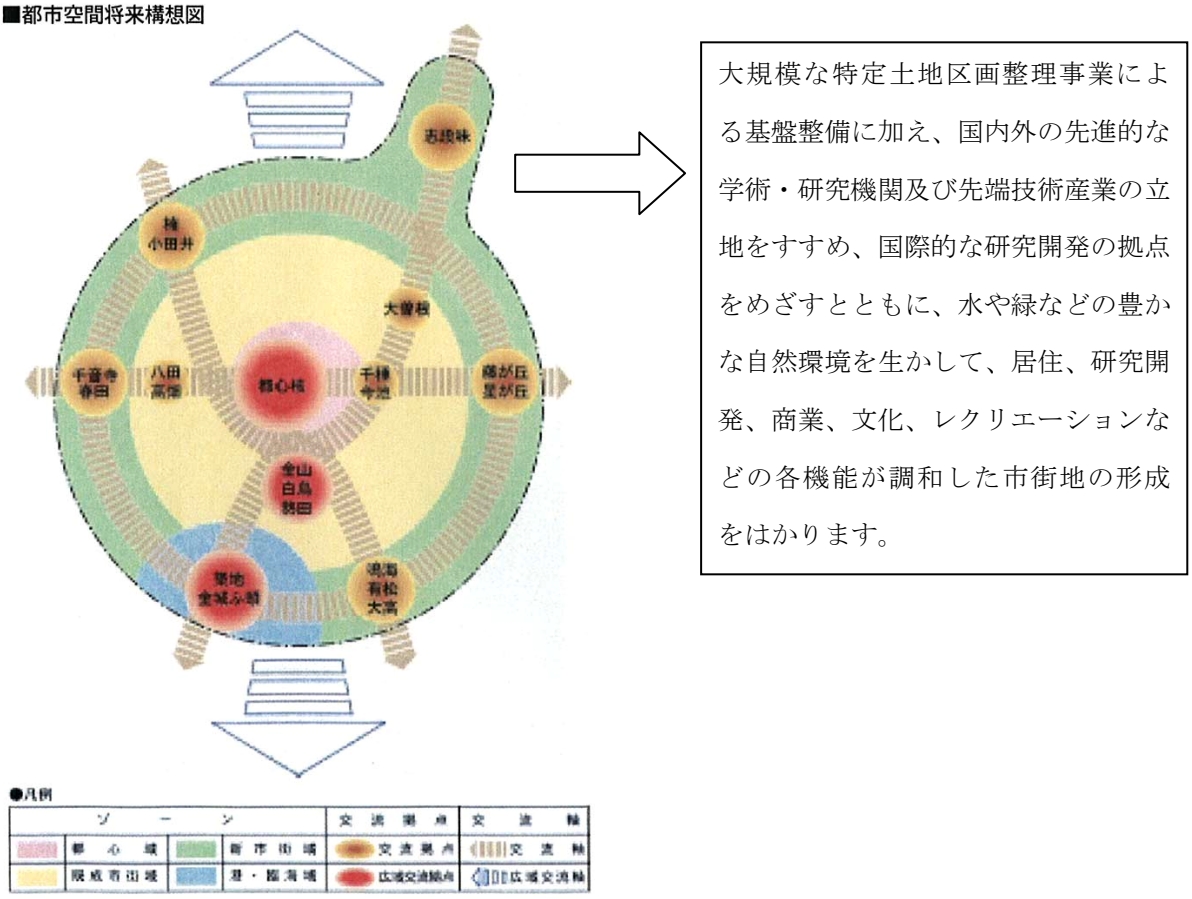


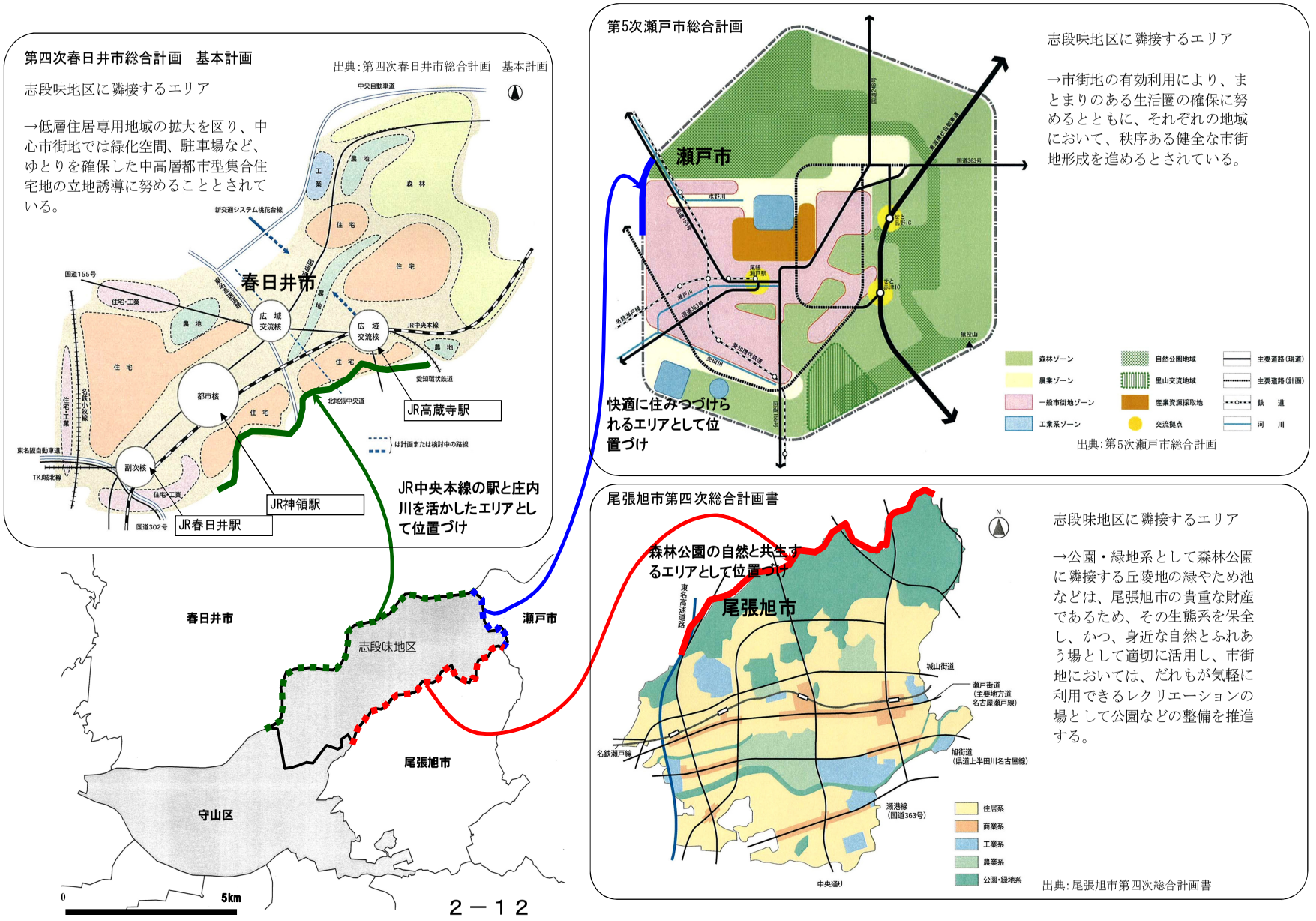
図２－１１　都市空間将来構想図（名古屋市「名古屋都市計画マスタープラン」より作成）

（2）隣接地区の位置づけ

志段味地区の北部は庄内川を隔てて春日井市、北東部は瀬戸市、南部は尾張旭市に接している。隣接地区の位置づけは、春日井市では庄内川に沿って JR 中央本線が通っている為、駅周辺では商業集積、交流機能等の形成に努める計画となっている。瀬戸市（志段味の接するエリア）では交通結節点となる、鉄道などを中心とした生活拠点を形成することとされている。尾張旭市では名鉄瀬戸線が瀬戸市へつながっており、志段味に接するエリアでは森林公園を活かしていく計画となっている。

表２－７　隣接市における位置づけ

市	計　画	将来像	概要・キーワード
春日井市 （高蔵寺、篠木、鳥居松、勝川地区）	「第四次春日井市総合計画　基本計画」	健やかな暮らしに活力あふれるまち　春日井	・ JR 駅周辺地区を地域拠点 ・ 庄内川、内津川、地蔵川、緑道 ・ 商業空間、文化、行政機能 ・ 地域の交通の円滑化 ・ 水と緑が調和した住宅地 ・ 安全で快適な住宅地 ・ 歴史的文化資源
	「春日井市都市計画マスタープラン」	「都市の環境と文化を創造するリーディングシティ」	少子・高齢化、国際化、情報化に対応し、都市の環境と文化を創造していくあたらしいまちづくりをめざす。
瀬戸市	「第 5 次瀬戸市総合計画基本構想・基本計画」H18	自立し、助けあって、市民が力を発揮している社会	・ 快適に住み続けることができるまち（志段味隣接：西陵地域）
	都市マスタープラン	“成熟社会において、豊かな自然と「やきもの」のまちとしての魅力を活かし、市民・企業が活力を維持する共同の都市づくり”	・ 安心・安全：量的拡大から質的充実 ・ 交流：交流による都市活力の創出 ・ 学び：環境負荷の低い都市づくり
尾張旭市	「尾張旭市第四次総合計画書」	ともにつくる元気あふれる公園都市をめざして	・ ともにつくる：協働でまちづくり ・ 元気あふれる：すべての人が元気 ・ 公園都市：自然環境豊かで住みつづけたくなるまち
	「都市マスタープラン」（作成中）		



２－１２

図２－１１　隣接地域の土地利用構想及び位置づけ

２－３　志段味地区におけるまちづくりの現状

（１）特定土地区画整理事業

昭和 58 年の吉根地区を皮切りに、下志段味地区、上志段味地区、中志段味地区の順番に土地区画整理事業の都市計画決定が行われ、平成 7 年までに４地区それぞれにおいて特定土地区画整理組合が設立され、事業が進められてきた。

４地区全体の施行面積は約 761ha で、計画人口として約５５，０００人が見込まれている。平成 20 年 3 月に完了した吉根以外はまだ事業中であり、概ねの進捗率は、上志段味 6 割、中志段味 1 割、下志段味 8 割となっている。

表２－８　特定土地区画整理事業の概要

地区名	吉根	下志段味	中志段味	上志段味
都市計画決定年月日	S58.3.25	H4.3.30	H7.9.29	H5.4.9
事業施行期間	S59.3.30 ～ H21.3.31	H4.9.8 ～ H24.3.31	H7.12.28 ～ H30.3.31	H5.9.9 ～ H21.3.31
施行地区面積	２１３．６ha	１６０．２ha	１９２．４ha	１９４．９ha
計画人口	１５，８００人	１１，０００人	１４，０００人	１４，０００人

（名古屋市「志段味地区特定土地区画整理事業の概要」（パンフレット）より）

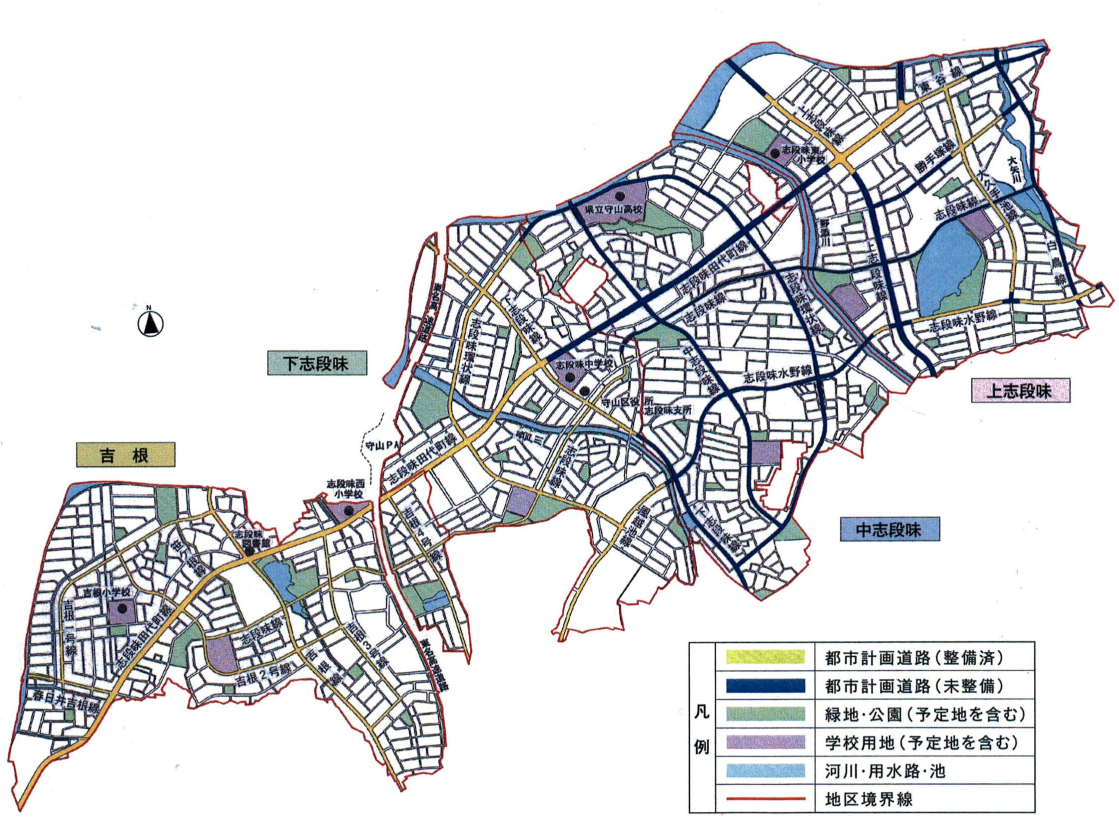


図２－１３　土地区画整理事業計画図（出典：名古屋都市整備公社「志段味Ｗａｉｋｉｎｇ」（パンフレット））

（2）ガイドウェイバスシステム志段味線

ガイドウェイバスシステムは、バス車両の前後に取り付けた案内装置の誘導で専用の高架軌道を走り、さらに連続して一般道路を走行することができる鉄道とバスの利点を組み合わせた新交通システムとして計画された。

ガイドウェイバスシステム志段味線は、大曽根から志段味支所までの約 11.3 ㎞について、平成 13 年に大曽根～小幡緑地が高架軌道で、小幡緑地～志段味支所が平面走行で開業（運行は大曽根～小幡緑地・中志段味・高蔵寺・瀬戸みずの坂間の 4 系統）した。また、平成 14 年には中志段味行に志段味スポーツランド経由が新設され、現在、一日平均約 9.3 千人（高架部のみ）が利用している。なお、平成 4 年の運輸政策審議会答申では、大曽根から志段味支所間の全線の高架化が位置づけられている。

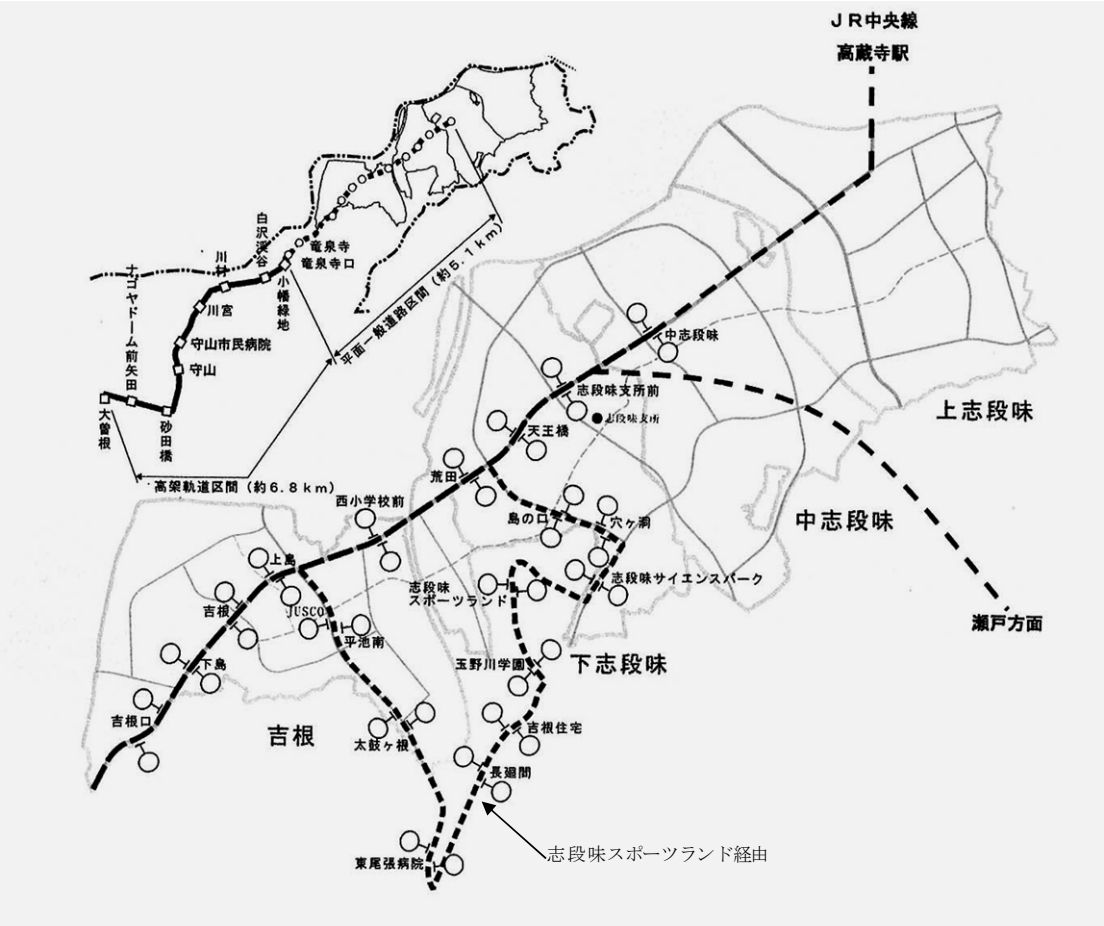


図２－１４　ガイドウェイバス路線図

（出典：名古屋市「志段味地区特定土地区画整理事業の概要」（パンフレット））

（３）なごやサイエンスパーク事業

新産業の創造や既存産業における技術の高度化を図ることを基本方針とし、産・学・行政の連携した研究開発拠点の建設を、志段味地区内の４つのゾーン（A、B、C、ふれあいゾーン）に分散配置して進められている。

公的研究機関の集積を図るＡゾーンは、平成 16 年にサイエンス交流プラザが開館するなどほぼ完成し、C ゾーンのテクノヒル名古屋への研究開発型企業の誘致も進んでいる。今後は、大学・研究機関等の誘致が計画されている Ｂ ゾーン、市民が先端科学技術にふれる機会を提供するふれあいゾーンの整備が残されている。

図２－１５　サイエンスパーク配置図

（名古屋都市整備公社「志段味Ｗａｉｋｉｎｇ」（パンフレット）より作成。写真は名古屋市「なごやサイエンスパーク」（パンフレット）を使用）

（４）スマートインターチェンジ

スマートインターチェンジは、高速道路のサービスエリアやパーキングエリアに接続するETC 車両のみを対象とした簡易なインターチェンジであり、全国の高速道路において導入が進められている。

志段味地区では、東名高速道路の守山パーキングエリアへの導入が計画されており、志段味地区の生活の充実や地域経済の更なる活性化等が進むことが期待され、平成２０年に事業に着手し、平成２２年度に全線が供用される予定である。

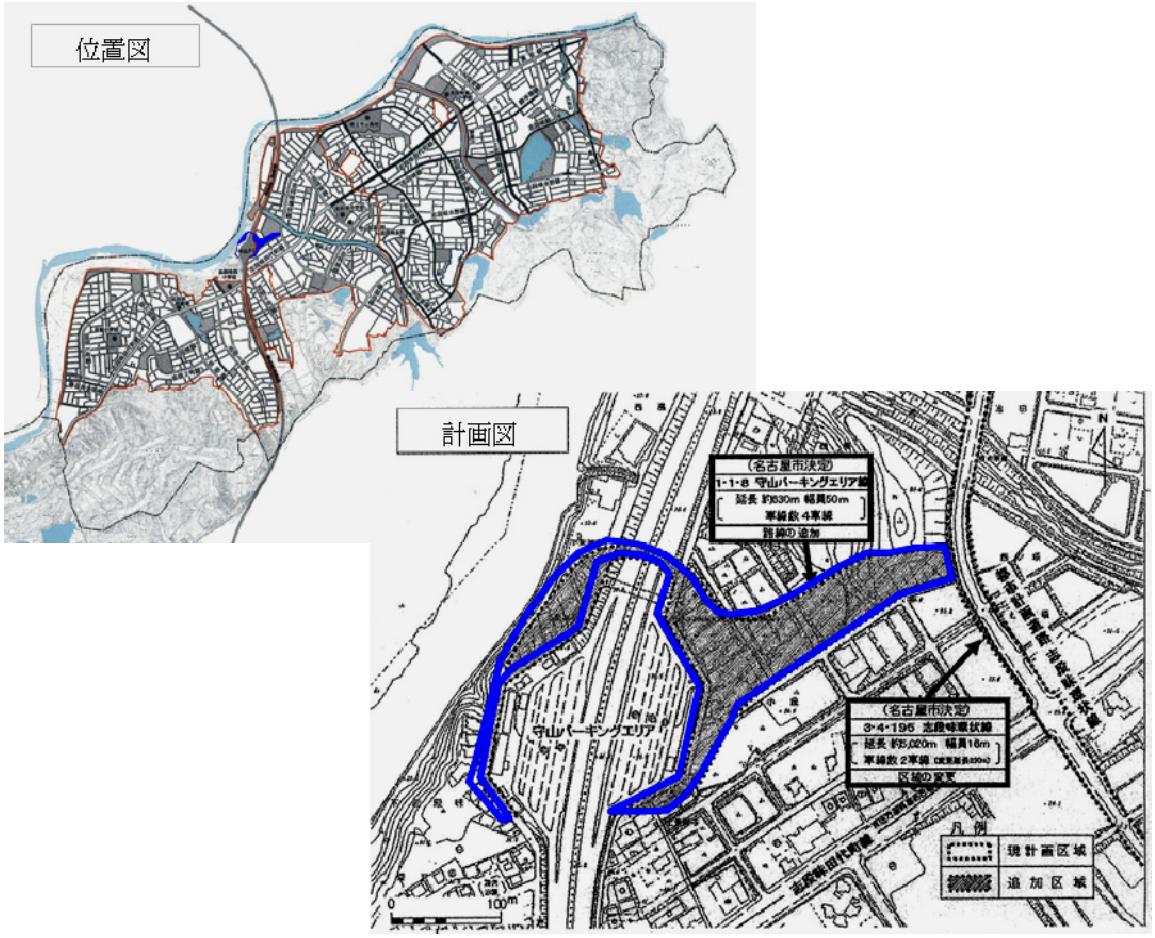


図２－１６　スマートインターチェンジ配置図及び計画図（名古屋市提供資料より作成）

（５）歴史の里

上志段味地区に残された帆立貝式古墳、円墳、方墳などの多様な形態の古墳群と河岸段丘を保存・活用し、郷土の歴史と自然を学ぶための体験型の施設として計画され、平成１９～２２年度で全体計画の策定、白鳥塚古墳用地の取得、埋蔵文化財発掘調査が予定されている。

なお、最近（平成 19 年 6 月）では、上志段味にある古墳をめぐるウォーキングイベント（「歴史の里」ウォーキング：道のり約 6km）なども開催されている。

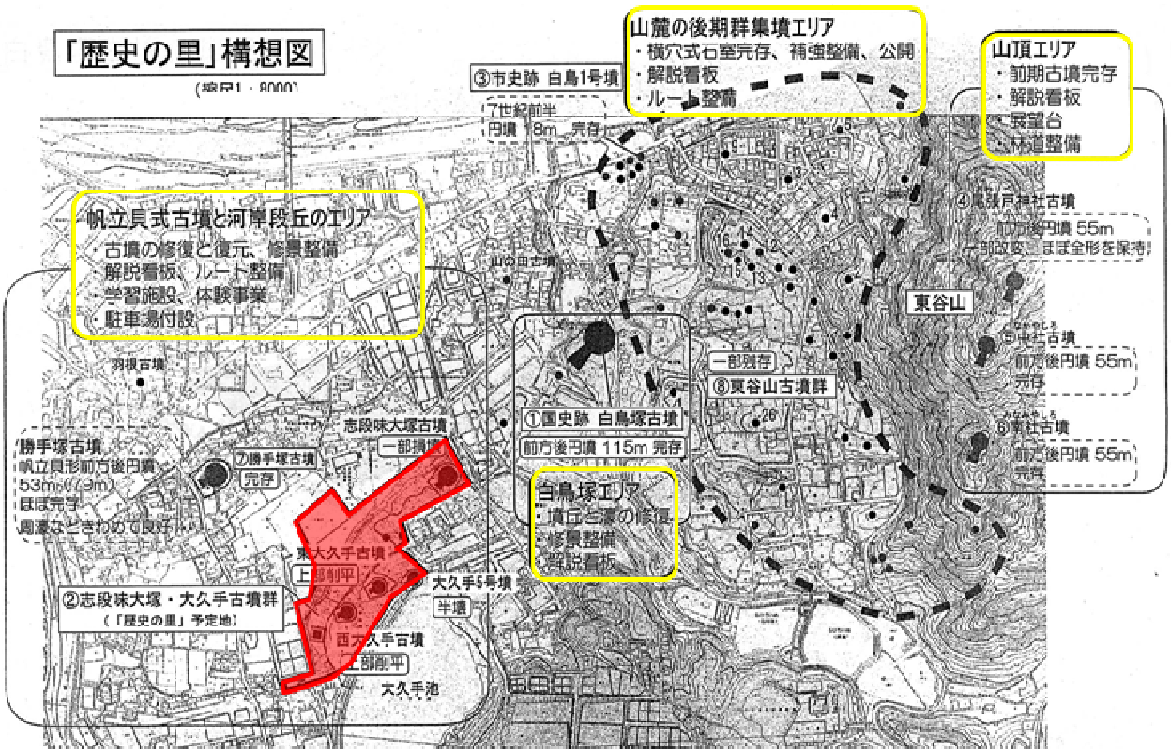


図２－１７　歴史の里構想図（名古屋市提供資料より作成）

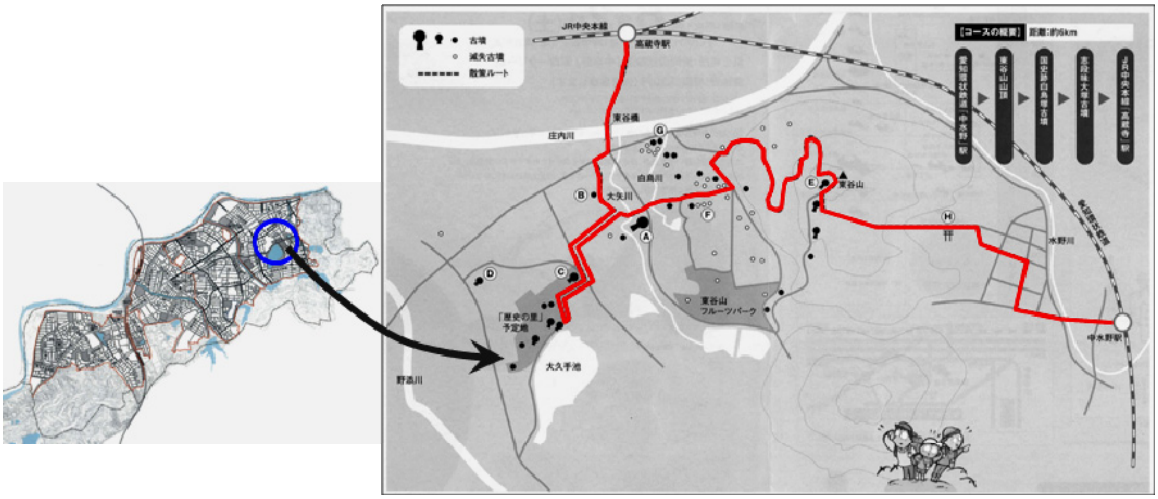


図２－１８　歴史の里ウォーキングマップ（名古屋市「歴史の里ウォーキング」（パンフレット）より作成）

（６）志段味循環型社会対応住宅

人と環境にやさしい住宅を基本コンセプトに、約 3.1ha の敷地面積に、４階建までの共同住宅で約 200 戸の住宅が計画されている。整備期間は平成２０～２２年度の予定で、「循環型社会に向けて、日差し、風通し等の自然の恵みを活かすことを基本として、効率の良い新しい技術などを取り入れ、資源消費の抑制や環境負荷の低減に配慮するとともに、そこに住まう人が自然をより身近に感じることができ、コミュニティを形成しやすく、子供がのびのび成長できるような住環境の住宅を整備する」としている。

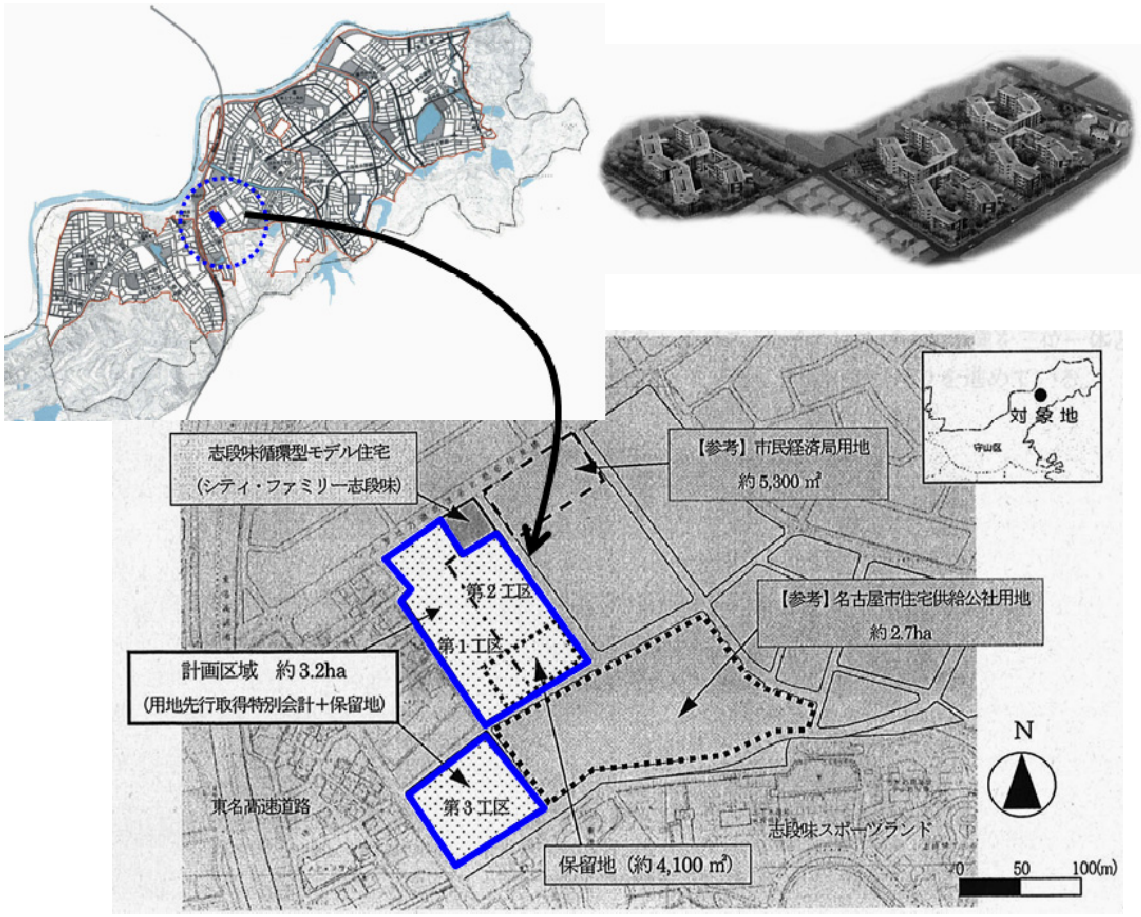


図２－１９　志段味循環型社会対応住宅の位置図・配置図（名古屋市提供資料より作成）

（7）庄内川等

庄内川については、国により平成 17 年に整備の基本となる「庄内川水系河川整備基本方針」が策定された。河川整備の方針など河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定める「河川整備基本方針」と、その河川整備基本方針に向けて具体的な河川整備に関する事項を定める「河川整備計画」に区分して、後者は、流域に住む人々をはじめ、学識経験者、関係機関の意見を反映して策定する「土岐川庄内川コレカラプロジェクト」をパブリック・インボルブメントという手法をとりいれて検討を進めることとなっている。

また、名古屋市では、土地区画整理事業に伴って、市街化による雨水流出量の増加に対応した河川やため池の改修を行うとともに、水と緑に親しめ、多くの生き物と出会うことのできる河川として整備するため、「多自然型川づくり」として長戸川、野添川の一部で整備を進める計画となっている。

・野添川

野添川は守山区上志段味のカケヒ池より北西に流下し、庄内川へ合流する、延長 1.85km の河川である。それぞれの流域には森林公園や数多くのため池が点在している。庄内川と野添川の合流点で、広がりのある低湿地を利用してビオトープを計画している。

・長戸川

長戸川は森林公園内の滝ノ水池より北西へ流下し、庄内川へ合流する、延長 2.1km の河川である。志段味地区の自然豊かな水辺が残せるよう、自然の回復力を生かしながら整備を行う。また、川の改修後も豊かな自然が残せるよう努め、川の改修にあたっては極力手を加えず、自然の回復力にまかせた整備を行う。

第３章　将来のまちに対する意識調査

３－１　調査の概要

志段味地区のイメージアップにつながるような、まちの将来像、新しい生活像を検討するにあたり、志段味地区のある名古屋市守山区、志段味地区に隣接する春日井・瀬戸・尾張旭市、そして守山区を除く名古屋市に居住し、スクリーニングで志段味地区について何らかの形で知っている（「聞いたことがない」と回答した以外）２０～５９歳の計４５０名に、インターネットによるアンケートを実施した。調査の概要及びアンケート対象者の属性は以下のとおりである。

表３－１　調査概要

調査対象	・名古屋市守山区、春日井・瀬戸・尾張旭市（志段味に隣接する自治体）、守山区を除く名古屋市の居住者 ・年齢が 20～59 歳の男女 ・志段味を何らかの形で知っている人
対象人数 （計 450 名）	守山区（150） 春日井市（50）尾張旭市（50）瀬戸市（50） 守山区以外の名古屋市（150）
調査方法	インターネット調査 （クローズドモニターに対する電子メール告知調査法）
調査実施	平成 20 年 3 月 7 日（金）～9 日（日）

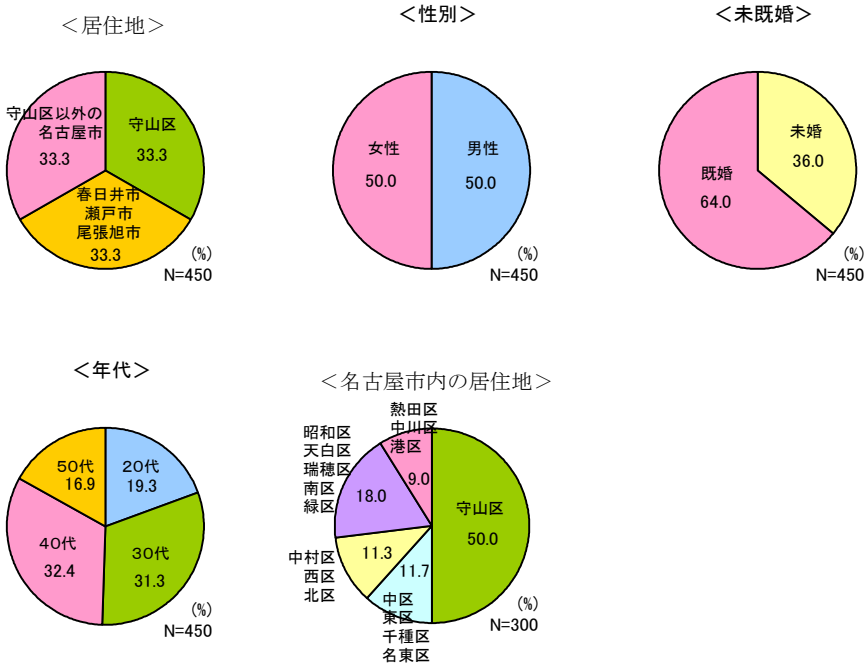


図３－１　アンケート対象者の属性（その１）

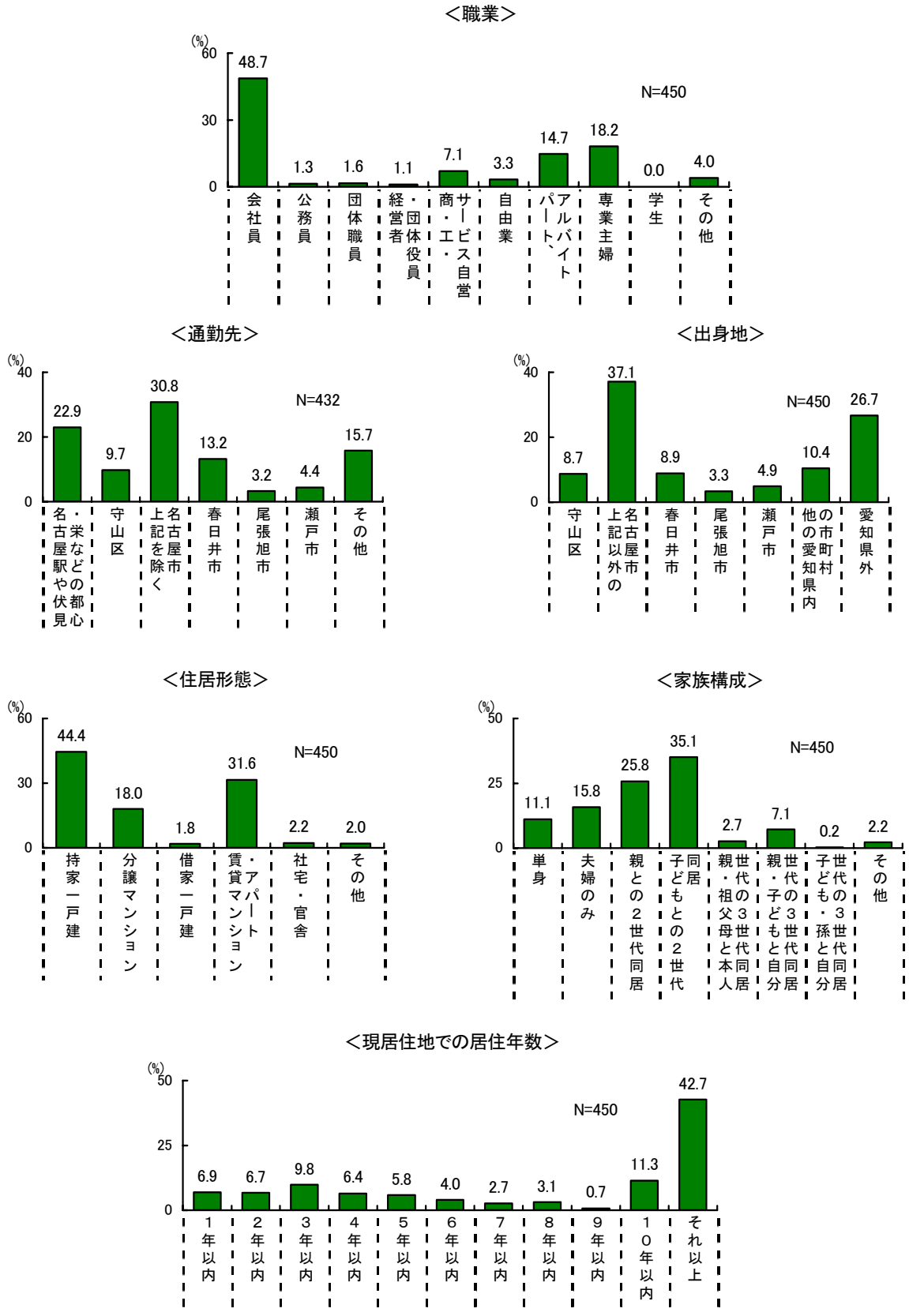


図３－２　アンケート対象者の属性（その２）

３－２　アンケート結果

（１）志段味に関する連想

①志段味と聞いて最初に思い浮かぶこと

最初の質問として自由回答（問１）で訪ねたところ、「田舎で不便」(94) という見方が一番多くみられる一方で、「現在発展している・開発が進んでいる」(77) という意見も多くみられた。これらに、同じような意見である「名古屋から離れた所にある」(50)、「新興住宅地」(22) という意見をそれぞれ加えてみると、全体的には、不便な印象（144）が発展感に関する印象（99）よりも多い結果となった。なお、志段味に関する連想では、志段味スポーツランドや東谷山フルーツパークといった地区内の施設をあげる回答も多くみられた。

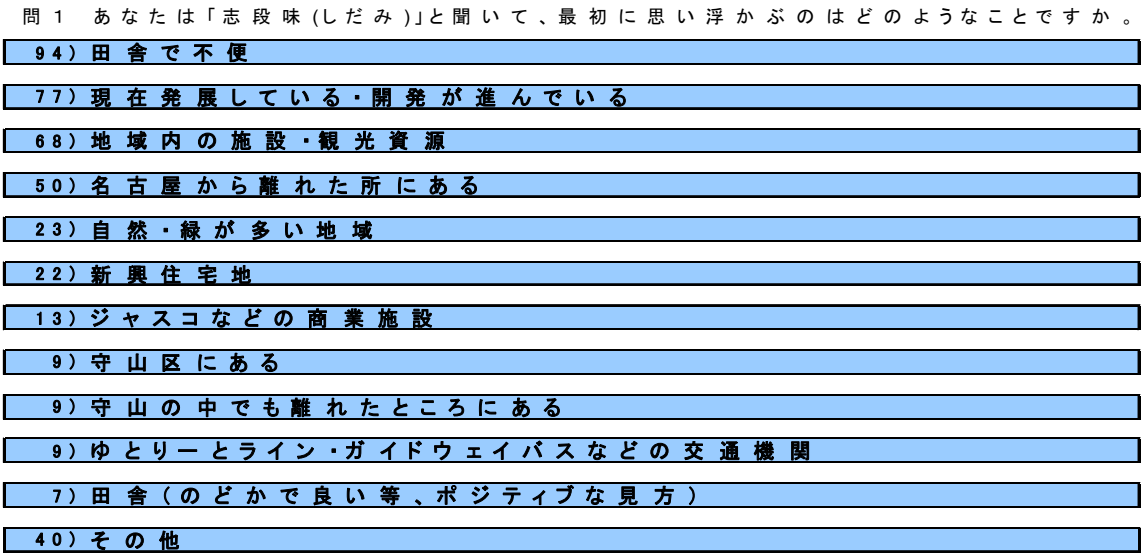
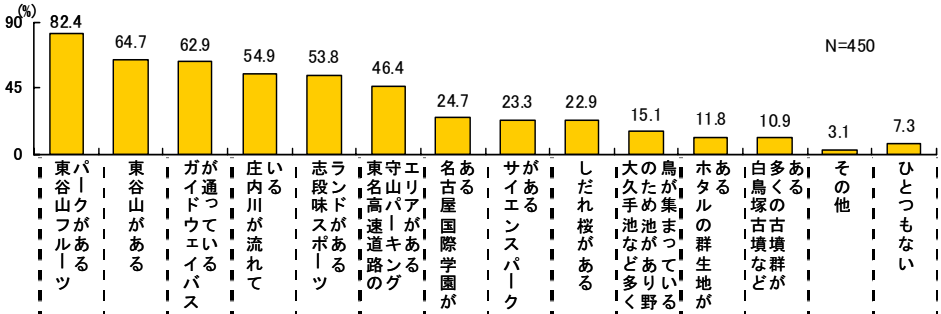


図３－３　志段味と聞いて最初に思い浮かぶこと

②志段味について知っていること

選択肢の中から複数回答（問２）してもらった結果、東谷山フルーツパーク、東谷山、ガイドウェイバスの認知度が高く、これらは６割を超えていた。なかでも東谷山フルーツパークについては、守山区以外の名古屋市においても７割の人が知っており、認知度が特に高かった。また、志段味に魅力を感じる層ほど、様々な内容について認知する傾向となっている。

問2 「志段味(しだみ)」について、あなたがご存知のことを、次の中からすべてお知らせください。



		東谷山フルーツパークがある	東谷山がある	ガイドウェイバスが通っている	庄内川が流れている	志段味スポーツランドがある	東名高速道路の守山パーキングエリアがある	名古屋国際学園がある	サイエンスパークがある	しだれ桜がある	大久手池など多くの池があり野鳥が集まっている	ホタルの群生地がある	白鳥塚古墳など多くの古墳群がある	その他	ひとつもない	N
居住地	守山区	88.0	74.7	83.3	66.0	74.0	61.3	36.7	40.0	34.7	23.3	20.7	20.7	4.0	3.3	150
	春日井、瀬戸、尾張旭	89.3	78.7	68.0	62.7	58.0	50.7	29.3	24.0	21.3	14.7	10.7	8.7	3.3	2.7	150
	守山区以外の名古屋市	70.0	40.7	37.3	36.0	29.3	27.3	8.0	6.0	12.7	7.3	4.0	3.3	2.0	16.0	150
魅力度	魅力を感じる	92.8	73.0	75.7	73.0	68.5	59.5	34.2	36.0	34.2	25.2	18.9	18.9	4.5	0.9	111
	魅力を感じる	94.1	88.2	88.2	88.2	82.4	76.5	52.9	47.1	47.1	29.4	23.5	29.4	0.0	0.0	17
	どちらかというと魅力を感じる	92.6	70.2	73.4	70.2	66.0	56.4	30.9	34.0	31.9	24.5	18.1	17.0	5.3	1.1	94
	魅力を感じない計	79.1	61.9	58.7	49.0	49.0	42.2	21.5	19.2	19.2	11.8	9.4	8.3	2.7	9.4	339
	どちらかというと魅力を感じない	84.2	70.5	66.1	59.6	56.8	47.0	23.5	21.3	24.6	15.3	10.4	8.7	2.7	5.5	183
	魅力を感じない	73.1	51.9	50.0	36.5	39.7	36.5	19.2	16.7	12.8	7.7	8.3	7.7	2.6	14.1	156
性×年代	男性 20～39才	72.8	58.8	58.8	56.1	56.1	53.5	14.0	24.6	21.1	11.4	6.1	9.6	3.5	7.0	114
	男性 40～59才	91.0	78.4	73.9	71.2	56.8	61.3	27.9	28.8	20.7	21.6	18.0	12.6	3.6	6.3	111
	女性 20～39才	82.5	58.8	55.3	44.7	45.6	28.9	21.1	17.5	15.8	9.6	6.1	13.2	3.5	10.5	114
	女性 40～59才	83.8	63.1	64.0	47.7	56.8	42.3	36.0	22.5	34.2	18.0	17.1	8.1	1.8	5.4	111

：全体結果の＋10ポイント以上

図３－４　志段味について知っていること

（２）志段味についての印象

①志段味地区の印象（その１）

「志段味の印象」についての自由回答（問３）では、（１）の連想において見られた施設名をあげる回答がなくなり、地区の現状・今後についての回答が増えた。その結果、「開発が進んでいる、これから発展しそう」(104)、「自然が多く環境がよい」(98) という肯定的印象が中心となったが、「交通の便が悪い」(48) などの否定的印象もあった。なお、「田舎という印象」(95) については、肯定・否定の両面がみられる回答内容であった。

問３　あなたは「志段味(しだみ)」について、どのような印象をお持ちですか。

■開発が進んでいる、これから発展しそう（104）
■自然が多く、環境がよい（98）
■のどか、静かなイメージ（12）
■地元、親しみがある（4）
■住みやすそう（4）

■交通の便が悪い（48）
■市内中心地から遠い、離れている（22）
■不便（8）

■田舎という印象（95）
■レジャー施設などがある（11）
■住宅地（4）

■その他、特になし（52）

図３－５　志段味の印象（その１）

②志段味地区の印象（その２）

「志段味の印象」を、肯定的な選択肢を用意して質問した複数回答（問４）では、「自然を感じながら生活できる」、「身近なところに豊かな自然がある」という、自然に囲まれた印象が中心であった。なお、居住地としての魅力度（問６）との関係で見た場合、居住地として魅力を感じている層では、これらの印象に加えて「閑静な街である」、「車で移動しやすい」、「環境に配慮している」、「日常の買い物が便利」といった印象も強くなっている。

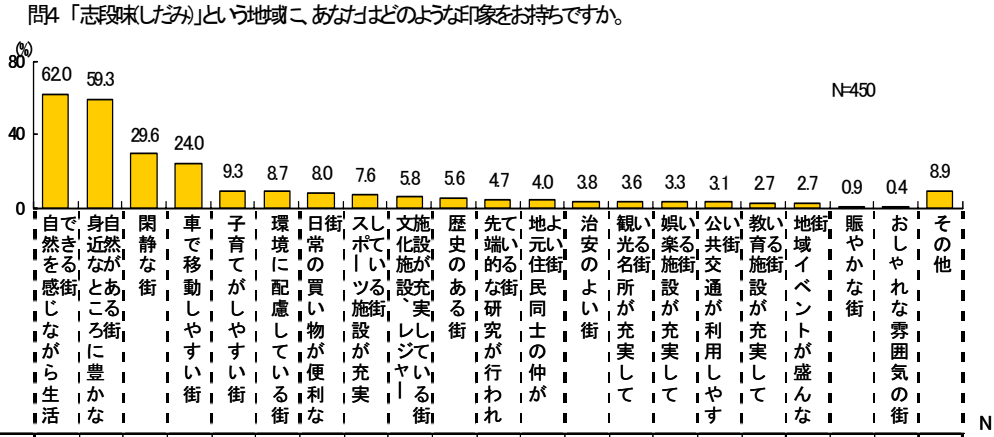


図３－６　志段味の印象（その２）

（３）居住地としての志段味の魅力

①引越し・住み替えの予定

「実際に予定がある」、「検討している」、「将来的には考えている」、「考えていない」の４つの選択肢から回答（問５）してもらったところ、全体的には「考えていない」の割合が多かった。なお、性・年代別の予定は、将来的なものも含めると、男女ともに２０～３０代の割合が最も高かった。

問５　あなたは今後「引越し」や「住み替え」などの予定がありますか。

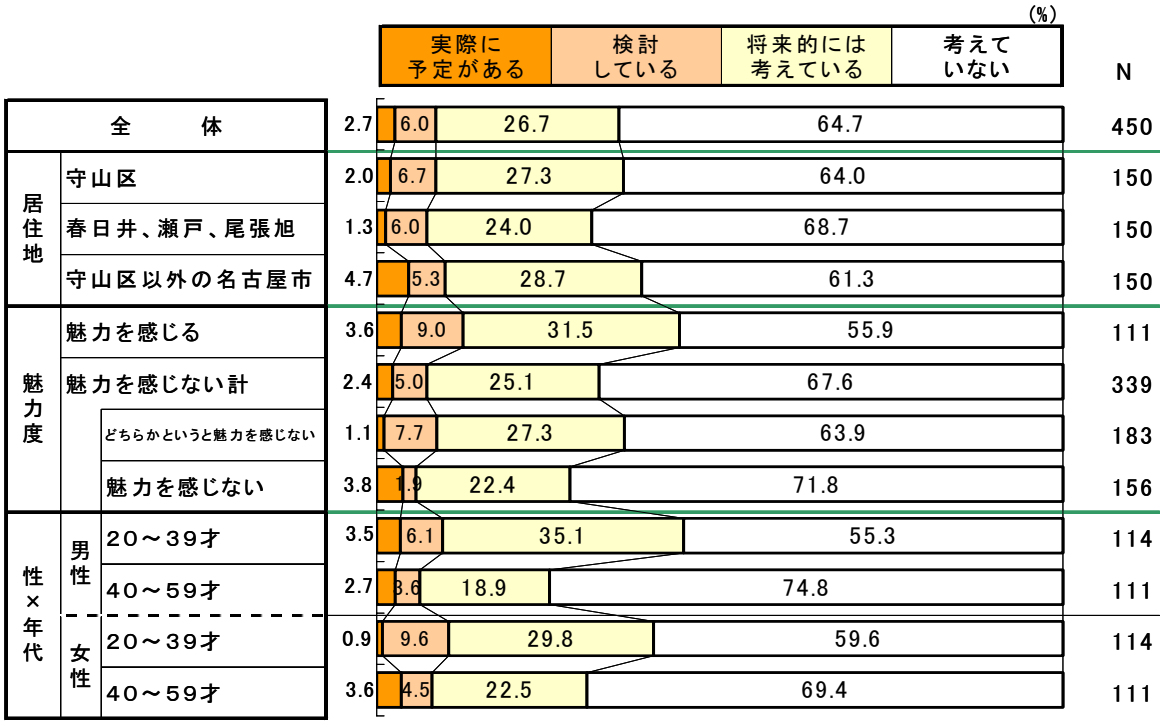


図３－７　引越しや住み替えの予定

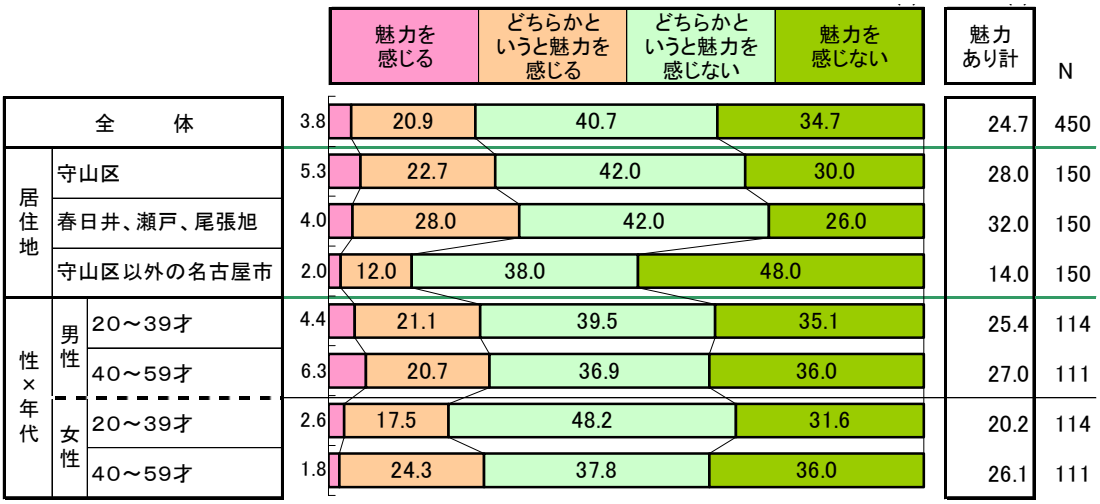
②引越し先、住み替え先としての志段味の魅力度

４ つの選択肢（「魅力を感じる」、「どちらかというと魅力を感じる」、「どちらかというと魅力を感じない」、「魅力を感じない」）から回答（問６）してもらった結果、全体では「魅力あり」と回答した人は２４．７％であった。

これを居住地別に見ると、志段味のある守山区や隣接する春日井・瀬戸・尾張旭市では３割前後が「魅力あり」と答えているが、守山区を除く名古屋市では１割強にとどまった。ただし、名古屋市でも方面別に見ると、志段味に近い西北部（北・西・中村区）では２割を超えた人が「魅力あり」と答えている。一方、性・年代別では、女性の 20 代の魅力度が他の年代に比べて低くなっているが、地域別ほどの違いは見られない。

そのほか、志段味との接点別に見ると、居住したことがある人、住んだことはないが行ったことがある人を合わせた場合は、３割弱の人が「魅力あり」と回答しているのに対し、地名のみ知っている人では、１割程度にとどまっている。また、問５の引越し・住み替えについて、予定がある、検討している、将来的に考えている人を合わせた場合、３割が「魅力あり」と回答している。

問6　あなたが今後「引越し」や「住みかえ」を行う場合、「志段味(しだみ)」という地域を居住地として選択することに、どの程度魅力を感じますか。



（%）

		魅力を感じる	どちらかというと魅力を感じる	どちらかというと魅力を感じない	魅力を感じない	魅力あり計	N
全　体		3.8	20.9	40.7	34.7	24.7	450
方面別	守山区	5.3	22.7	42.0	30.0	28.0	150
	東北部（千種区・東区・中区・名東区）	5.7	8.6	22.9	62.9	14.3	35
	西北部（北区・西区・中村区）	2.9	17.6	44.1	35.3	20.5	34
	東南部（昭和区・瑞穂区・南区・天白区・緑区）	－	11.1	46.3	42.6	11.1	54
	西南部（熱田区・中川区・港区）	－	11.1	33.3	55.6	11.1	27
接点別	①志段味居住経験者	21.7	34.8	34.8	8.7	56.5	23
	②志段味に行ったことがある（住んだことはない）	3.2	23.0	43.8	30.0	26.2	317
	①＋②	4.4	23.8	43.3	28.5	28.2	340
	志段味という地名は知っている	1.8	11.8	32.7	53.6	13.6	110
転居検討別	①実際に引越し・住み替えの予定がある	0.0	33.3	16.7	50.0	33.3	12
	②引越し・住み替えを検討している	11.1	25.9	51.9	11.1	37.0	27
	③将来的には引越し・住み替えを考えている	4.2	25.0	41.7	29.2	29.2	120
	①＋②＋③	5.0	25.8	41.5	27.7	30.8	159
	引越し・住み替えなどは考えていない	3.1	18.2	40.2	38.5	21.3	291

図３－８　引越し先、住み替え先としての志段味の魅力度

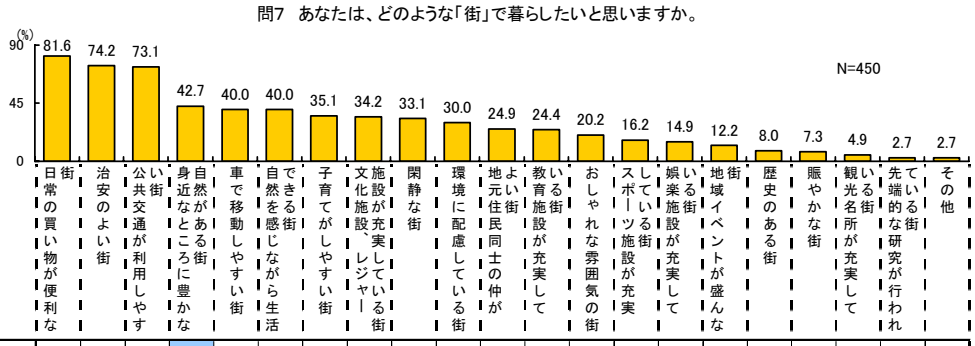
なお、あわせて聞いた、魅力を感じる・感じない理由についての自由回答では、魅力を感じる理由としては、「自然が豊かだから」、「今後も発展しそう」、「静かな環境だから」が、また魅力を感じない理由としては、「交通（公共交通）の便が悪い」、「住むには不便そう（田舎）だから」などの交通インフラや生活インフラに関するものが多かった。

３－９　魅力を感じる・感じない理由

（４）暮らしたいと思う街のイメージと志段味との比較

①どのような街で暮らしたいか

複数の選択肢で聞いたところ（問７）、「日常の買い物が便利な街」（81.6%）、「治安のよい街」（74.2%）、「公共交通が利用しやすい街」（73.1%）という３点への反応が特に高い。また、居住地としての魅力度（問６）との関係で見た場合、「身近なところに豊かな自然がある街」、「自然を感じながら生活できる街」という項目に対する反応が、全体結果に比べて高くなっている。



																						N
居住地	守山区	82.7	82.7	76.7	53.3	40.0	45.3	39.3	31.3	37.3	35.3	27.3	23.3	16.0	18.7	13.3	13.3	10.7	4.7	4.7	2.7	2.7	150
	春日井、瀬戸、尾張旭	85.3	70.0	69.3	48.7	45.3	46.7	38.7	40.7	32.0	31.3	25.3	26.0	24.7	15.3	14.7	13.3	7.3	4.0	5.3	0.7	2.7	150
	守山区以外の名古屋市	76.7	70.0	73.3	26.0	34.7	28.0	27.3	30.7	30.0	23.3	22.0	24.0	20.0	14.7	16.7	10.0	6.0	13.3	4.7	4.7	2.7	150
魅力度	魅力を感じる()	72.1	76.6	59.5	67.6	47.7	73.0	36.9	37.8	42.3	37.8	27.9	24.3	24.3	16.2	8.1	18.9	10.8	2.7	5.4	0.9	1.8	111
	魅力を感じる	58.8	70.6	52.9	58.8	52.9	70.6	35.3	41.2	41.2	17.6	29.4	11.8	23.5	11.8	11.8	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	17
	どちらかというと魅力を感じる	74.5	77.7	60.6	69.1	46.8	73.4	37.2	37.2	42.6	41.5	27.7	26.6	24.5	17.0	7.4	19.1	11.7	3.2	6.4	1.1	2.1	94
	魅力を感じない計	84.7	73.5	77.6	34.5	37.5	29.2	34.5	33.0	30.1	27.4	23.9	24.5	18.9	16.2	17.1	10.0	7.1	8.8	4.7	3.2	2.9	339
	どちらかというと魅力を感じない	85.8	77.0	80.3	41.5	40.4	31.7	41.0	36.1	27.3	28.4	27.3	24.6	14.8	15.3	17.5	13.1	7.1	7.1	4.9	2.2	2.7	183
	魅力を感じない	83.3	69.2	74.4	26.3	34.0	26.3	26.9	29.5	33.3	26.3	19.9	24.4	23.7	17.3	16.7	6.4	7.1	10.9	4.5	4.5	3.2	156
性×年代	男性 20～39才	76.3	71.9	65.8	31.6	46.5	35.1	32.5	24.6	23.7	23.7	23.7	17.5	21.1	16.7	21.9	11.4	5.3	6.1	3.5	1.8	2.6	114
	男性 40～59才	80.2	69.4	69.4	49.5	40.5	43.2	25.2	36.0	45.9	26.1	21.6	24.3	16.2	19.8	9.9	7.2	11.7	9.0	6.3	3.6	4.5	111
	女性 20～39才	84.2	73.7	77.2	43.9	38.6	34.2	52.6	36.0	29.8	33.3	26.3	26.3	25.4	14.0	19.3	14.9	7.9	8.8	3.5	1.8	0.9	114
	女性 40～59才	85.6	82.0	80.2	45.9	34.2	47.7	29.7	40.5	33.3	36.9	27.9	29.7	18.0	14.4	8.1	15.3	7.2	5.4	6.3	3.6	2.7	111

：全体結果の＋10ﾎﾟｲﾝﾄ以上

図３－１０　暮らしたいと思う街のイメージ

②志段味の印象との比較

同じ選択肢を用意して回答してもらった「志段味の印象」（問４）と「暮らしたい街のイメージ」（問７）を比較してみると、暮らしたい街のイメージで反応の高かった「日常の買い物が便利な街」、「治安のよい街」、「公共交通が利用しやすい街」については、志段味の印象においては低く、暮らしたい街における重視度に志段味の評価が追い付いていない状況が見られる。一方、「身近なところに豊かな自然がある街」、「自然を感じながら生活できる街」については、評価が重視度を上回る状況となっており、現状の志段味の強みとなっていると考えられる。

なお、志段味の印象と暮らしたい街との関係をイメージすると、図３－１２のようになる。

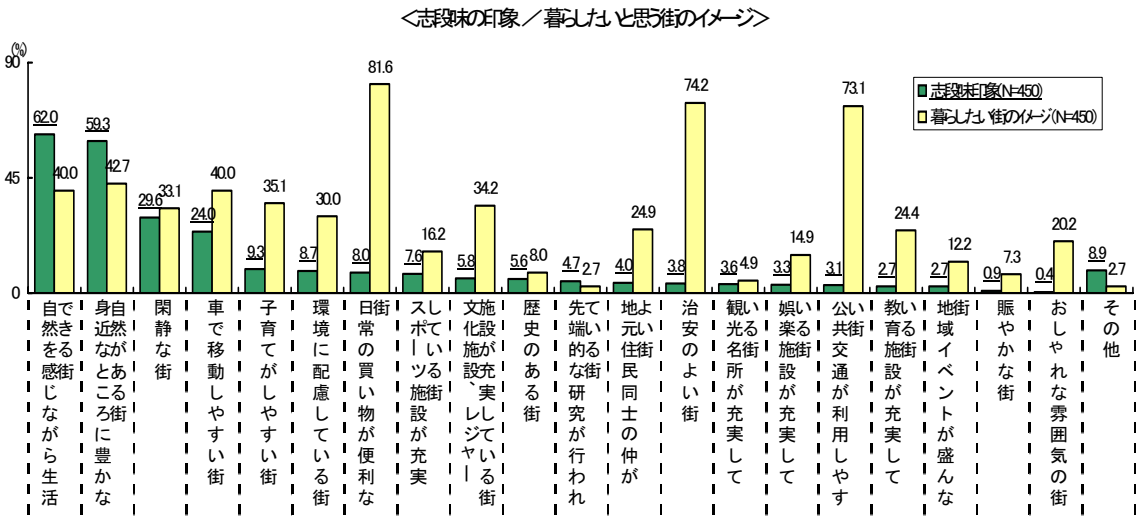


図３－１１　志段味の印象と暮らしたい街の比較

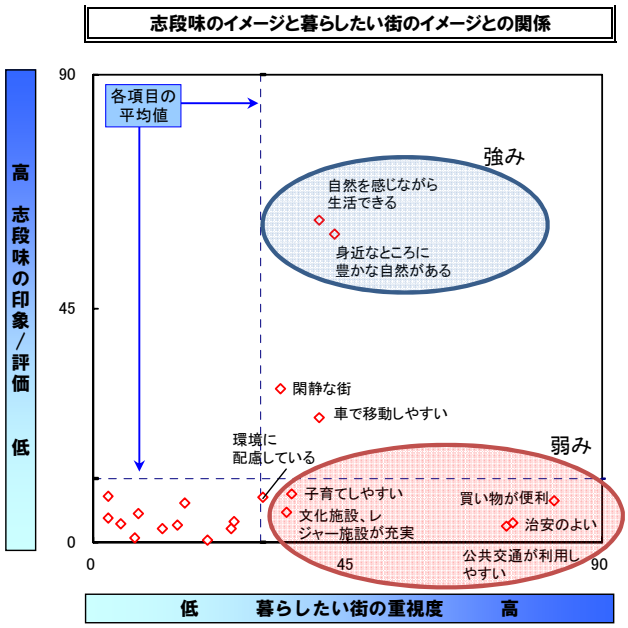
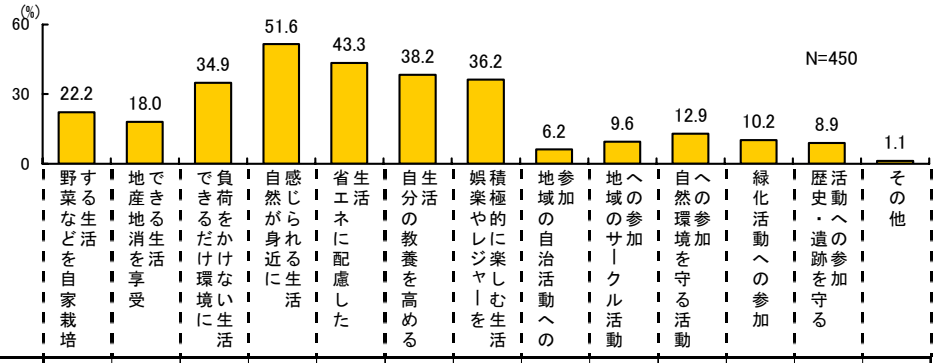


図３－１２　志段味の印象と暮らしたい街との関係

（５）興味を感じるライフスタイル

複数の選択肢の中から複数回答をしてもらったところ（問８）、全体では「自然が身近に感じられる生活」、「省エネに配慮した生活」などへの興味が高く、「地域の自治活動への参加」などへの関心が薄かった。また、志段味に魅力を感じる層では、全体と比べて「自然が身近に感じられる生活」、「野菜などを自家栽培する生活」、「自然環境を守る活動への参加」といったライフスタイルに対する反応が高くなっている。

問8　あなたが興味を感じる「ライフスタイル」とは、どのようなものですか。



															N
居住地	守山区	21.3	20.7	34.7	56.7	48.0	34.7	34.7	6.0	8.7	14.0	12.0	10.0	－	150
	春日井、瀬戸、尾張旭	25.3	16.0	36.7	58.0	44.7	39.3	34.7	4.7	8.7	12.0	8.0	5.3	2.7	150
	守山区以外の名古屋市	20.0	17.3	33.3	40.0	37.3	40.7	39.3	8.0	11.3	12.7	10.7	11.3	0.7	150
魅力度	魅力を感じる	35.1	25.2	44.1	73.9	53.2	35.1	25.2	6.3	7.2	23.4	18.0	9.9	0.9	111
	魅力を感じる	47.1	17.6	35.3	70.6	29.4	23.5	29.4	0.0	5.9	17.6	11.8	0.0	5.9	17
	どちらかというと魅力を感じる	33.0	26.6	45.7	74.5	57.4	37.2	24.5	7.4	7.4	24.5	19.1	11.7	0.0	94
	魅力を感じない計	18.0	15.6	31.9	44.2	40.1	39.2	39.8	6.2	10.3	9.4	7.7	8.6	1.2	339
	どちらかというと魅力を感じない	19.1	18.0	35.5	51.4	43.7	39.3	38.3	6.6	13.7	12.0	9.3	6.6	1.1	183
	魅力を感じない	16.7	12.8	27.6	35.9	35.9	39.1	41.7	5.8	6.4	6.4	5.8	10.9	1.3	156
性×年代	男性 20～39才	21.9	17.5	30.7	37.7	29.8	36.0	43.9	6.1	8.8	14.0	10.5	6.1	2.6	114
	男性 40～59才	25.2	12.6	30.6	64.9	35.1	31.5	36.9	8.1	12.6	19.8	9.9	11.7	－	111
	女性 20～39才	24.6	18.4	37.7	50.0	53.5	42.1	38.6	3.5	8.8	7.0	9.6	7.0	0.9	114
	女性 40～59才	17.1	23.4	40.5	54.1	55.0	43.2	25.2	7.2	8.1	10.8	10.8	10.8	0.9	111

図３－１３　興味を感じるライフスタイル

（6）まとめ

志段味に魅力を感じている人は、志段味地区の近くに住む人、志段味地区をよく知っている人に高い傾向が見られ、自然のイメージが強いと同時に、暮らしたい街のイメージとしても高く上がる状況となっている。さらに、興味を感じるライフスタイルとして、自然を身近に感じる、省エネに配慮した生活を志向している。

一方で、志段味に魅力を感じていない人は、志段味地区から離れた名古屋市内に住む人に多く、志段味地区に関する認知度も低い。そして、暮らしたい街のイメージとして、日常の買い物が便利、公共交通の利用しやすい、娯楽施設の充実している、賑やかという都会的なイメージのする項目について、志段味に魅力を感じている人よりも反応が高くなっている。また、興味を感じるライフスタイルについても、教養を高める、娯楽やレジャーを楽しむという項目で同じように反応が高くなっている。

これらのことから、現状における志段味の捉えられ方は、優位点（身近で豊かな自然）と劣位点（買い物や公共交通の不便さ）が表裏一体の関係にあると推測される。

このため、アンケート結果からは、志段味に魅力を感じている人に対して「強みを生かす」方向性を考えるとともに、現状では魅力を感じていない大多数の人に対する「弱みをカバーする」方向性を検討する必要があると考えられる。

第４章　まちの将来像の検討

まちづくりにおいて、居住者が同じような思考や行動を志向していれば、相互理解をしやすく良好なコミュニティが保たれた魅力的なまちを実現することが可能であると考えられる。そこで第４章では、第２章及び第３章で行った地区の現況、まちづくりの現状、将来のまちに対する意識調査をもとに、志段味地区のまちの将来像の検討を、１　現況整理を踏まえた「課題の整理」、２　コミットメント（達成すべき目標、約束）を明確にした「コンセプトの検討」、３　志段味の特徴、魅力を活かしてまちづくりを先導する「リーディングエリアの設定」、４　将来像実現に向けた「具体的な取り組みの検討」、５　将来のまちでの「新しい生活スタイルの考察」の順に検討した。

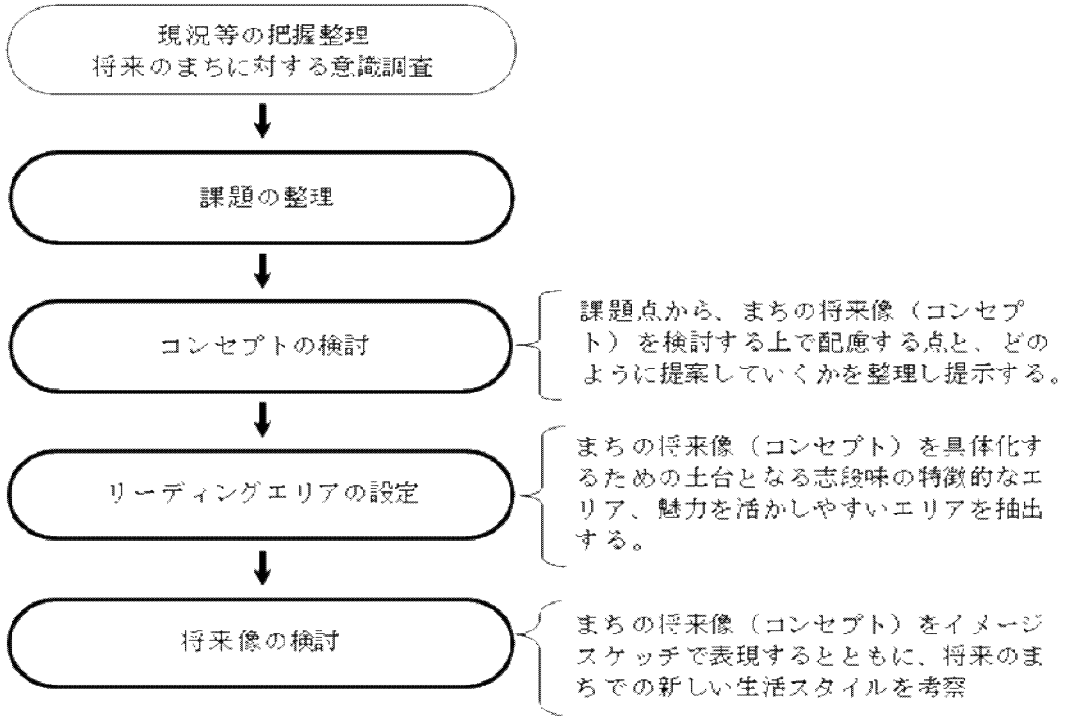


図４－１　検討フロー

４－１　課題の整理

まちの将来像の検討にあたり、研究会において、地区の現況、まちづくりの現状、将来のまちに対する意識について議論を行った。研究会では、現状の良い点として、「都市なのに生物多様性を感じられる」、「多様な環境がこれからの時代に合いやすい」といったことが、一方で危機を感じる点として、「このまま土地区画整理事業が進むと他の地区と変わらない個性のないまちとなる」といったことなどがあげられた。また、意識調査の結果に対しては、「自然が多いなどの肯定的印象と交通の利便が悪いなどの否定的印象が表裏一体となっている」との意見が出された。

そして、これからの志段味地区のまちづくりの課題として、「コミットメント（達成すべき目標、約束）が重要である」、「住む人だけでなく訪れる人も重視する」、「既存計画にこだわらずに全く新し

いテーマを前面に出していく」、「守山、春日井、瀬戸、尾張旭の中の志段味としてアピールする」、「身近で豊かな自然が評価される現状を活かす」、「交通インフラなどに不便が感じられる現状をカバーする」などの意見があげられた。以下に、これらの課題をまちづくりの視点として整理した。

表４－１　まちづくりの視点

まちづくりの視点	内　容
まちづくりのコミットメント（達成すべき目標、約束）を発信	・持続可能な自然と共生できるまちづくり ・守山、春日井、瀬戸、尾張旭の中の志段味としてアピール
「ぜひとも住んでみたい」「住み続けたい」という居住環境の提供	・緑地、農地、歴史、河川、池などの地域資源を活用して価値観を高める ・交通のネットワークが充分ではない地区においても不便さを感じさせない ・科学技術のまちとして地域全体の教育水準を高いレベルで保つ
特質すべき良い点を作り出し「こだわり」を持つ	・食の安全と自給自足 ・コミットメントに賛同する人が集まるコミュニティのつながりが強いまち
新しく住む人が主役になっていく	・古いものに固執せず新しく歴史を作っていく ・災害、犯罪を少なくする安全な地域をつくる ・ゆっくりと時間をかけてまちをつくる
住む人だけでなく訪れる人も重視する	・新しい魅力の創造 ・魅力ある職場の提供

４－２　コンセプトの検討

志段味のまちの将来像を明確にするため、コンセプトを設定することが重要であると考えた。そこで研究会では、広域的なまちづくりの視点から、「世界に発信できる魅力的なもの」、「世界の人々が魅力を感じる方向性とベクトルを同じくするもの」、「多くの人が移り住みたくなるもの」、「インパクトがあるもの」ということについて検討を行った。また、地区のまちづくりの視点から、「良いところを活かしたもの」、「住んでいる人が誇れるもの」、「地区の資産価値が向上するもの」、「持続可能であるもの」、「ゆっくりと時間をかけて行うもの」ということについて検討を行った。

しかしコンセプトの設定は、地域の人、専門家の意見を十分に聞いて、じっくりとした構えで行っていくことが重要であり、現段階ではすべての視点を絞り込んでまとめることは困難であるとの結論に至ったため、本研究では今後の課題とした。

４－３　リーディングエリアの設定

今後の志段味地区のまちの将来像をより具体的にするため、コンセプトの検討で議論した内容を踏まえ、志段味地区の特徴をあらわす要素を持つエリアを地区のバランスを考慮して４か所選定し、志段味地区のまちづくりをリードするエリア（リーディングエリア）として以下のとおり位置付けた。

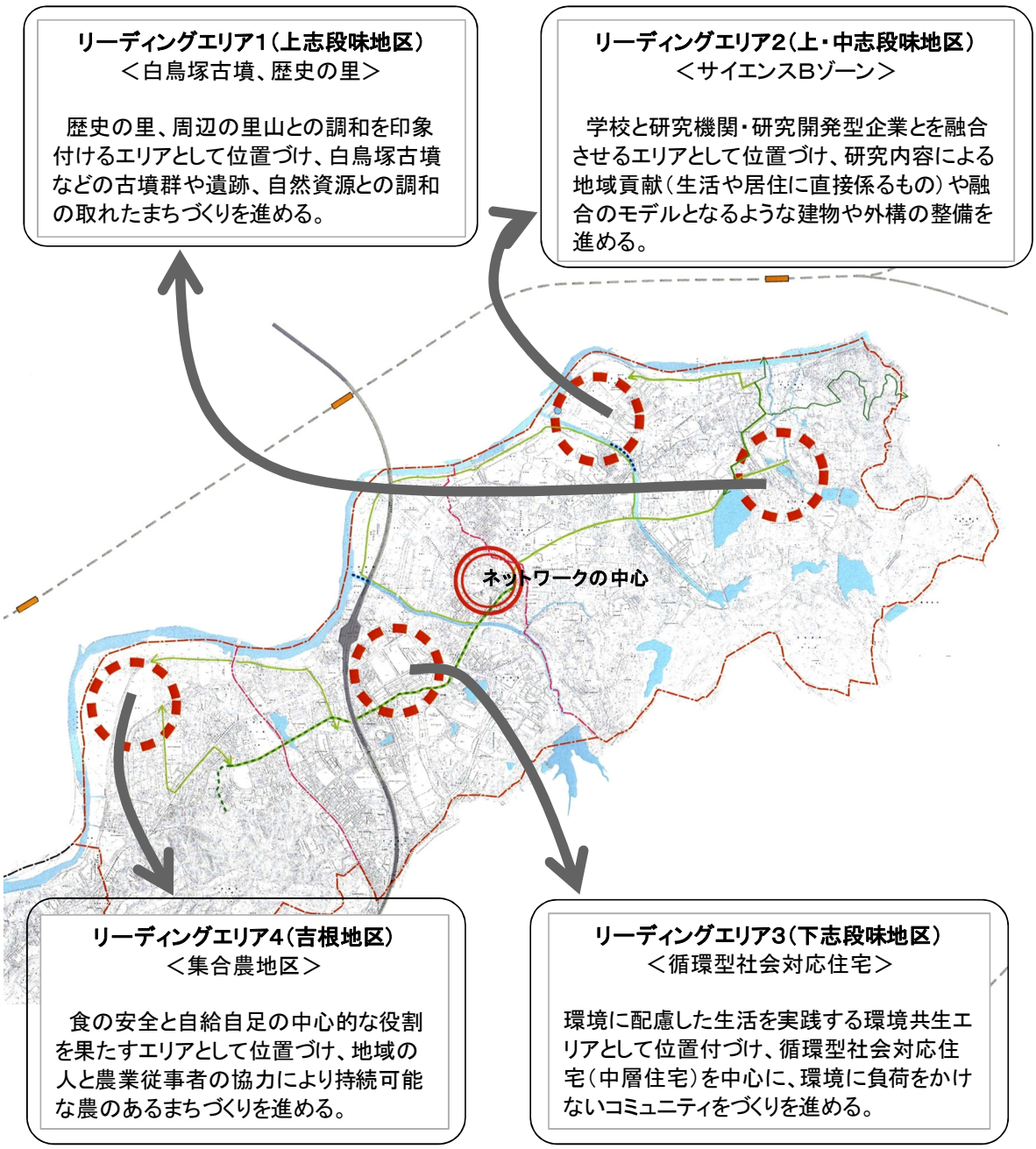


図４－２　リーディングエリア

４－４　リーディングエリアにおける取り組み

４か所のリーディングエリアおける取り組みを、行政、住民・企業、来訪者が一体となり、徐々に志段味地区全体に広げ、さらに地区外に発信していくことをイメージし、志段味地区全体と各エリアにおける具体的な取り組みを、以下のとおり考えた。

（１）志段味地区全体

①新規バス路線の運行

志段味地区では、JR 中央線や名鉄瀬戸線へ向かう南北軸の公共交通機関が少ない。そこで、公共交通の選択肢を増やし通勤通学などの利便性を高めるため、地区中央に位置する志段味支所から、北の JR 神領駅と南の名鉄尾張旭駅までのルートを新設する。これにより、名古屋駅及び栄方面へのアクセスが若干時間短縮になることに加え、地区全体での交通機関の選択肢が増え、当地区の弱みであるバスの運行本数をカバーする事が可能となる。

また、買い物や通院、公共施設の利用など地区内での移動の利便性を高めるとともに、地区内における車の使用を減らしてCO_2の排出を削減するため、地区内を循環するバスが電話等の要求に応じて迎えに来るデマンド小型バスを運行する。小型バスは、地区内の大型店舗や企業などとの共同運行とし、バスを利用して買い物をした人には割引券や無料券をプレゼントするなどにより利用の促進も図る。

（参考事例）

・市街地方面：豊山タウンバス（豊山町総務課企画財政・情報係、運行　あおい交通（株））

北と南の２ルートがあり、北ルートは豊山町から小牧市まで、南ルートは豊山町から名古屋市の栄までとなっている。１時間に約１本運行。土日・祝日も運行（12 月 29～１月 3 日除く）し、運賃は距離により 100 円～500 円。現在の利用状況では、北ルートでは市民病院等を利用する午前中の乗客が多く、南ルートは栄方面へ通勤する時間帯の利用が多い。事業の補助については全体の事業費の 3 割程度。

・地区内循環：中村まちバス（高知県四万十（旧中村）市役所）

利用者の要求（乗降区間や乗車希望時刻）に応じて運行するデマンドバス。電話等で要求すれば、10～15 分程で迎えに来るというシステムで、要求に応じて官公庁や病院等の施設等に直接行くことができるため、施設等の玄関やロビー等建物の中で（営業時間により異なる）待つことができ、タクシーに少し似たシステムを持っている。大人 200 円、小人 100 円、運行は午前 8 時 30 分～午後 6 時。

②歩行者・自転車専用道路の活用

志段味地区を縦断し、地区の特徴ともなっている歩行者・自転車専用道路が、歩行者や自転車が通行して楽しいところとなるように、地域の人々が協力して行う仕組みをつくる。そこで、まずは、地域の人や企業の協力による清掃や草花などの維持管理から始める。そして、例えば、道路との立体交差部で壁面となっていて暗く見通しが悪い箇所に、志段味の良いところや将来のまちや夢を描いてもらい、地区外から訪れた人へ地区の紹介を行うなど、愛着を持ってもらうとともに利用して

楽しい空間をつくるためのイベントを地域主体で行う。

また、東谷山フルーツパーク・森林公園方面、小幡緑地方面との連続性を高めるための新ルートの整備や、高蔵寺駅、東谷山フルーツパーク、志段味支所、小幡緑地などへのレンタサイクルステーションの設置、自転車標識の充実やサイクルマップの作成などにより、地区内の自転車利用の促進を図るとともに、地区外から訪れた人にも楽しめる仕組みをつくる。

図４－４　自転車歩行者専用道路

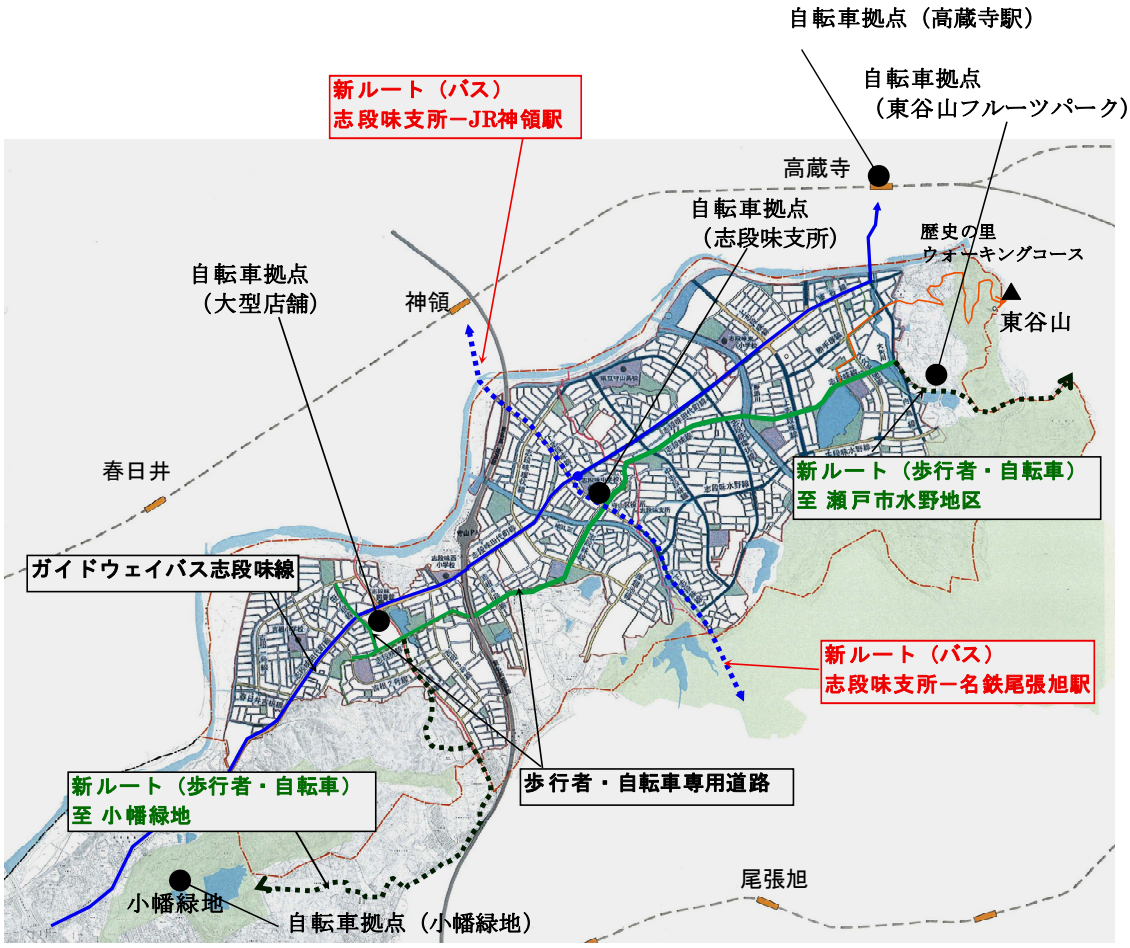
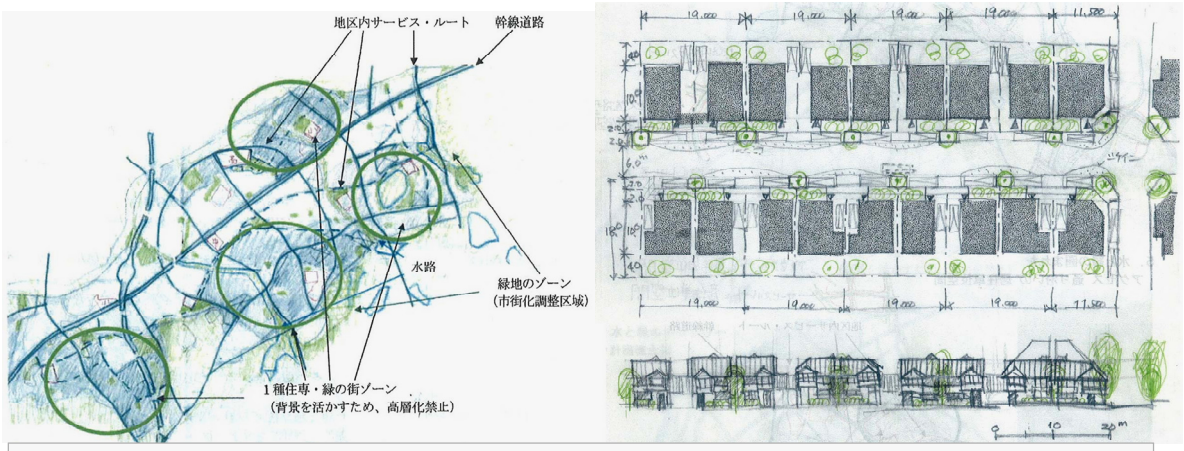


図４－５　新しいバス路線・自転車歩行者専用道路

③連続したみどりの確保

東谷山、森林公園、小幡緑地など地区南側の“山”から、土地区画整理の“里”、そして北側の庄内川へとつながるみどりのネットワークをつくるため、地区内の樹林地、河川、ため池などを拠点または軸として、現況の植生やビオトープ空間を地区内に徐々に拡大していく。

そのために、水と緑に囲まれた地域の新しいコミュニティづくりとして、デザイン・ガイドラインを策定し、地区内の緑の保全、創出を細かくコントロールする。また、学区ごとに自然と親しむ会をつくり、例えば、庄内川の定点観測などの体験学習や学区ごとの交流を通してみどり豊かなまちへの取り組みを進める。



「水と緑を背景とした新しい水と緑のまち」
・東谷山・森林公園付近の景観を守り、緑の道を池につなぐ。
・幹線道路、地区内サービス道路、アクセス道路の区分とそれに対応した道の緑化
・居住地の街並み空間の緑のデザイン

「新しいコミュニティ像：近隣コミュニケーションと安心な(防犯)コミュニティ」
・敷地面積を考慮に入れた「住宅地基本像」の設定
・通りを囲む近所付き合い促進空間のすすめ
・駐車スペースと緑のスペースを前庭に配置
・完全なプライベートな庭の確保
・建築のデザインガイド

「安全な街路と公園広場のネットワークづくり」
・幹線道路を緑化する
・サービス道路の歩道を一部緑化する
・アクセス道路の入り口に高木、車路線を狭くする(シケイン)などで車の進入制限
・公園の周りの住宅は公園に向け、交差点に接する住宅は交差点に向ける
・駐車場の配置を考える。各敷地1台までとし、2台目は共有地を取っておく。

図４－６　デザイン・ガイドライン（中部大学工学部　佐藤圭二教授　構想案抜粋）

④アドバイザー会議の設置

まちづくりは優れた計画であっても長期的に継続して取り組んでいく人たちがいなくては進行していかない。このため区役所・支所等が主体となって、住民、学識者、市民団体等からなる「新しい志段味をつくるアドバイザー会議」を立ち上げ、志段味地区のまちづくりの方向性や取り組みについて定期的に議論や交流する機会を設ける。

特に、志段味地区としての「こだわり」として、環境へ配慮したライフスタイルの実践を後押しするために、この会議が中心となって、地区に居住し、環境共生に配慮したライフスタイルを宣言、

実践する人が活動に応じたポイントを取得できる仕組みをつくる。例えば、通勤・通学での自転車・バス・鉄道の利用、地域の農作物の販売・購入など、普段の生活に密着した形として無理のないエコ活動やCO_2の地産地消を評価し、たまったポイントによってエコグッズがもらえるなどわかりやすい目標と取り組みを行う。また、個人のポイント還元以外に、学区や町単位でのポイント制も導入し、還元ポイントで公園の遊具を更新したり、エコカーを所有したり、地域でシェアリングできる特典を検討する。それによって、地域のコミュニティ確立とみんなで取り組む意識を形成していく。また、エコポイント獲得の実績により、環境ライフスタイルアドバイザーの認定を行い、環境ライフスタイルを持続してもらうとともに、地域活動のリーダーとして活躍してもらう。さらには、認定アドバイザーには生活支援ローンなどのメニューを活用できるなどの得点を受けることができるような仕組みを、農協や金融機関と協力して推進･推奨する。

（2）リーディングエリア１（上志段味地区）　テーマ：歴史・自然

古墳群などの歴史や周囲の自然環境との調和を印象付けるエリアとして位置づけ、歴史の里や里山などとの調和のとれたまちづくりを進める。

①歴史の里の活用

古墳群を中心とした歴史の里の整備構想は、地区の財産を大切にするとともに地区のポテンシャルを高めることにもなる。

歴史の里を訪れた人が一日楽しく過ごせる仕掛けとして、東谷山、東谷山フルーツパーク、森林公園などを回遊するウォーキングコースやサイクリングコースをいくつもつくり、マップや案内板などを整備する。特に、徒歩よりも広範囲に移動ができ、車よりも小回りが利く効率的な移動手段であるレンタサイクルを気軽に利用することができるように、簡単かつ低料金で利用ができるように工夫する。

また、志段味地区をはじめとする古墳の出土品や資料を集め、小中学生が社会科の教材として活用できる展示施設をつくるとともに、自然との関わりを体験し、これからのライフスタイルを考える場とする。

②里山の整備

居住地と周辺の自然や古墳群がなじんだまちとなるように里山のイメージを創出する。エリアに残る樹林地を土地所有者から借りて住民が協力して維持管理することで自然とのつながりを保った暮らしを考える場とする。

また、里山からつながる地区のシンボルとも言える東谷山をいろいろな場所から見てもらい、志段味を象徴する景観として印象に残してもらうため、様々な場所に景観スポットを設置する。景観スポットの設置にあたっては、写真コンテストなどを行い、まだ知られていないビューポイントを発掘し、景観スポットからの景観は、デザイン・ガイドラインなどにより地区の財産として保護する。

図４－７　東谷山と大久手池（左）、勝手塚古墳（中）、安田池（右）

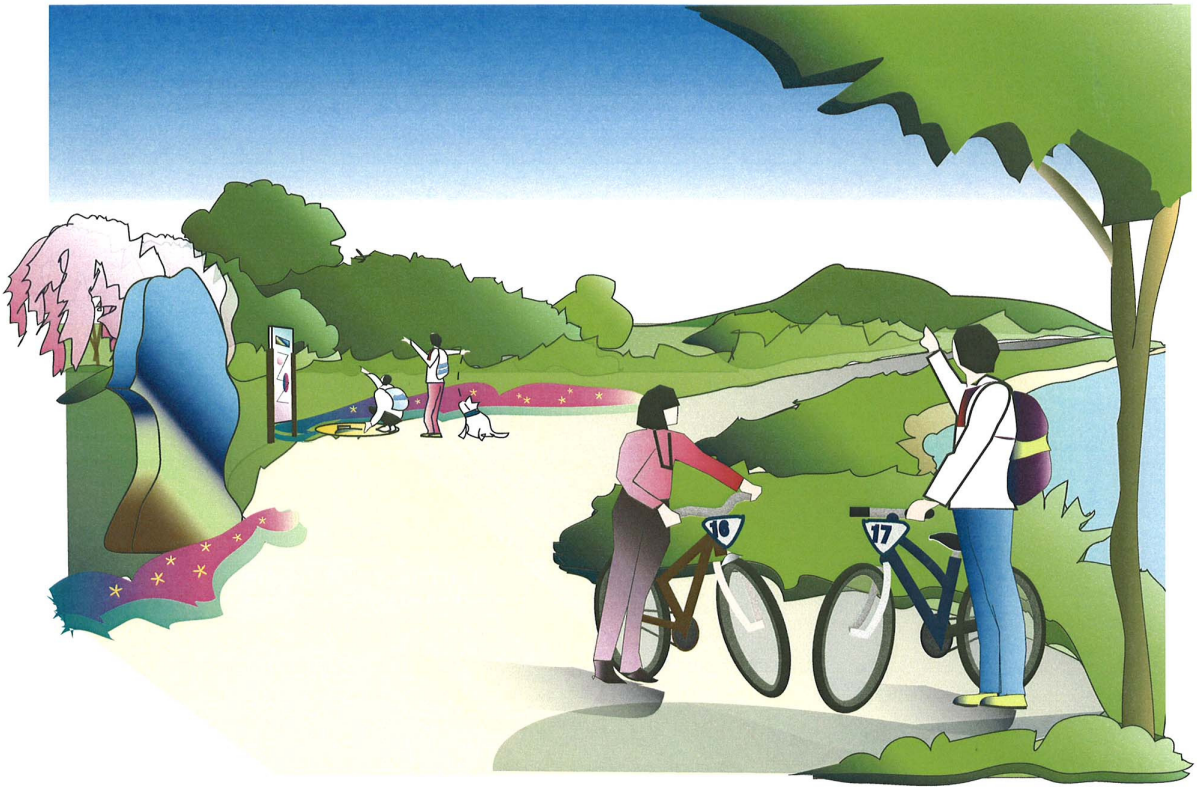


図４－８　上志段味地区　「歴史・自然」のイメージ

東谷山ウォーキングコースでレンタサイクルを利用し散策している風景。景観スポット（絵左）からは遠くに東谷山が見え、手前の夫婦は立ち止まって風景を楽しんでいる。歴史の里はウォーキングコースともつながっており、親子（絵中央）は散歩をしながら古墳を見て会話をしている。このコースには花が植えられており、訪れた人誰もが印象に残るコースとなっている。

（３）リーディングエリア２（テーマ：科学・教育）

学校と研究機関、研究開発型企業とを融合させるエリアとして位置づけ、生活や居住に直接かかわるような地域貢献が期待できる研究内容とともに建物やその外構がモデルとなるような整備を誘導する

①研究展示スペースの設置

なごやサイエンスパークの B ゾーンとして立地が予定されている研究機関・研究開発型企業が地区から孤立することなく、まちの中の施設として受け入れられることが大切である。そこで、隣接する志段味東小学校や野添川と結んだ散策ルートをつくり、研究機関・研究開発型企業には施設内に一般開放の見学・展示スペースを用意してもらう。また、見学・展示スペースの周辺には地域の人が気軽に利用できるオープンカフェのようなコミュニケーションの場を提供してもらう。

②サイエンス教室の開催

小中学生が科学や環境に興味をもってもらうためのオープン教室を、志段味地区の企業、店舗、研究機関などに参加してもらい実施する。特に、身近な環境への配慮が地球全体に及ぼす影響や科学的視点からの自然災害や防災などについて学ぶプログラムを企画する。また、学校単位で測定した気温や水質調査などのデータ、地区内の居住者が取り組む CO_2 削減の取り組みのデータなどを、研究施設と一緒に集計、分析し、地区全体の環境改善や CO_2 削減の成果を区役所のホームページで公開するなど、誰もが楽しく学び、行動できる仕組みをつくる。

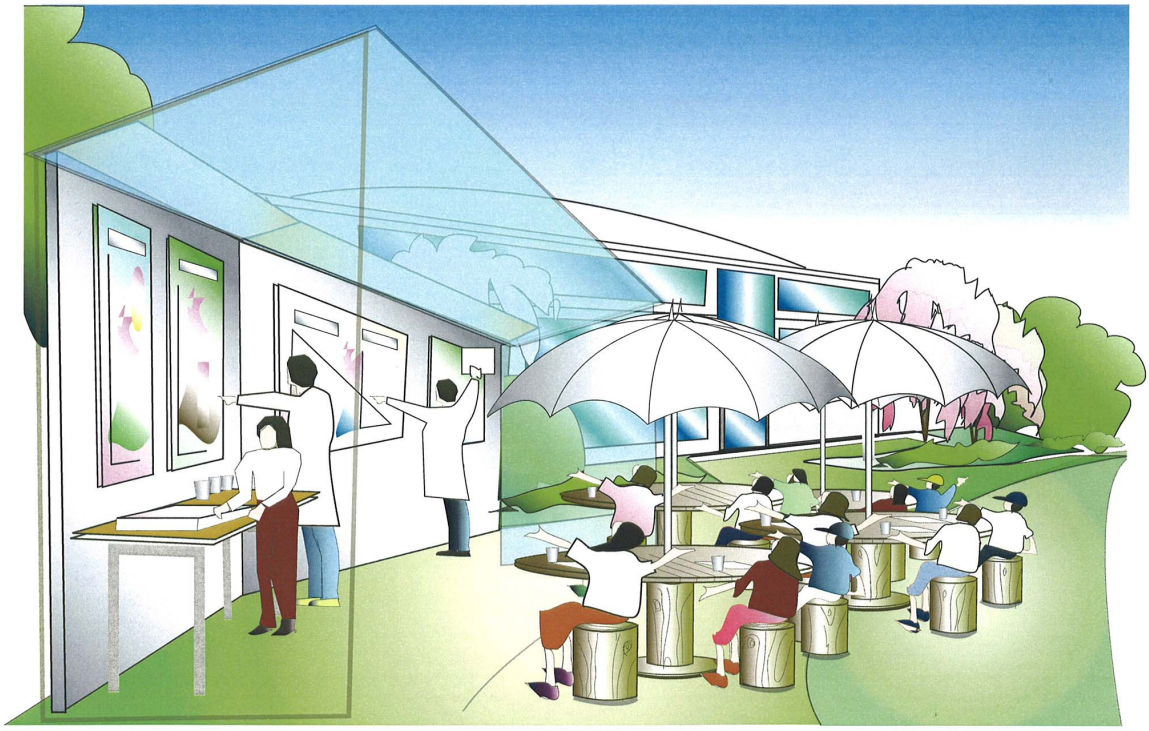


図４－９　上志段味地区　「科学・教育」のイメージ

企業の研究施設の一角で屋外型サイエンス教室が行われている風景である。一面に広がる芝生の

上で開放的かつ自由な雰囲気の中、展示研究ブース内の研究者と気軽に子供たちがコミュニケーションを取り、楽しみながら身近な科学について学んでいる。

（４）リーディングエリア３（テーマ：環境・省エネ）

環境に配慮した生活を実践する環境共生エリアとして位置づけ、循環型社会対応住宅を中心に、環境に負荷をかけないコミュニティの形成を図る。

①環境共生型モデル住宅の展示と相談

既に計画されている循環型社会対応住宅を中心に、環境に配慮した戸建住宅やその外構などのモデルをハウスメーカーや電力・ガス会社などの協力を得て配置する。また、身近で容易にできる取り組みの事例や地区内の優れた事例を紹介する相談窓口を設け、まち全体へ環境共生やデザインの優れた住宅の普及を促進する。さらには、優れた景観や環境につなげていくために、建築などで配慮するデザインマニュアルを、地区の人が賛同できるように、地域の人と一緒になってつくりあげる。

②エコカーシェアリングリングの実施

環境に配慮したまちを目指し、地区内から排出する CO_2 の削減を進めるため、電気自動車などのエコカーによるカーシェアリングの導入を目指す。エコカーの電源供給は、主にソーラーや風力などのクリーンエネルギーとする。また、方面や時間帯を調整したり、地域の子育て支援の一環として保育園や習い事などへの子供たちの送り迎え、高齢者の通院や集まりをサポートしたりするなど、相乗りを増やしながら利用率を上げるための工夫も行う。

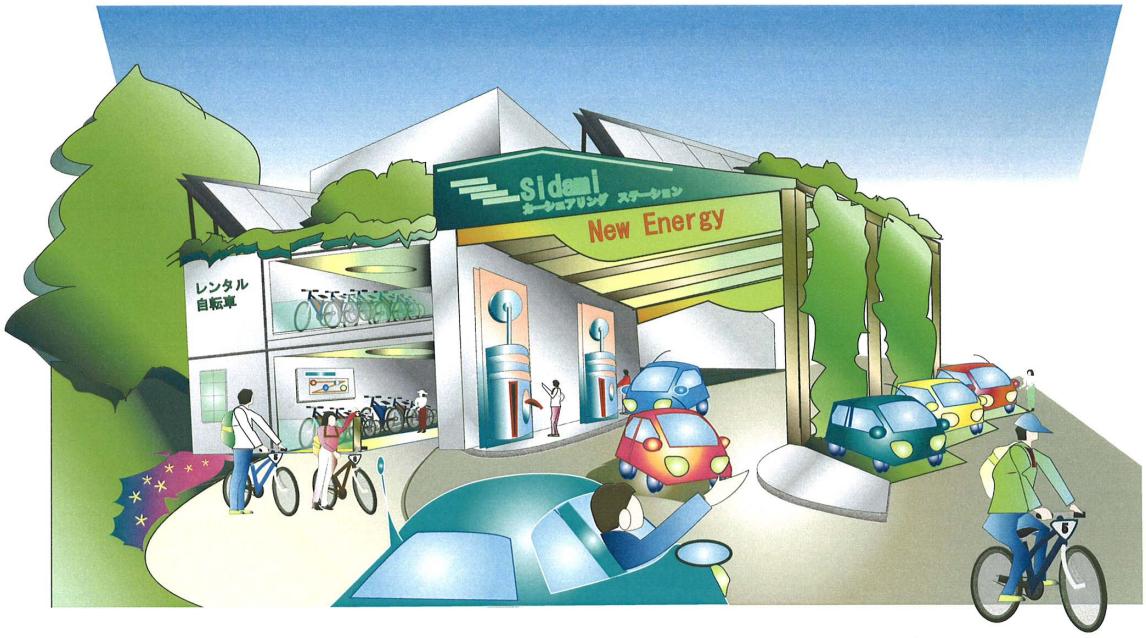


図４－１０　下志段味地区　「環境・省エネ」のイメージ

レンタサイクルとカーシェアリングのステーションの風景である。屋上や壁面を緑化し、環境と

景観に配慮したデザインとなっている。また、ソーラーパネルを設置し電力を負担できるようになっている。カーシェアリング用の車は電気を主原動力としたエコカーであり、カーステーション内にあるマシンは、エコカーのためのセルフ充電施設である。また、自転車は、名古屋市内の放置自転車を活用することで、環境にも配慮している。なお道路はコンクリートやアスファルト等ではなく自然石や木チップなどが用いられ、自然の中に溶け込むことを容易にしている。

（５）リーディングエリア４（テーマ：食・農）

食の安全と自給自足の中心的な役割を果たすエリアとして位置づけ、集合農地区を活用し、農を中心としたコミュニティをつくる。

①循環型地産地消システムの展開

集合農地区を中心にして市民農園を開設し、住民が土に触れ自然を感じ、安全な食物を食べることができる機会を増やすとともに、近隣の農業従事者に野菜栽培などのアドバイスを依頼し、地区のコミュニケーションを充実させる。また、志段味地区で生産された野菜などを生産者が直接または地区内のスーパーなどと連携して販売できるようにする。さらにスーパーや飲食店などから排出される生ごみをコンポストでたい肥化して地区で使用するなど、環境に配慮した循環型の地産地消システムを展開する。

なお、農地を将来住宅として整備する場合は、住宅を建てる施主と建築業者に向けて田園風景の中での景観に配慮した形の住居モデルを推奨する。また、農地に建てなくてもよいように居住エリアで農業を行いたい人との土地の交換を斡旋するなど、土地の利用形態についても相談を行う。

②在来植生の推進

志段味地区には、マメナシやシデコブシなどこの地方固有の樹種も残されているが、昨今、外来種によってもともとの植生が淘汰されるなど生態系の混乱が各地で報告されている。そこで、地区の植生を守り次世代に引き継いでいくため、アドバイザー会議が中心となった勉強会の開催やリーフレットの配布などによって、このような危機的状況の理解を広め、住宅地においても在来種による植栽を実践してもらうよう働きかけを行う。一方で、公共エリアでは率先して在来種による植栽を実施する。また、地区内のホームセンターのガーデニングコーナーや農家などと連携し、地域で採取した種から苗木を生産して販売をするような仕組みを進める。

図４－１１　吉根地区の集合農地区

図４－１２　吉根地区　「食・農」のイメージ

市民農園に近いこのエリアでは、新しく志段味に住み始めた住民と古くから住んでいる住民が農作物を作っている。市民農園を借り農業に挑戦している新住民が、指導係である農家へ質問したり、アドバイスをもらったりする事ができるようになっており、農業が続けやすくなっている。また、この農家と新住民相互のコミュニケーションによって新しいコミュニティが発達していく。

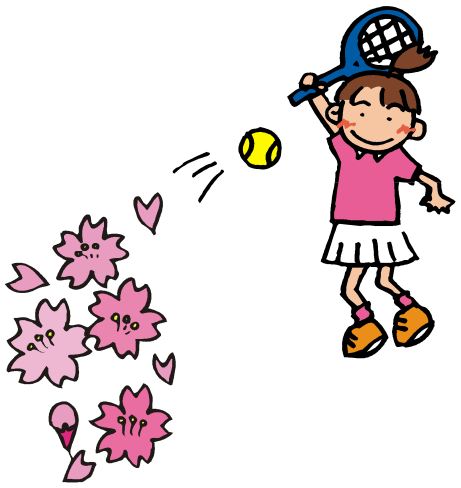
４－５　新しいライフスタイルの考察

これまでの検討内容に基づき、１５年後に志段味地区で暮らす ４ 人家族の物語をつくり、新しい生活スタイルをイメージした。

守山家の生活

守山さん一家は都会に暮らしていたサラリーマン家庭です。賃貸マンション住まいだった守山さんが一戸建ての夢をかなえられる余裕が出来て、たまたまネットで探し当てた下志段味の一画に居を構えてから、この春で３年が経ちました。現在は西暦２０１８年で、ここのところは地球温暖化の影響で異常気象による災害が世界各国で発生しています。そんな世の中ですが独自のライフスタイルを楽しんでいる家族が守山さん一家です。では守山さんのライフスタイルを覗いてみることにしましょう。

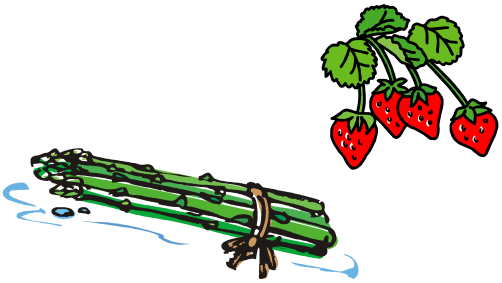
朝７時３０分、行ってきますと言いながら小走りにバス停に向かうお父さんは４６歳の春男（ハルオ）、少しメタボリックなビール腹が気になっている今日この頃です。会社への通勤にライドシェア（相乗り）で行くか、カーシェアリングを利用するかといろいろ迷っていたところでしたが、一昨年から運行が始まった新規バス路線で尾張旭駅に向かうこととしました。

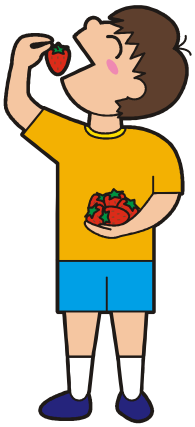


続いて中学２年生の娘が走り出てきました。学校ではテニス部に入ってレギュラーになろうと一生懸命ですが、都会にいるときからの花粉症が春になると始まってしまいます。花粉は嫌だが花は好きという夏（ナツ）は１４歳。

最後に玄関を出てきたのは小学校５年生の息子で友達と探検クラブを作ってトレジャーハンターを気取っています。活発で何にでも興味を示す秋斗（アキト）は１１歳。

家の中ではお母さんが朝食の片付けをしながら鼻歌気分でルンルンです。どうやらどこかにお出かけの予定があるようです。いつもはみんなを送り出した後に薬局へパートに向かうのですが、本日のシフトは休日となっているのです。お楽しみは近所の奥様とのスイーツパーティのようです。食べることは大好きですが、いつまでも美しくありたいと願う冬子（トウコ）は４０歳です。





こんな守山さん一家がお休みを利用して花見ウォーキングを企画しました。言い出しっぺはメタボ予備軍のお父さんです。

「冬子ママ、東谷山のしだれ桜が見ごろらしいからハイキングがてら花見に行こうよ、何でもフルーツパークでは季節限定のパフェフェスティバルをやってるらしいよ」

「そうね、メタボのパパもたまには運動しなきゃね」

「うわっ、きびしいこというねえ、ナツもパフェスイーツ食べたいだろ」

「うん、ママおいしいお弁当作ってよ、お庭にアスパラがたくさん出てたでしょ」

「そうね、市民農園の温室にイチゴも少しはあると思うし」

すると、息子のアキトが嫌な顔をして言いました。

「ナメクジついているんじゃないの」

「大丈夫、この前お向かいのおじいさんがナメクジよけの秘策を教えてくれたもの」

「そういえば、ナツ、歴史の試験がどうのって言ってなかった？」

「言っていたけど、歴史の里が近いから実地勉強になると思うわ。私だけおうちで勉強はご勘弁ね」

「歴史の里って古墳とかあるんでしょ。宝物埋まっていないかなあ」

「アキトは宝捜しがしたいのか。だけど古墳は大切な文化財だからそっとしておかなきゃダメなんだよ」

ちょっとガッカリしながらもアキトはやはり一家で出かけるのが楽しみな様子です。

いよいよ当日となりました。

自宅にある家庭菜園と市民農園で自分の区画で採取した野菜と直売所で分けてもらったものでお弁当を作り、地域の人たちでネーミングを考えたと言われる“ふれあい回廊”を通って東谷山へと向かいました。

以前は人通りの少なかった区画整理内の散策路ですが、ふれあい回廊と命名されてからは５０ｍから１００ｍおきぐらいにミニ花壇や一風変わった陶器の置物などがあって、立ち止まって見ている人が増えてきたようです。東名高速の下を潜る地下道部分には、何年か前に行われたイベントで夏お姉ちゃんが描いた壁画があり、とても明るい雰囲気になっています。

「ママ、見て見て、そこから東谷山のしだれ桜がキレイに見えるよ」

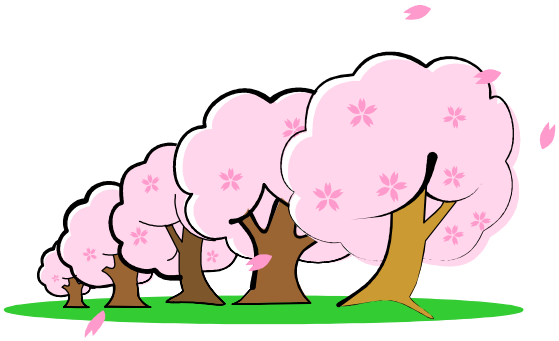
「ほんとね、とっても幸せな気分になれるわね」

一方お父さんは

「よし、万歩計ＯＫ。あとは気持ちよく汗をかいて帰って一杯飲むばかり」

「なに言ってるの。そんなことしたら元も子も無いじゃない」

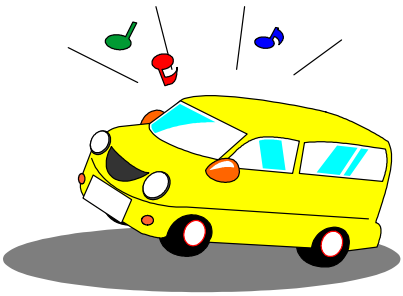
と冗談も出ながら進んでいくと東谷山フルーツパークのステーションから来たと思われるレンタルサイクルに乗った若者ともすれ違いました。



歴史の里に近づいてくると古墳の廻りの雑木林で下草狩りをしているおじさんと、その近くの家の家庭菜園で野菜くずを穴に放り込んでいるおばさんに会いました。何にでもすぐに興味を示すアキトはおばさんのところに駆け寄って

「何してるんですか」

おばさんはなにやら粉のような物を、先程の野菜くずを放り込んだあなに入れながら



「これかね、これはコンポストと言うて、野菜くずや生ゴミをこの中に入れておくと肥料ができるんだよ、この粉はボカシといって微生物を元気にする役目があるんだよ」

「すごい、自然の力は不思議だね」

「アキト、家にもタイプは違うけど箱型の生ゴミ処理機があるでしょ」

「そうなんだ、知らなかった」

「じゃあ、明日から生ゴミ処理担当はアキトに決定」

ママの張り切った声になんとなく嬉しげなアキトでした。

散策をし、スイーツパフェを食べ、しだれ桜を堪能した守山さん一家は庄内川の向こうに夕日が沈む頃我が家にたどり着きました。

翌週の水曜日にアキトの小学校では環境学習の授業がありました。

学校の前の野添川でビオトープについて授業を受けた後、すぐ近くのヒノキ薬局研究所にある薬草園の展示コーナーへ行ってここでも植物のもつふしぎな力（薬効）に驚かされました。最後に薬局の方が

「放課後来ればゆっくりできますし、今度の日曜にはイベントがあるから遊びに来てください」

と、家族をつれて参加すると楽しいことがあるといっていました。何でも、おなかのすっきりする薬草成分、お肌がきれいになる薬草など。ママのためのイベントのように思えるアキトでした。

ナツは中学になってからは、薬局に勤めているママの薦めもあって環境サイエンス教室に毎回参加しています。オープンカフェの様な素敵な丸テーブルでハーブティーを飲みながらの自然科学の勉強会は、最初こそ面倒でしたが、徐々にその不思議な魅力に引きずり込まれてきていました。おかげで学校の科学の成績は右肩上がりとなってきています。最近では薬剤師でも目指すかなと真剣に考え始めたりしていますが、それには苦手な数学を頑張らなければならないのでした。

冬子ママはパートの帰りに CO_2 地産地消事業の一環として環境ライフスタイルアドバイザーの認定を受けるためのポイント申請をするため、ふれあい相談室に来ていました。

「こんにちは、守山冬子さんですね、CO_2 削減ポイントの申請ですね」

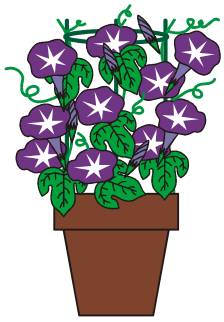
「はい、今回は隣のモデル住宅で見学した朝顔による緑のカーテンを作りました。夏の間にエアコンを使用する時間が随分と軽減できたので、ポイント換算が楽しみです。」

「そうですね、もう少しで環境生活支援ローンへの借り換えが可能になりそうですね。がんばりましょう。それから環境アドバイザー会議のメンバーにも登録されますから出席案内の通知がありますのでお願いしますね。」

「環境アドバイザー会議ではどのようなことが話し合われるのですか」

「住宅の壁面緑化や屋上緑化がまちのデザインにマッチするようにデザイン・ガイドラインを作成したり、企業の方との生態系の検討会や子供たちに知ってもらうためのイベントを企画したりと盛りだくさんなんですよ。健康食品やアトピー対策みたいな身近なことや志段味ワインの試飲会なんかの楽しみもあるから来てくださいね。」

相談員の方の笑顔で、夏の間中、世話を続けた朝顔のことを思い出して達成感を味わうことが出来ました。



ちょうどそこへ電気自動車のエコカーシェアリングを利用したパパが近所の人と相乗りして帰宅してきました。電気自動車をステーションに接続して相談所内にある窓口にキーを返却するところへ冬子ママが声をかけました。た。

「お帰りなさい、エコカーだとゆったり運転みたいね」

「ああ、それもあるけど自分のせいかもね」

と、ぽっこりお腹をさすりながらにっこりと笑いかけました。

「パパ、今度の休みは鍬を持って市民農園で耕作ダイエットとしゃれ込みますか」

「そうだね、食物事情の悪化で野菜は高いし、農薬が不安だからな」

かくして次の休日は集合農地区内にある市民農園で守山さん一家を見かけることとなりました。

「お向かいのおじいさん、今日も教えに来てくれてるみたい。自分の畑もあるのに助かるわ」

「早速畝の作り方を教えてもらおう」

と、パパは鋤を手にお向かいのおじいさんのところへ駆け寄っていきました。

市民農園の隣にはいかにも田園風景にマッチしたデンマーク風の家屋が建っており、その前庭には充分に管理されて、かなり多くの種類の作物が植えられている家庭菜園がありました。

また、市民農園の一角にある東屋風の休憩所には大きな木製のテーブルがあり、その上に生産者の名前付きの野菜が並べられており直売所となっています。

その横では広く畑をやっている農家の方が、志段味にある食品スーパーの人となにやら相談をしているようです。

「おやじさん、もう少し量を作れないかねえ」

「いやあ、有機栽培で手塩にかけて作ってるからこれ以上は無理だよ」

「そうだよね、品質を落としてもダメだしね、だけどおやじさんの野菜は人気あるんだよね、顔写真入りの生産者カード付きで店に並べてあるから見にきてよ」

「ちょっとはずかしいかなあ」

そんな会話を聞いていたパパ

「よっしゃ、おれも目指せ顔写真カード」

とつぶやきながらも、腰をさすってオーバーヒート気味でした。

一緒についてきたアキトが借りている市民農園の一画を見て奇声を上げて言いました。

「パパ、去年森林公園で拾ってきたどんぐりが芽を出してる」

「ほんとだね、コナラかアベマキかもしれないね」

「ここで大きくなったら大変だからお家の庭に植え替えようか」

ママが思い出したように言いました。

「そういえばホームセンターのガーデニングコーナーで現存植生のなえを売っていたわ。なんでも生態系の保全にとってはきわめて重要な事だとか、だったよねナツ」

「そうよ、外来種を植えたりすると外来種には丈夫で繁殖力が強い種が多いからもともとの植生が淘汰されて生態系が狂ってしまい環境への悪影響が深刻化するのよ」

つい最近環境サイエンス教室で勉強したばかりの知識を自慢下に披露するナツが、年齢よりも大人びて見えました。

参考文献

・名古屋市「志段味ヒューマン・サイエンス・タウン整備計画」
・名古屋市「志段味地区特定土地区画政治事業の概要」（パンフレット）
・名古屋市「未来を拓く研究開発拠点　なごやサイエンスパーク」（パンフレット）
・財団法人名古屋都市整備公社「志段味Ｗａｌｋｉｎｇ」（パンフレット）
・名古屋市「名古屋新世紀計画 2010」「名古屋都市計画マスタープラン」http://www.city.nagoya.jp/
・春日井市「第四次春日井市総合計画」「春日井市都市計画マスタープラン」http://www.city.kasugai.lg.jp/
・瀬戸市「第 5 次瀬戸市総合計画」「瀬戸市都市計画マスタープラン」http://www.city.seto.aichi.jp/
・尾張旭市「尾張旭市第四次総合計画」：http://www.city.owariasahi.lg.jp/
・財団法人名古屋都市センター「平成 18 年度　市民研究報告書（東区・守山区）」

Ⅲ　資料編

生活についてのアンケート【スクリーニング】

SC1　さっそくですが、「あなたご自身」ないし「ご家族の方」がお勤めの業種として、あてはまるものを次の中からお知らせください。（〇はいくつでも）

白い文字の業種：除外業種　⇒該当した時点で対象外になります

1　農林漁業
2　鉄鋼/金属
3　自動車/輸送機器
4　機械/電機/電子
5　化学/石油/薬品
6　繊維/衣料
7　土木/建設
8　住宅
9　電気設備/ガス設備
10　水道設備
11　化粧品・トイレタリー製品・食品
12　その他の製造業
13　繊維/衣料卸売・小売業
14　食品卸売・食品小売業
15　その他の卸売・小売業
16　飲食業
17　金融・保険業
18　電気・ガスなどのエネルギー供給業
19　マスコミ・広告・プロダクション
20　経営等のコンサルティング・シンクタンク・市場調査
21　官公庁・行政機関
22　その他のサービス業
23　自由業
24　この中には1つもない【背反】

改頁

SC2　あなたの性別をお知らせください。　（〇は1つだけ）

1　男性
2　女性

SC3　あなたは現在ご結婚なさっていますか。　（〇は1つだけ）

1　結婚していない
2　結婚している

SC4　あなたの年令をお知らせください。　（〇は1つだけ）

1　19才以下
2　20～29才
3　30～39才
4　40～49才
5　50～59才
6　60～69才
7　70才以上

SC5　あなたのご職業をお知らせください。　　（○は1つだけ）

1　会社員（派遣・契約も含む）
2　公務員（教員含む）
3　団体職員
4　経営者・団体役員
5　商・工・サービス自営
6　自由業
7　パート、アルバイト
8　専業主婦
9　学生
10　その他

SC6　あなたが現在お住まいの都道府県名お知らせください。　　（○は1つだけ）

都道府県名をプルダウン
↓
愛知県居住者に、市・郡レベルで居住地を質問
↓
名古屋市居住者に、居住区を質問

改頁

SC7　あなたは、名古屋市守山区にある**「志段味(しだみ)」**という地域をご存知ですか。　【SA】

注）
「志段味」に該当する地域

①学区では…
「志段味東小学校」「志段味西小学校」「吉根小学校」の各学区が該当します。

②町名では…
「大字上志段味」「大字中志段味」「大字下志段味」「吉根（きっこ）」という町名などが該当します。

1　現在、志段味に住んでいる：守山区居住者のみチェック可能
2　過去に、志段味に住んだことがある
3　志段味に行ったことがある（住んだことはない）
4　志段味という地名は知っている
5　聞いたことはない

生活についてのアンケート【本調査】

【全員】

問 1 さっそくですが、あなたは「志段味(しだみ)」と聞いて、最初に思い浮かぶのはどのようなことですか。
どのようなことでも結構ですので、できるだけ詳しくお知らせください。 【FA】

改頁

【全員】

問 2 「志段味(しだみ)」について、あなたがご存知のことを、次の中からすべてお知らせください。
【MA】

1	東谷山がある	8	東名高速道路の守山パーキングエリアがある
2	東谷山フルーツパークがある	9	名古屋国際学園（インターナショナルスクール）がある
3	庄内川が流れている	10	サイエンスパークがある
4	大久手池など多くのため池があり、野鳥が集まっている	11	しだれ桜がある
5	白鳥塚古墳など、多くの古墳群がある	12	ホタルの群生地がある
6	志段味スポーツランドがある	13	その他 具体的に:
7	ガイドウェイバスが通っている	14	ひとつもない

改頁

【全員】

問 3 あなたは「志段味(しだみ)」について、どのような印象をお持ちですか。
できるだけ詳しくお知らせください。 【FA】

改頁

【全員】

問 4　「志段味(しだみ)」という地域に、あなたはどのような印象をお持ちですか。
次の中からあてはまるものを、すべてお知らせください。　【MA】

1　日常の買い物が便利な街
2　娯楽施設が充実している街
3　公共交通が利用しやすい街
4　車で移動しやすい街
5　身近なところに豊かな自然がある街
6　自然を感じながら生活できる街
7　教育施設が充実している街
8　先端的な研究が行われている街
9　治安のよい街
10　おしゃれな雰囲気の街
11　閑静な街
12　賑やかな街
13　子育てがしやすい街
14　地元住民同士の仲がよい街
15　地域イベントが盛んな街
16　環境に配慮している街
17　文化施設、レジャー施設が充実している街
18　スポーツ施設が充実している街
19　歴史のある街
20　観光名所が充実している街
21　その他　具体的に:

改頁

【全員】

問 5　あなたは今後「引越し」や「住み替え」などの予定がありますか。　【SA】

1　実際に引越し・住み替えの予定がある
2　引越し・住み替えを検討している
3　将来的には引越し・住み替えを考えている
4　引越し・住み替えなどは考えていない

改頁

【全員】

問 6　あなたが今後「引越し」や「住みかえ」を行う場合、「志段味(しだみ)」という地域を居住地として選択することに、どの程度魅力を感じますか。【SA】

次の中からあてはまるものをお知らせいただき、その理由も併せてお知らせください。

※住宅の予算などを除き、居住地として魅力を感じるかどうか？という形でお答えください。

1　魅力を感じる
2　どちらかというと魅力を感じる
3　どちらかというと、魅力を感じない
4　魅力を感じない

改頁

【全員】

問 7　あなたは、どのような「街」で暮らしたいと思いますか。【MA】

次の中から、あてはまるものをすべてお知らせください。

1　日常の買い物が便利な街
2　娯楽施設が充実している街
3　公共交通が利用しやすい街
4　車で移動しやすい街
5　身近なところに豊かな自然がある街
6　自然を感じながら生活できる街
7　教育施設が充実している街
8　先端的な研究が行われている街
9　治安のよい街
10　おしゃれな雰囲気の街
11　閑静な街
12　賑やかな街
13　子育てがしやすい街
14　地元住民同士の仲がよい街
15　地域イベントが盛んな街
16　環境に配慮している街
17　文化施設、レジャー施設が充実している街
18　スポーツ施設が充実している街
19　歴史のある街
20　観光名所が充実している街
21　その他　具体的に：

改頁

【全員】

問 8　あなたが**興味を感じる「ライフスタイル」**とは、どのようなものですか。
次の中から、あてはまるものをすべてお知らせください。　【MA】

1　野菜などを自家栽培する生活
2　地産地消を享受できる生活
3　できるだけ環境に負荷をかけない生活
4　自然が身近に感じられる生活
5　省エネに配慮した生活
6　自分の教養を高める生活
7　娯楽やレジャーを積極的に楽しむ生活
8　地域の自治活動への参加
9　地域のサークル活動への参加
10　自然環境を守る活動への参加
11　緑化活動への参加
12　歴史・遺跡を守る活動への参加
13　その他　具体的に:

改頁

【最後にあなたご自身についてお知らせください】

FS1　通勤先　※現在働いている人のみに質問
ご主人の通勤先　※専業主婦の方にはこの文章を表示

1　名古屋駅や伏見・栄などの都心
2　守山区内
3　1・2 を除く名古屋市内
4　春日井市内
5　尾張旭市内
6　瀬戸市内　具体的に:
その他

FS2　あなたの出身地

1　名古屋市守山区
2　上記以外の名古屋市内
3　春日井市内
4　尾張旭市内
5　瀬戸市内
6　他の愛知県内の市町村
7　愛知県外

FS3　住居形態

1　持家一戸建
2　分譲マンション
3　借家一戸建
4　賃貸マンション・アパート
5　社宅・官舎
6　その他

FS4　現居住地での居住年数

1　1 年以内
2　2 年以内
3　3 年以内
4　4 年以内
5　5 年以内
6　6 年以内
7　7 年以内
8　8 年以内
9　9 年以内
10　10 年以内
11　それ以上

FS5　家族構成

1　単身（本人のみ）
2　夫婦のみ
3　親との2世代同居（本人は子ども世代）
4　子どもとの2世代同居（本人は親世代）
5　親・祖父母と本人世代の3世代同居（本人は孫にあたる世代）
6　親・子どもと自分世代の3世代同居（本人は中間に位置する世代）
7　子ども・孫と自分世代の3世代同居（本人は祖父母にあたる世代）
8　その他　具体的に：

デザイン・ガイドラインの構想（案）

志段味地区　住まいと緑の居住地デザイン・ガイドラインの構想（メモ）　080327

中部大学　　佐藤　圭二

1．居住地像

- 名古屋郊外の丘陵地：水と緑に囲まれた地域の新しいコミュニティづくり

2．デザインガイドの骨子

1）水と緑を背景とした、新しい水と緑の街
2）新しい居住地コミュニティ像：近隣コミュニケーションと安心な（防犯）コミュニティ
3）安全な街路と公園広場のネットワークづくり

3．具体的なガイドライン

1）水と緑

- 森と湖（池）を背景とすること（丘陵の稜線を守る；森近くでの高層建物等の禁止）・農地の扱い？
- 森と湖（池）に繋ぐ水の道、緑の道を計画・演出する（新しいため池、残す森と既存樹木群の設定）：農地に繋げる？
- 幹線道路・地区内サービス道路・アクセス道路の区分とそれに対応した道の緑化（3）安全な街路と‥ネットワーク参照）
- 居住地の街並み空間（囲み空間・または・集落空間）の緑のデザイン（2）安全な近隣コミュニティ参照）

2）新しい居住地コミュニティ像

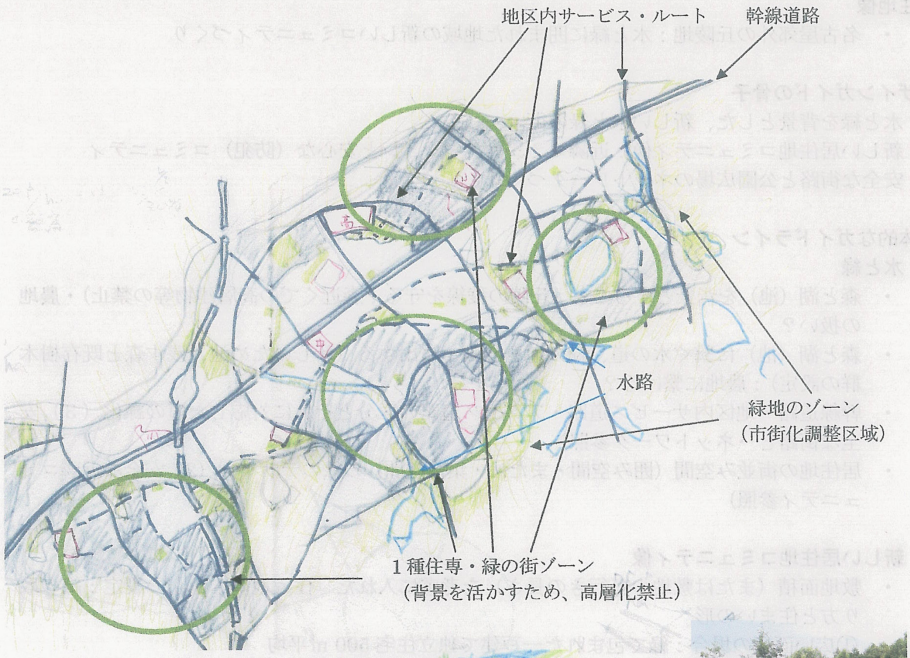
- 敷地面積（または敷地の奥行きの長さ）を考慮に入れた「住宅地基本像」の設定：緑の取り方と住まいの形
  ①広い面積の場合：緑で包まれた一戸建て独立住宅 500 ㎡平均
  ②中ぐらいの面積：２戸分を繋げた擬似一戸建て住宅地 300～250 ㎡平均
  ③200 ㎡以下の面積の場合：なるべく奥行きを深くして、連続させる町並み型住宅地
  ④幹線道路沿い：建物形態と緑の調和（特に大規模建築敷地）
- 通りを囲む（挟む）近所付き合い促進空間のすすめ（アクセスを共有、玄関を向ける）
- 通りを自然に監視する「自然な防犯機能」を持つ居住配置のすすめ（通りに窓とバルコニーを向ける）
- 駐車スペースと緑のスペースを前庭に配置する緑化空間のすすめ（南も北も）
- 逆に完全なプライヴェートな庭の確保の進め（裏路地は間違い）
- 必要ならば、建築のデザインのガイドもする。プライヴァシーを守りながら大きな窓を作る方法・・・・統一感をもちながら個性的である街並みなど・・・

3）安全な街路と公園広場のネットワーク

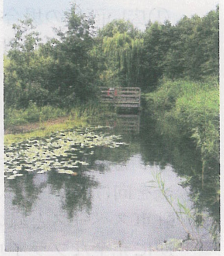
- 幹線道路（志段味線を除く）16m？：緑化する。40km／h
- サービス道路 12m？：歩道を一部緑化する。コーナーに高木・中木　アクセス道路
- アクセス道路６～８m？：道路の入り口に高木、車路線を狭くする（シケイン）その他の方法で車の進入を制限し、安全を確保する。
- 公園の周りの住宅は公園を見つめる。交差点（ノード）に接する住宅はノードへ向け窓・バルコニーを開放する。交差点(ノード)はコミュニティへの入り口であることを示すように樹木や建物の形を考慮する。
- 駐車場の配置を考える。各敷地には１台分のみとし、通りに直角に置く。できれば共有地をとり２台目はここに置く。さらにできれば、駐車場は敷地の奥か建物の下に隠す（車がないこと：留守であることを分らせない：自然な防犯機能）。

1

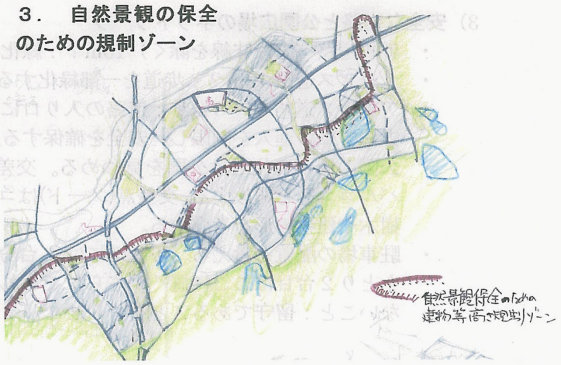
1. 水と緑に囲まれた住まいづくりの構想



2．水と緑のネットワーク計画概念図

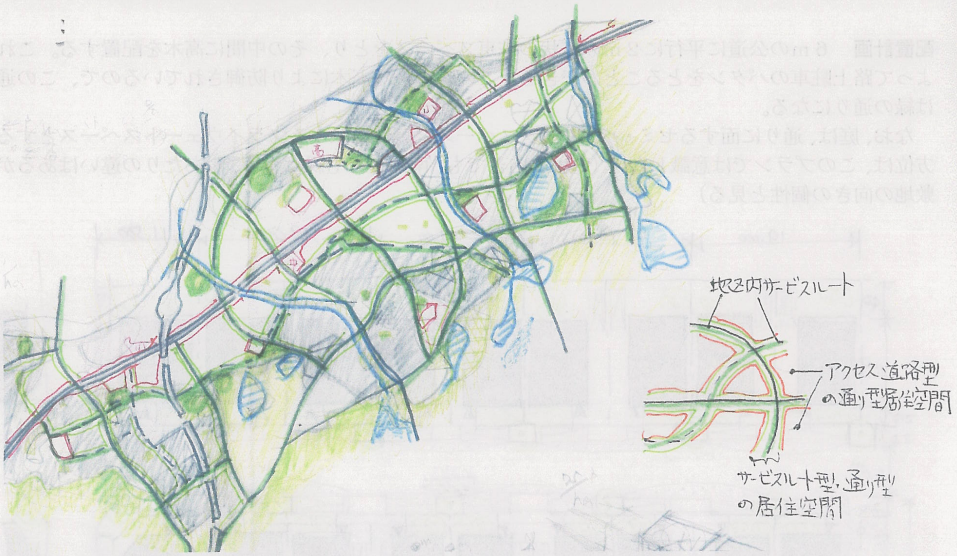


3．　自然景観の保全のための規制ゾーン

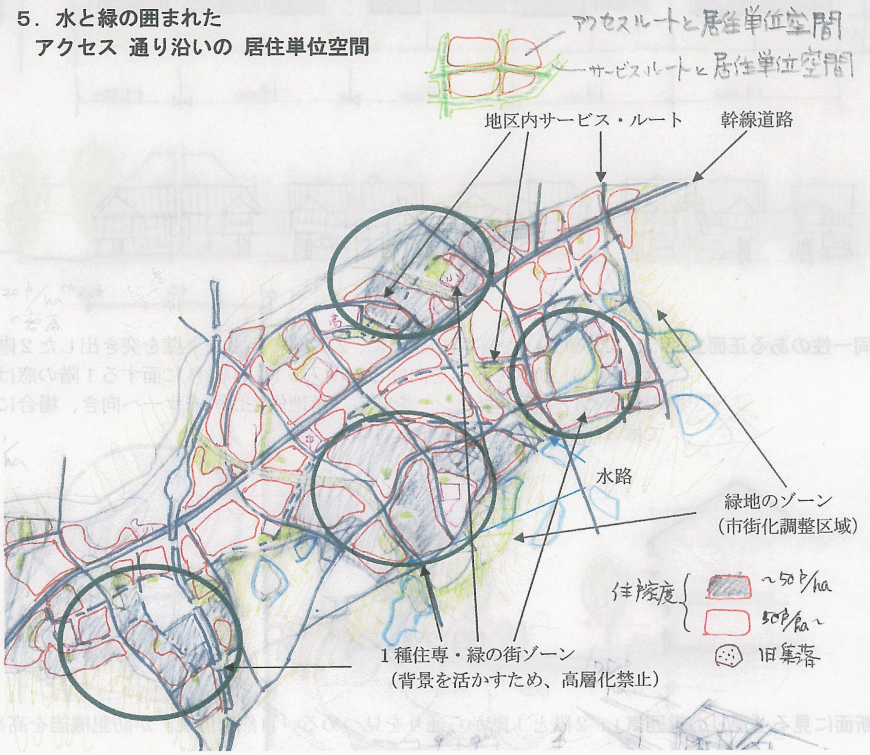


2

４．地区サービス道路路線とサービス路線沿いの通り型居住空間



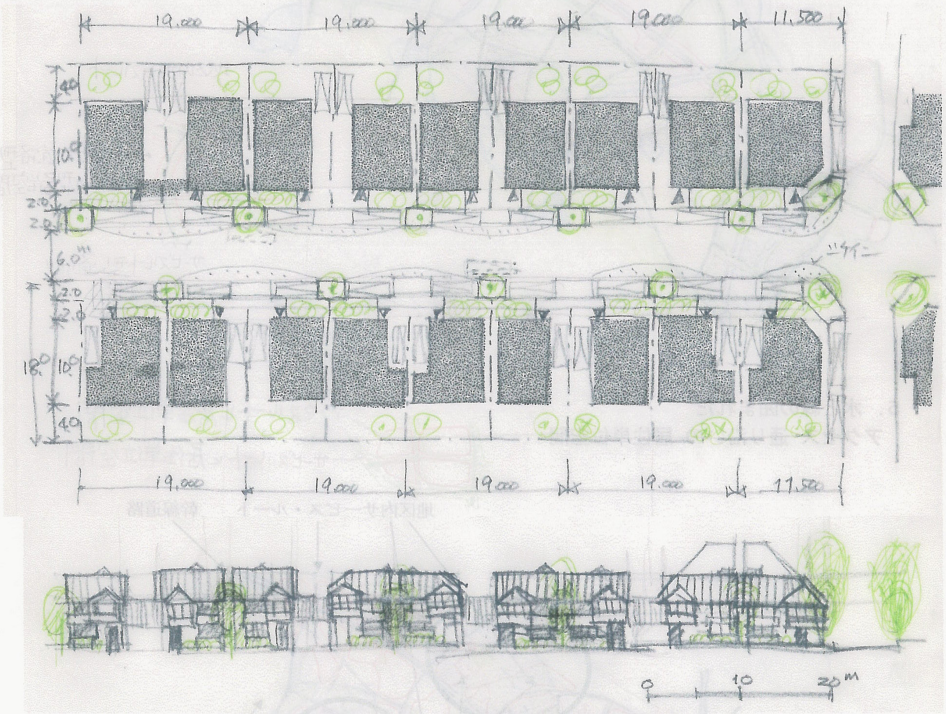
５．水と緑の囲まれた
アクセス 通り沿いの 居住単位空間



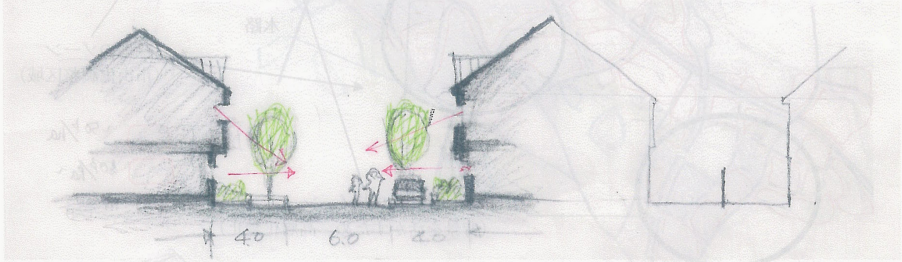
６．緑の居住地モデル：アクセス通り型　：基本型　平均敷地面積 171 ㎡
住戸面積 130～150 ㎡（２階建て）

配置計画　６ｍの公道に平行に２ｍの帯状の駐車スペースをとり、その中間に高木を配置する。これによって路上駐車のパタンをとることができる。この駐車帯は高木により防御されているので、この通りは緑の通りになる。

なお、庭は、通りに面するセミ・パブリックスペースと裏に確保するプライヴェートスペースとする。方位は、このプランでは意識しない（庭は北向きでも、南向きでも緑は育つ、陽あたりの違いはあるが、敷地の向きの個性と見る）

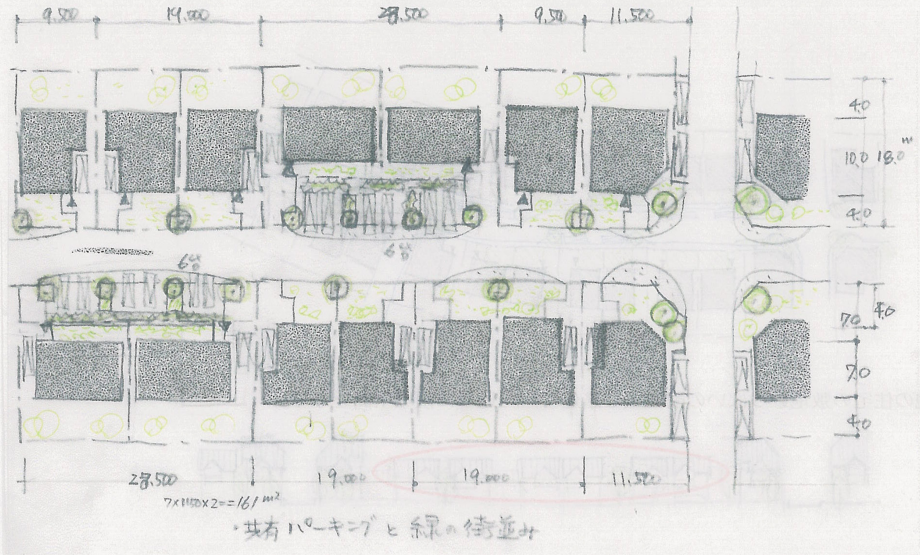


同一性のある正面立面：1）伝統的な４寸勾配の屋根に、2)西欧の小さな妻壁を突き出した２階のベランダ、3）通りに正面を向ける玄関入り口、4)通りに面する１階の窓は縦長の桟をつけプライヴァシーを守る。角地住宅はコーナーへ向き、場合によっては３階建てにする（変化と目印）。



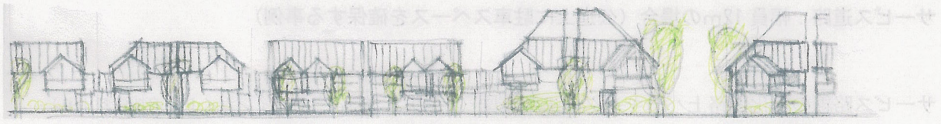
断面に見る「通りの雰囲気」：２階と１階から通りを見つめる「自然な監視」が防犯機能を高める。

7．緑の居住地モデル　アクセス通り型　共有駐車場タイプ　：敷地面積 171 ㎡～199 ㎡
住戸面積 130～160 ㎡（２階建て）

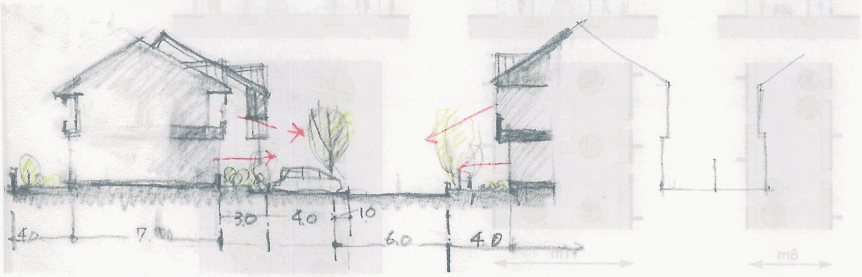


配置計画：　通りの中程に、共有の駐車スペースを取り、6 台の駐車と高木４本を配置する（2 箇所、１ｍのシケインを公道に取り、駐車の奥行きを５ｍと助ける）。他に高木を２戸に１本と角地の敷地に各１本配置する。駐車は平均２台分になる。

庭は、通りに面するセミ・パブリックスペースと裏に確保するプライヴェートスペースとする。方位は、このプランでは意識しないことは、６．基本型と同じである。



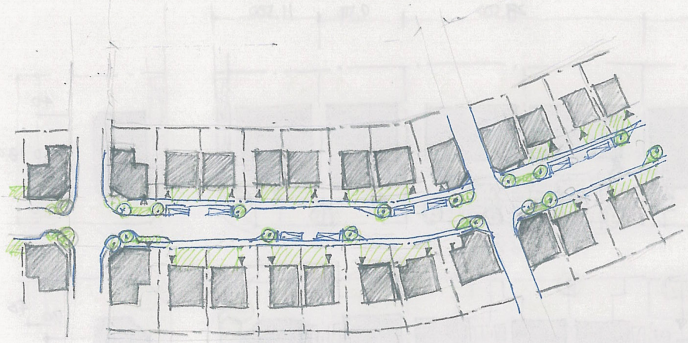
同一性のある正面立面：1）伝統的な４寸勾配の屋根に、2)西欧の小さな妻壁を突き出した２階のベランダ、3）通りに正面を向ける玄関入り口、4)通りに面する１階の窓は縦長の桟をつけプライヴァシーを守る。角地住宅はコーナーへ向き場合によっては３階建てにする（変化と目印）。



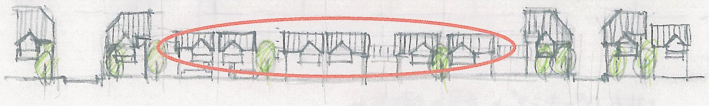
断面に見る「通りの雰囲気」：２階と１階から通りを見つめる「自然な監視」が防犯機能を高める。

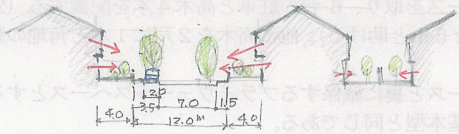
8．サービス　路線沿い　居住空間のモデル（路線パーキング付き）

敷地面積平均 200 ㎡　道路幅員 12m の場合



角地の住宅の敷地いっぱいの配置（３階建て）で通りに領域空間を取る。





サービス道路：幅員 12mの場合（公道上に駐車スペースを確保する事例）

サービス路線の緑化と路上パーキングのモデル図（イギリス　Essex　デザインガイド　追加資料より）

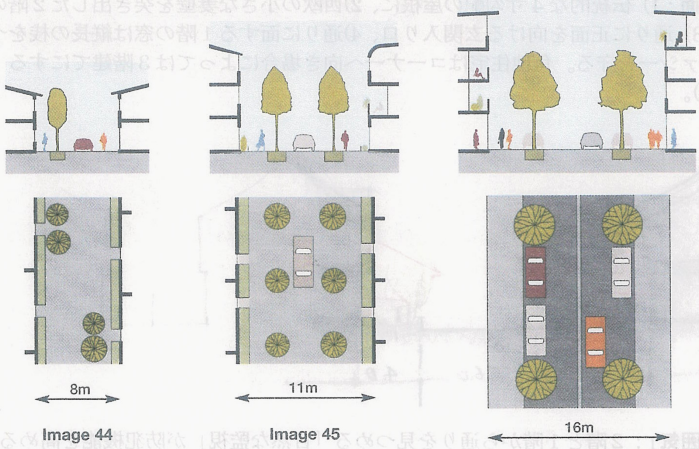


Image 44　Image 45

研究会について

1　研究会の開催

第１回	平成 20 年 2 月 25 日
第２回	平成 20 年 3 月 17 日
第３回	平成 20 年 3 月 27 日

2　研究会の構成

五十音順

氏　　名	所　属　等
青木　真理	（株）宅地開発研究所名古屋支所 主任技師
石原　宏	（財）名古屋都市センター 調査課長
伊藤　智和	（株）宅地開発研究所名古屋支所 執行取締役支所長
上田　剛	名古屋市市民経済局産業部産業育成課 産学連携推進係長
大塚　一郎	名古屋市守山区区民生活部まちづくり推進室 主査（安心・安全で快適なまちづくりの推進）
佐藤　圭二	中部大学工学部建築学科 教授
清水　敏治	（財）名古屋都市センター調査課 研究主査
長嶋　利久	名古屋市総務局企画課 主査（企画）
原　佳宏	（株）電通中部支社営業統括局プロジェクト推進部 プロデューサー
横地　玉和	住宅都市局都市計画部都市計画課 都市計画係長

あとがき

この調査研究では、名古屋市の端に位置し、鉄道駅もなく、生活の利便性が高いとは言えない志段味地区について、どうしたら特徴のある魅力あるまちづくりを提案できるだろうかということで考察を進めました。そして、多少の不便はあっても志段味の持つ自然的環境を享受することを志向する人々が集うまちづくりが必要ではいか、それこそが環境の世紀と言われるこれからの新しいまちの姿なのではないかという感じを強く持ちました。今後、提案したまちの将来像への取り組みが、一つでも二つでも、志段味のまちづくりを考える上で参考にしていただければ幸いに思います。

最後になりましたが、調査研究にあたっては、研究会にご参加いただきました皆様に貴重なご意見をいただきました。また、名古屋市の関係課の方々には、基礎的なデータや施策・事業に関する情報を提供していただきました。この場をお借りしまして、感謝を申し上げます。

（財）名古屋都市センター
研究主査　清水　敏治